

大熊町 住民意向調査 報告書

平成27年3月

復興庁
福島県
大熊町

大熊町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 現在の住居形態	23
3-1-6 現在のペットの飼育状況	27
3-2 復興公営住宅の入居意向	28
3-2-1 復興公営住宅への入居意向	28
3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成	32
3-2-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス	36
3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態	38
3-2-5 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体	40
3-3 将来の意向	42
3-3-1 大熊町への帰還意向	42
3-3-2 大熊町との“つながり”を保ちたいか	47
3-3-3 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報	49
3-3-4 大熊町への帰還時期	54

3-3-5	大熊町へ戻る場合の家族	56
3-3-6	大熊町へ帰還する場合の住居形態	58
3-3-7	大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	61
3-3-8	大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	62
3-3-9	現時点で戻らないと決めている理由	64
3-4	意見・要望	67
IV	参考資料	87
4-1	使用調査票	89

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、大熊町住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	大熊町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 5,353 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成26年9月19日（金）～平成26年10月3日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、大熊町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 2,825 世帯（有効回収率 52.8%）

1-5 報告書の見方

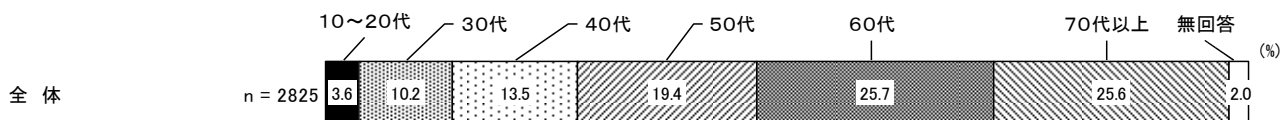
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

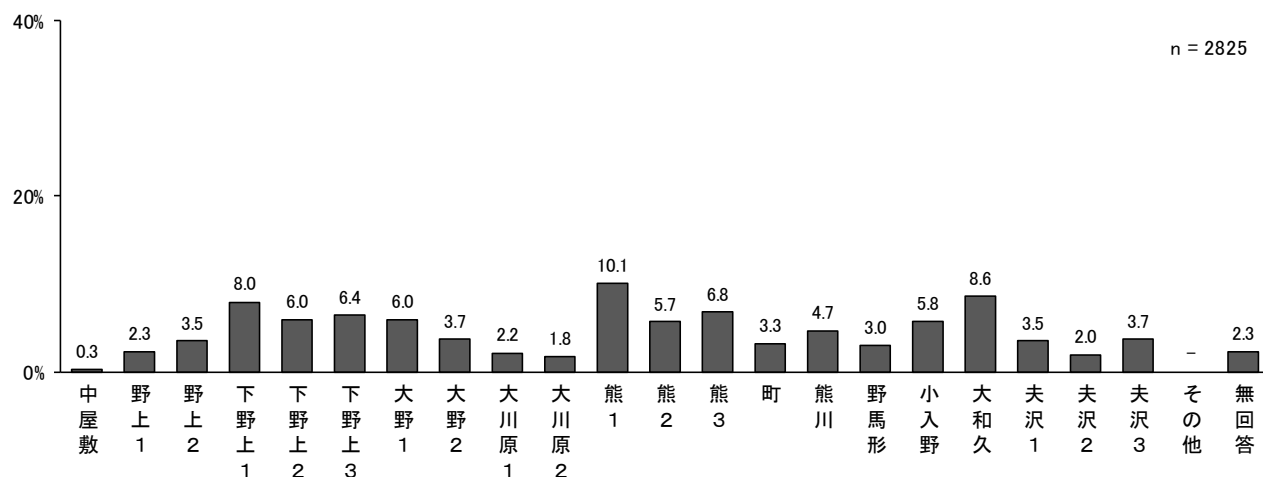
(1) 年齢

<図表2-1-1>



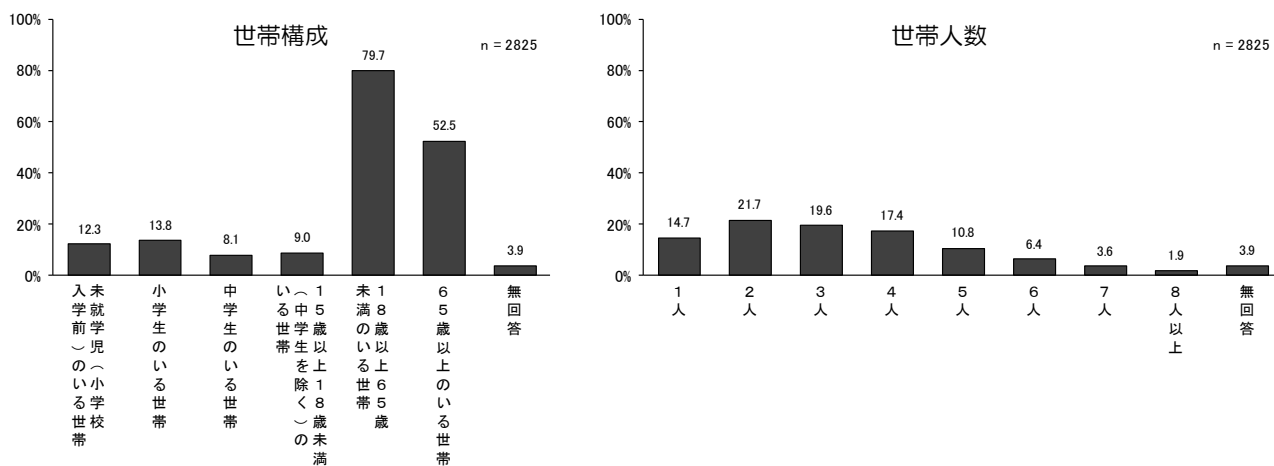
(2) 震災発生当時の行政区

<図表2-1-2>



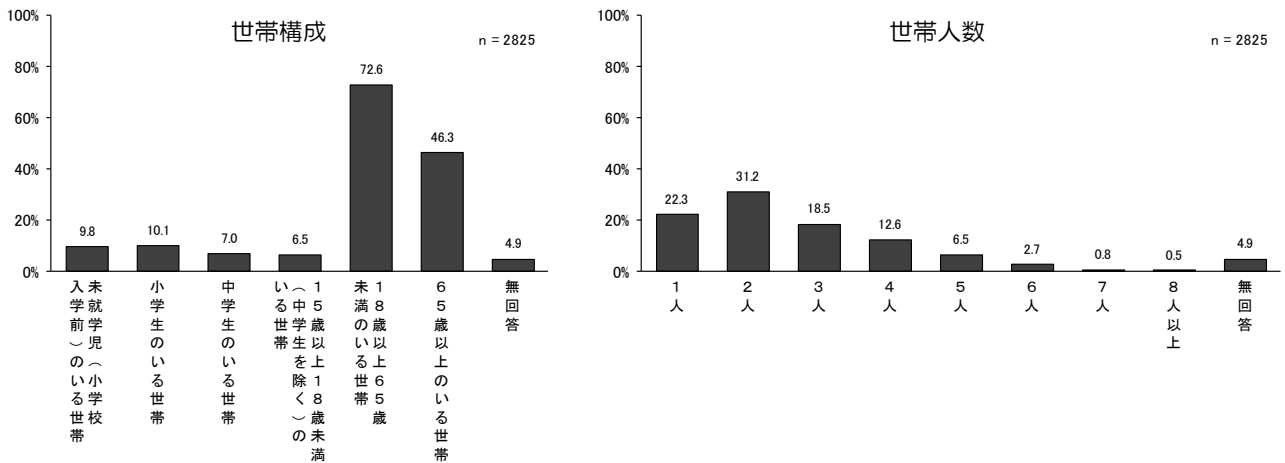
(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-3>



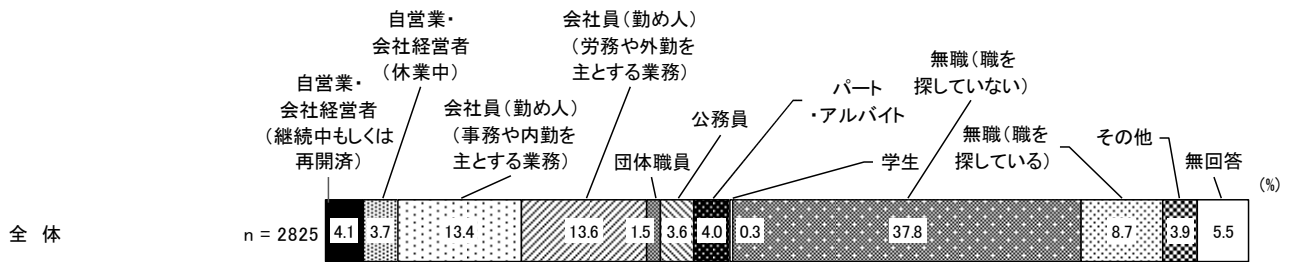
(4) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



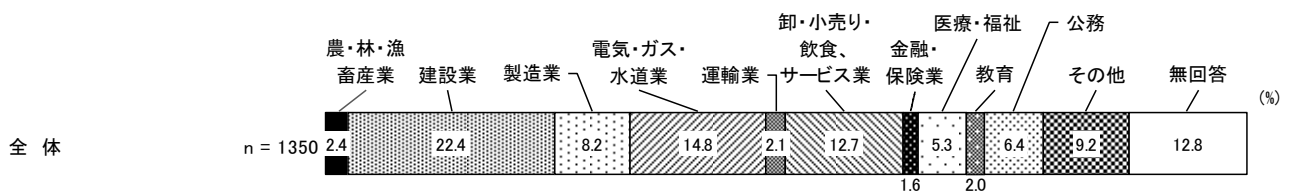
(5) 現在の職業 (就業形態)

<図表2-1-5>



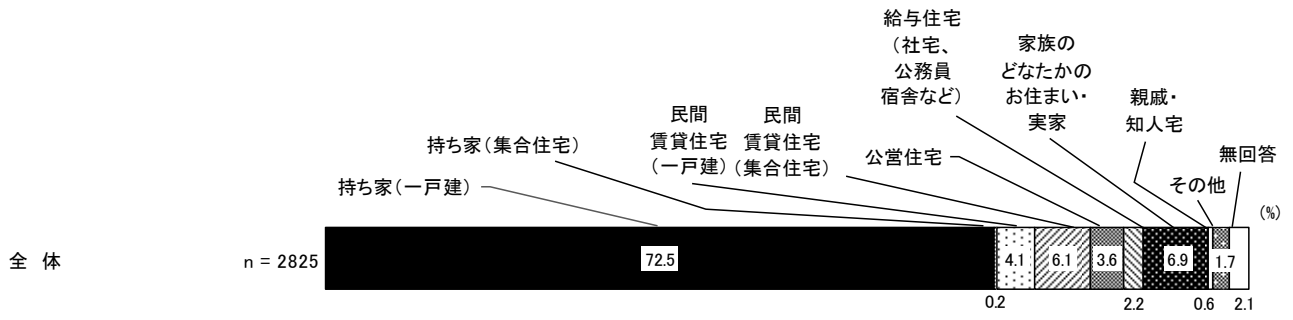
(6) 現在の職業 (業種)

<図表2-1-6>



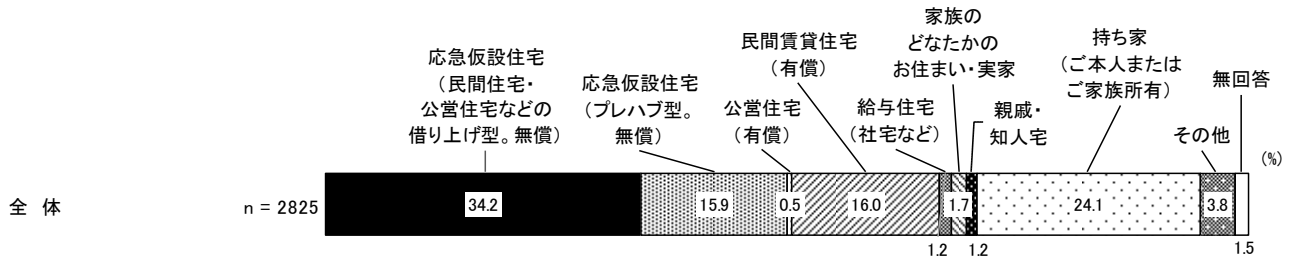
(7) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-7>



(8) 現在の住居形態

<図表2-1-8>



III 調査結果

3-1 現在の状況

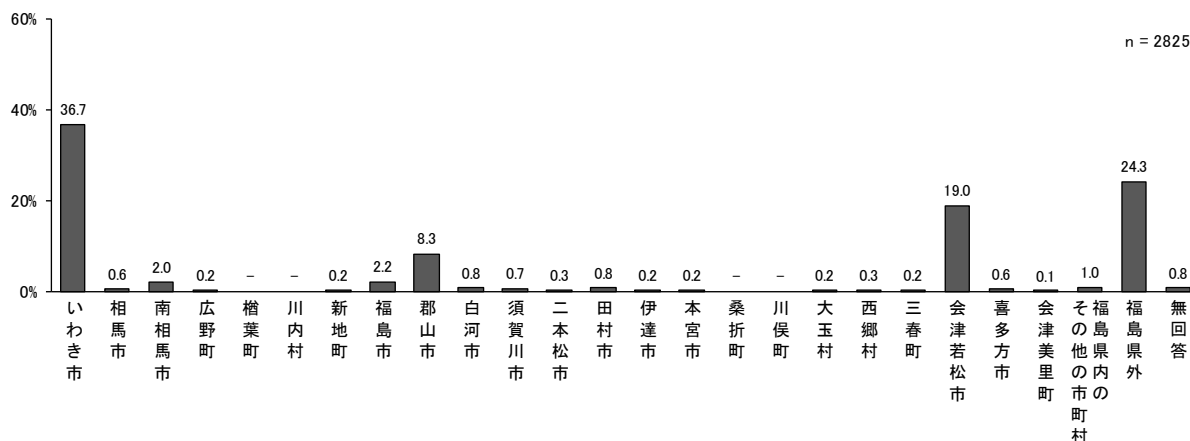
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

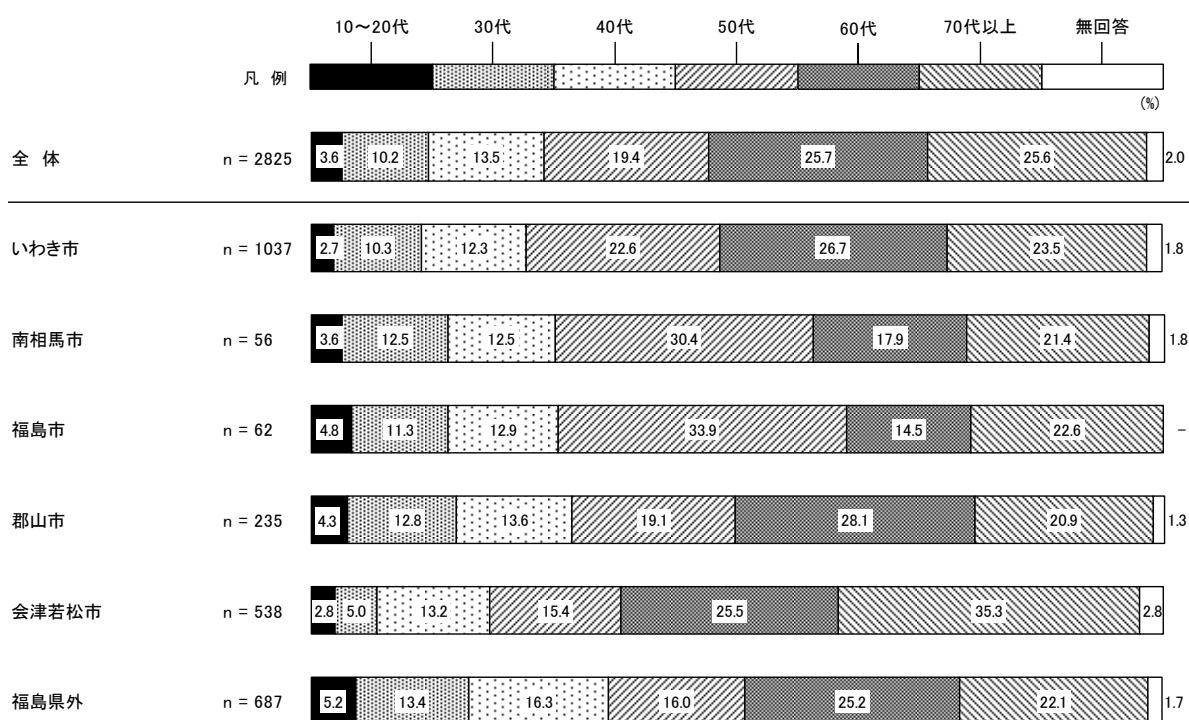
現在の避難先自治体については、「いわき市」が36.7%と最も高く、次いで「福島県外」が24.3%、「会津若松市」が19.0%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、60代以上は「会津若松市」で60.8%、「いわき市」は50.2%と半数以上を占める。一方、「福島市」では60代以上は37.1%、「南相馬市」は39.3%と4割を下回る。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



震災発生当時の行政区別にみると、中屋敷、熊 2、熊 3、町、熊川、野馬形、夫沢 1 では「いわき市」が 4 割以上となっている。また、大川原 2 では「会津若松市」が 4 割となっている。

<図表 3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の行政区別）>

	n	(%)					
		いわき市	南相馬市	福島市	郡山市	会津若松市	福島県外
全 体	2825	36.7	2.0	2.2	8.3	19.0	24.3
中屋敷	9	44.4	-	11.1	11.1	22.2	11.1
野上1	65	24.6	-	-	10.8	23.1	30.8
野上2	100	29.0	5.0	3.0	9.0	25.0	20.0
下野上1	227	30.8	1.8	1.8	8.4	11.9	36.1
下野上2	170	36.5	2.4	2.9	8.2	18.2	22.9
下野上3	182	37.9	3.3	2.2	8.8	13.7	27.5
大野1	170	22.4	1.8	4.7	10.0	20.6	34.1
大野2	105	39.0	1.0	1.9	6.7	30.5	17.1
大川原1	63	31.7	1.6	1.6	3.2	36.5	14.3
大川原2	50	20.0	-	2.0	10.0	40.0	22.0
熊1	286	37.8	2.4	2.4	7.3	16.8	29.0
熊2	162	46.9	-	1.9	9.3	17.9	17.9
熊3	191	41.9	1.6	1.6	7.9	16.2	22.5
町	92	40.2	1.1	4.3	4.3	28.3	14.1
熊川	132	43.9	0.8	3.8	8.3	20.5	17.4
野馬形	86	47.7	4.7	2.3	4.7	17.4	16.3
小入野	165	38.8	4.2	0.6	10.3	14.5	24.8
大和久	243	38.7	0.8	1.2	11.5	14.4	25.1
夫沢1	100	45.0	1.0	-	8.0	21.0	14.0
夫沢2	56	37.5	7.1	-	8.9	21.4	21.4
夫沢3	104	35.6	1.0	4.8	6.7	16.3	27.9
その他	1	-	-	-	-	-	100.0

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

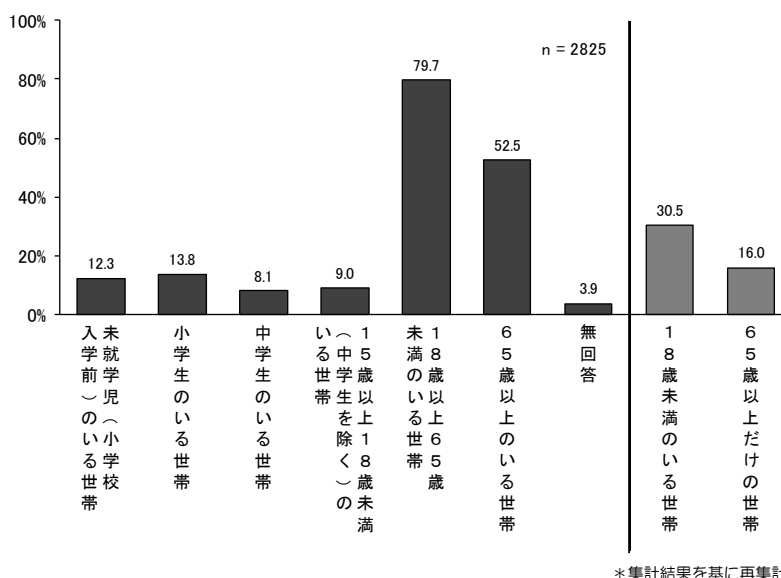
問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

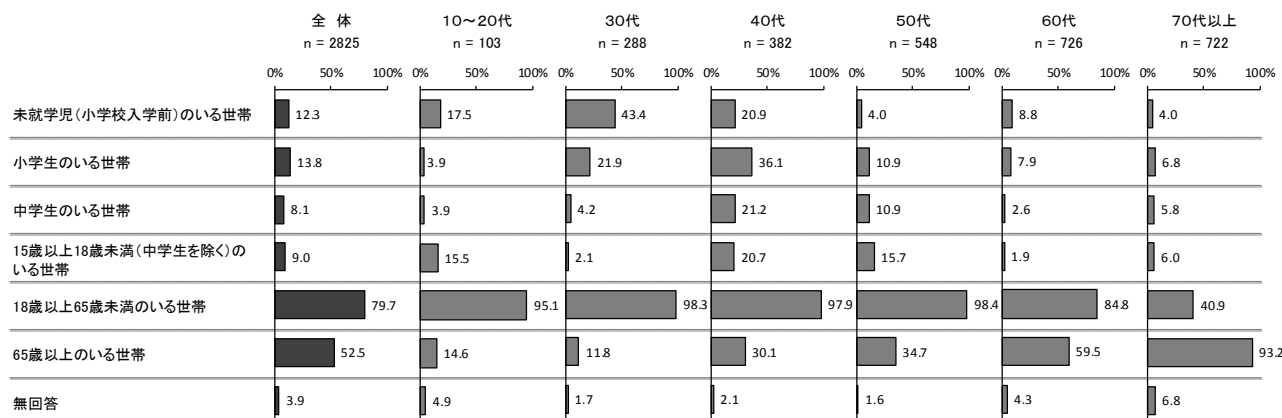
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が79.7%、「65歳以上のいる世帯」が52.5%となっている。一方、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満（中学生を除く）のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成（年齢別）>

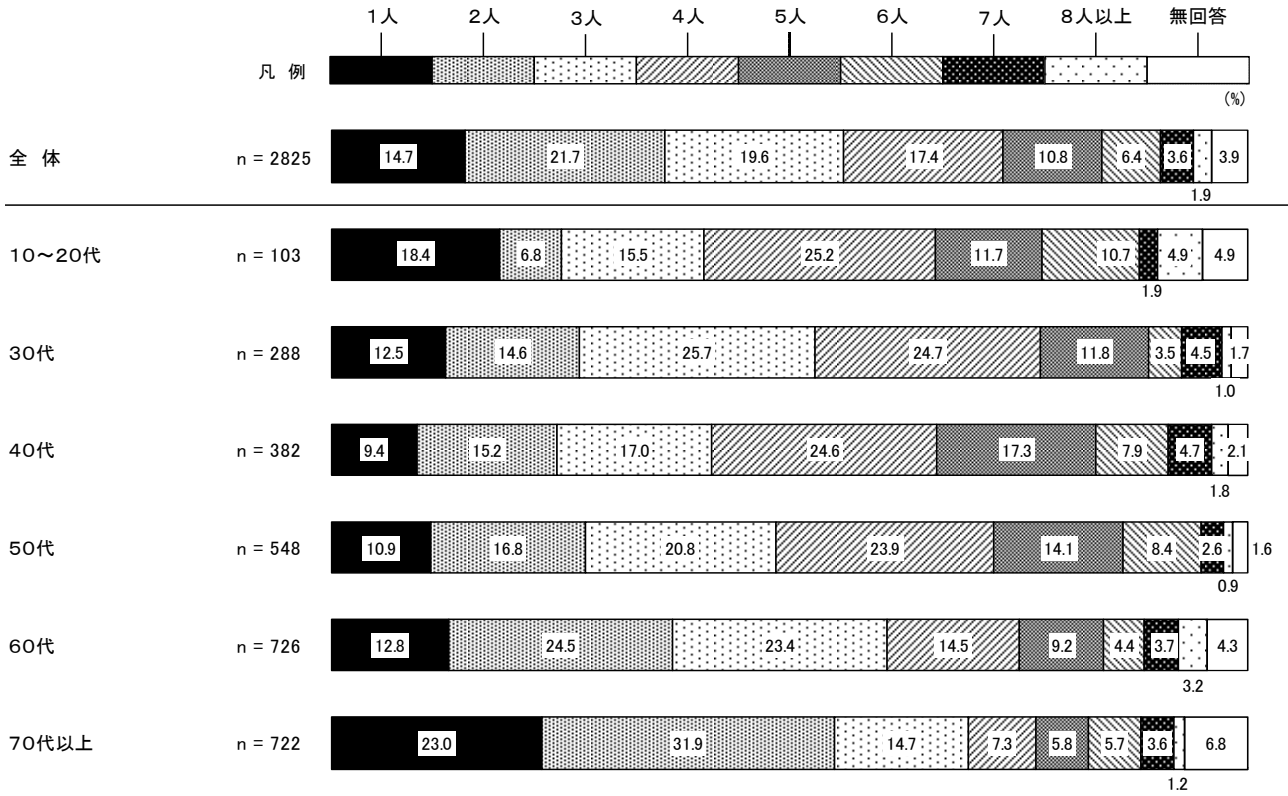


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が21.7%と最も高く、次いで「3人」(19.6%)、「4人」(17.4%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は年齢が高くなるにつれ高くなり、70代以上で31.9%と最も高くなっている。「3人」は30代で25.7%、「4人」は10~20代で25.2%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

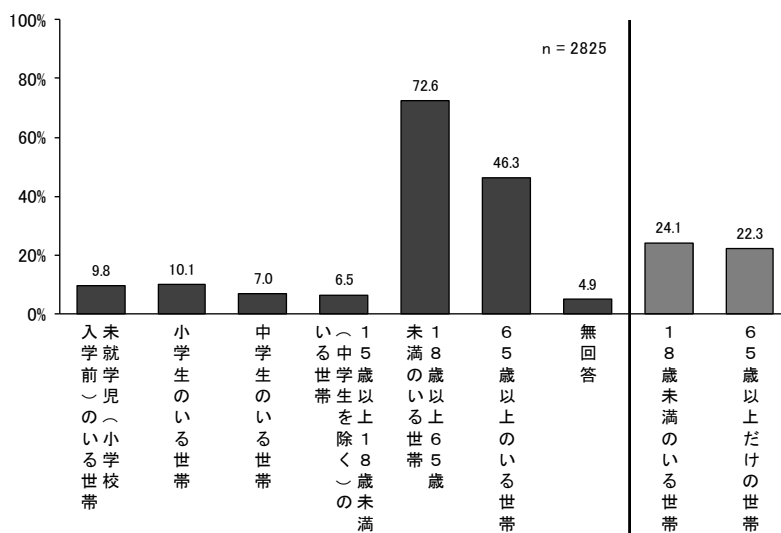
問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

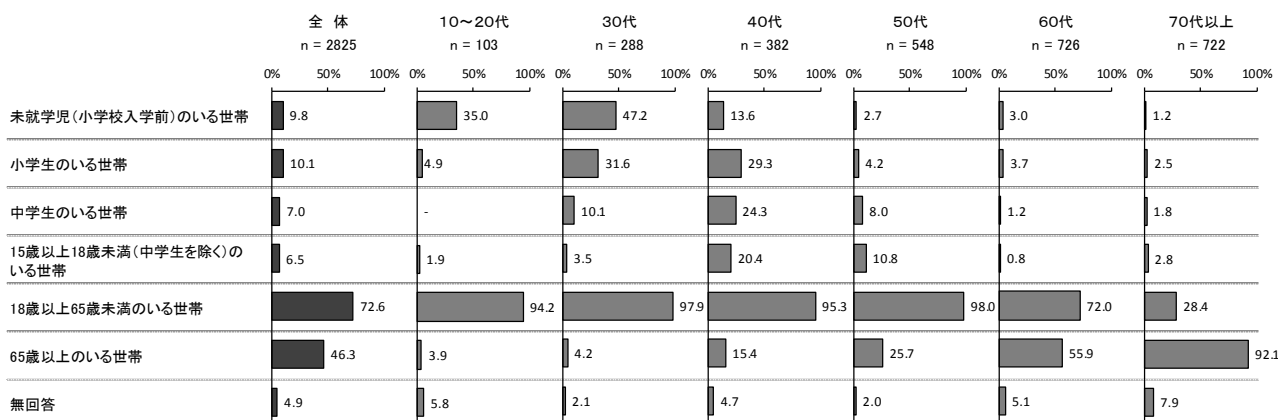
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が72.6%、「65歳以上のいる世帯」が46.3%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>



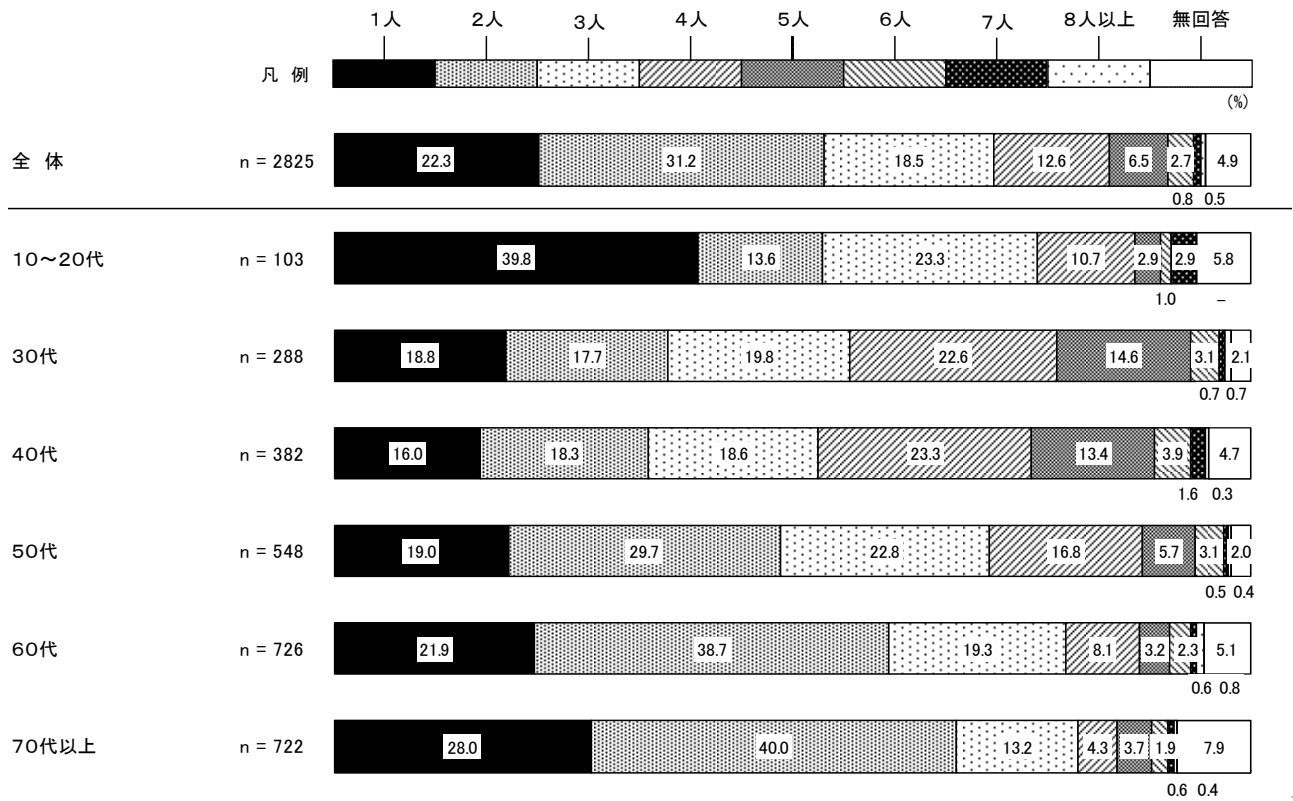
III 調査結果

② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が31.2%と最も高く、次いで「1人」(22.3%)、「3人」(18.5%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は30代以降年齢が高くなるにつれ高くなり、70代以上で40.0%と最も高くなっている。「1人」は10~20代で39.8%と約4割を占める。

＜図表3-1-2-6 現在の世帯人数＞



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

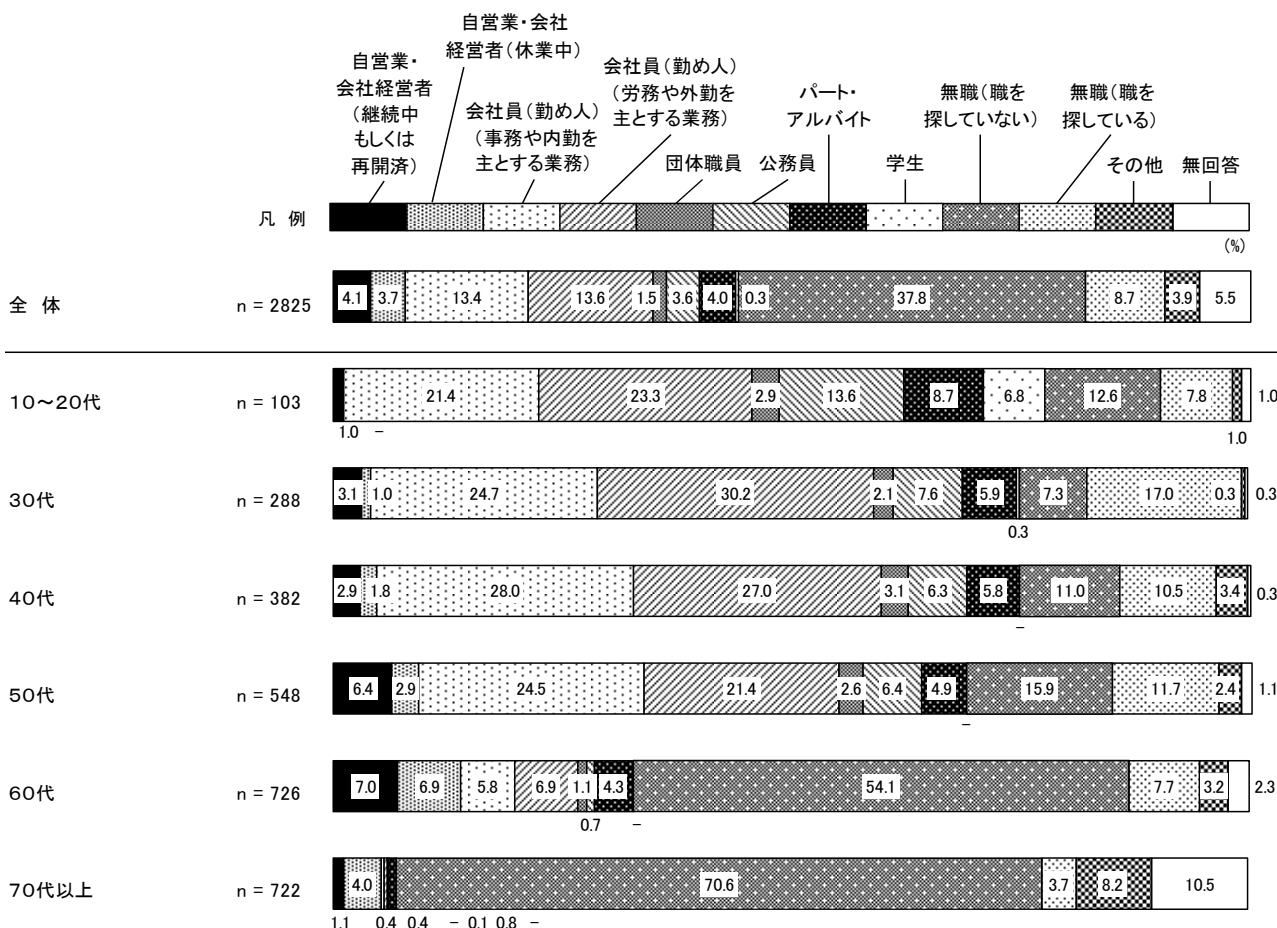
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）については、無職以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が13.6%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が13.4%と高くなっている。

回答者の年齢別にみると、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が10～20代で21.4%、30代で24.7%、40代で28.0%と最も多くなっている。「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」を合わせた無職は、50代で27.6%、60代で61.8%、70代で74.3%と最も多くなっている。

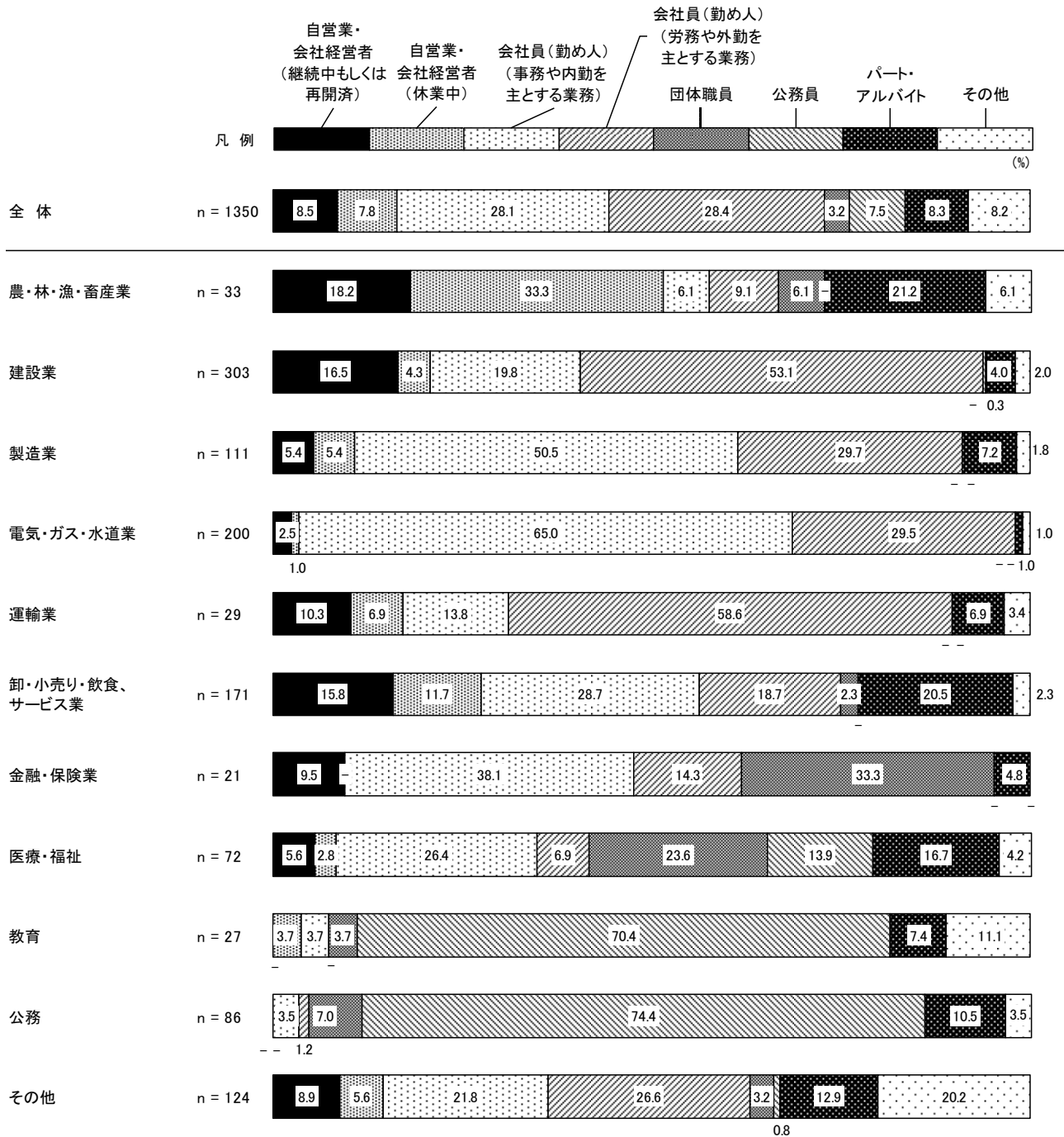
<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員(勤め人) (労務や外勤を主とする業務)」(53.1%)、電気・ガス・水道業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(65.0%)、製造業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(50.5%) が他の業種と比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）＞



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

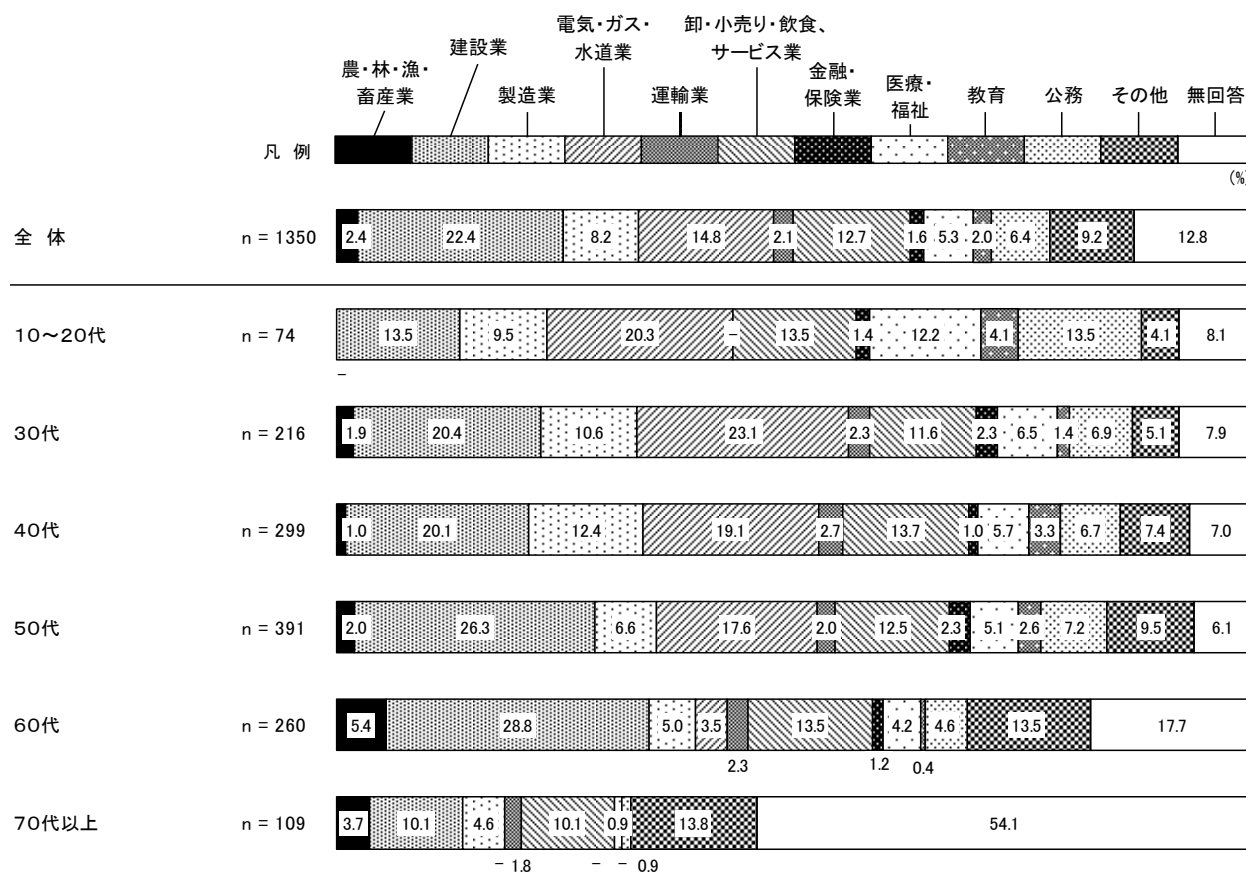
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が22.4%と最も高く、次いで「電気・ガス・水道業」が14.8%、「卸・小売り・飲食、サービス業」が12.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、50代が26.3%、60代が28.8%、「電気・ガス・水道業」は、10～20代が20.3%、30代が23.1%、「卸・小売り・飲食、サービス業」は、40代が13.7%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



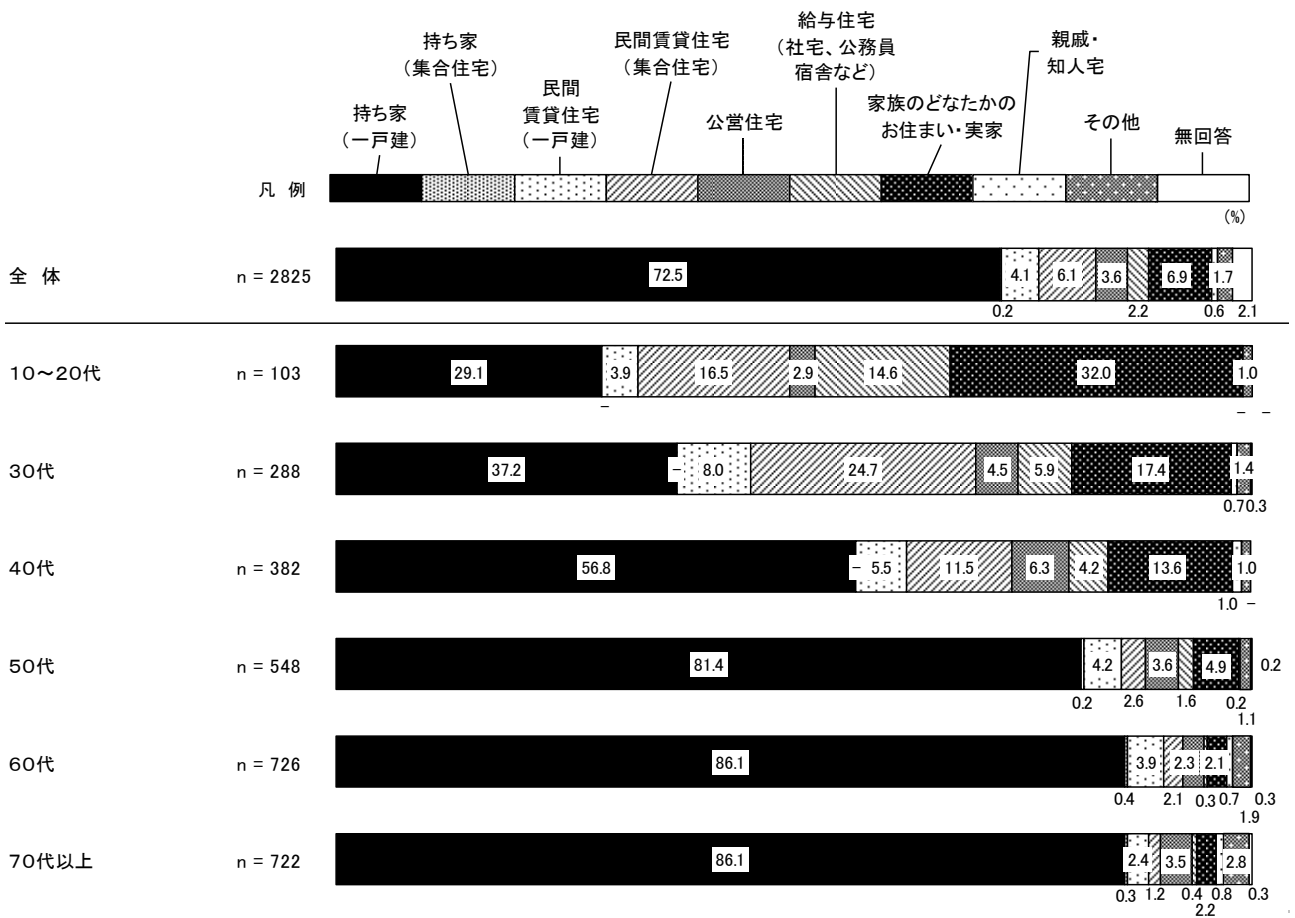
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が72.5%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.2%)を合わせた<持ち家>は72.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は年齢が高くなるにつれ高くなり、60代以上では86.1%と9割近くを占める。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、10~20代では32.0%、30代では17.4%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



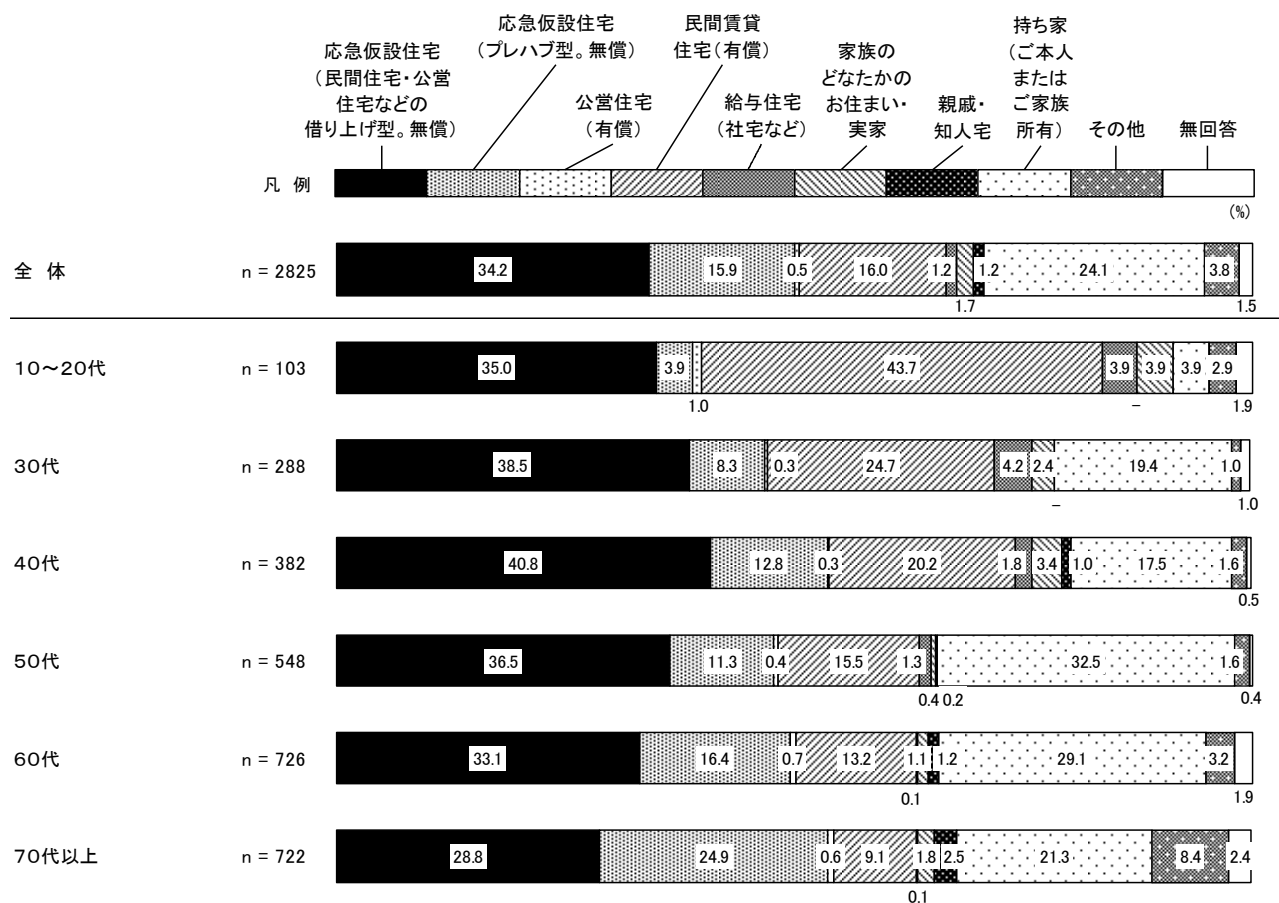
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が34.2%と最も高く、次いで「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が24.1%、「民間賃貸住宅（有償）」が16.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、ほとんどの年代で最も高くなっているが、10～20代では「民間賃貸住宅（有償）」（43.7%）が最も高くなっている。

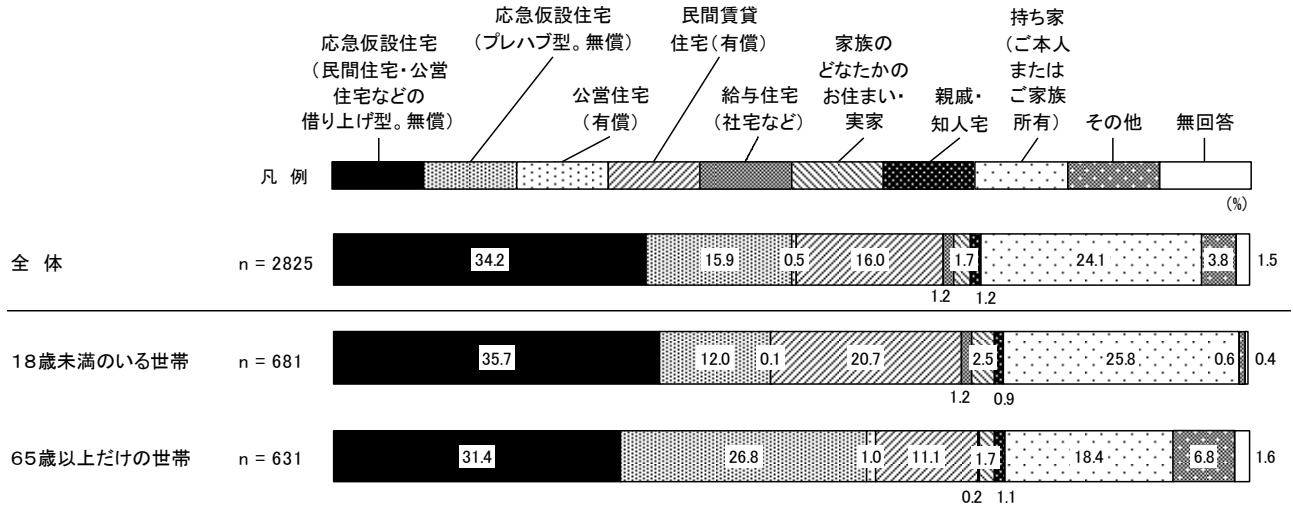
<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



III 調査結果

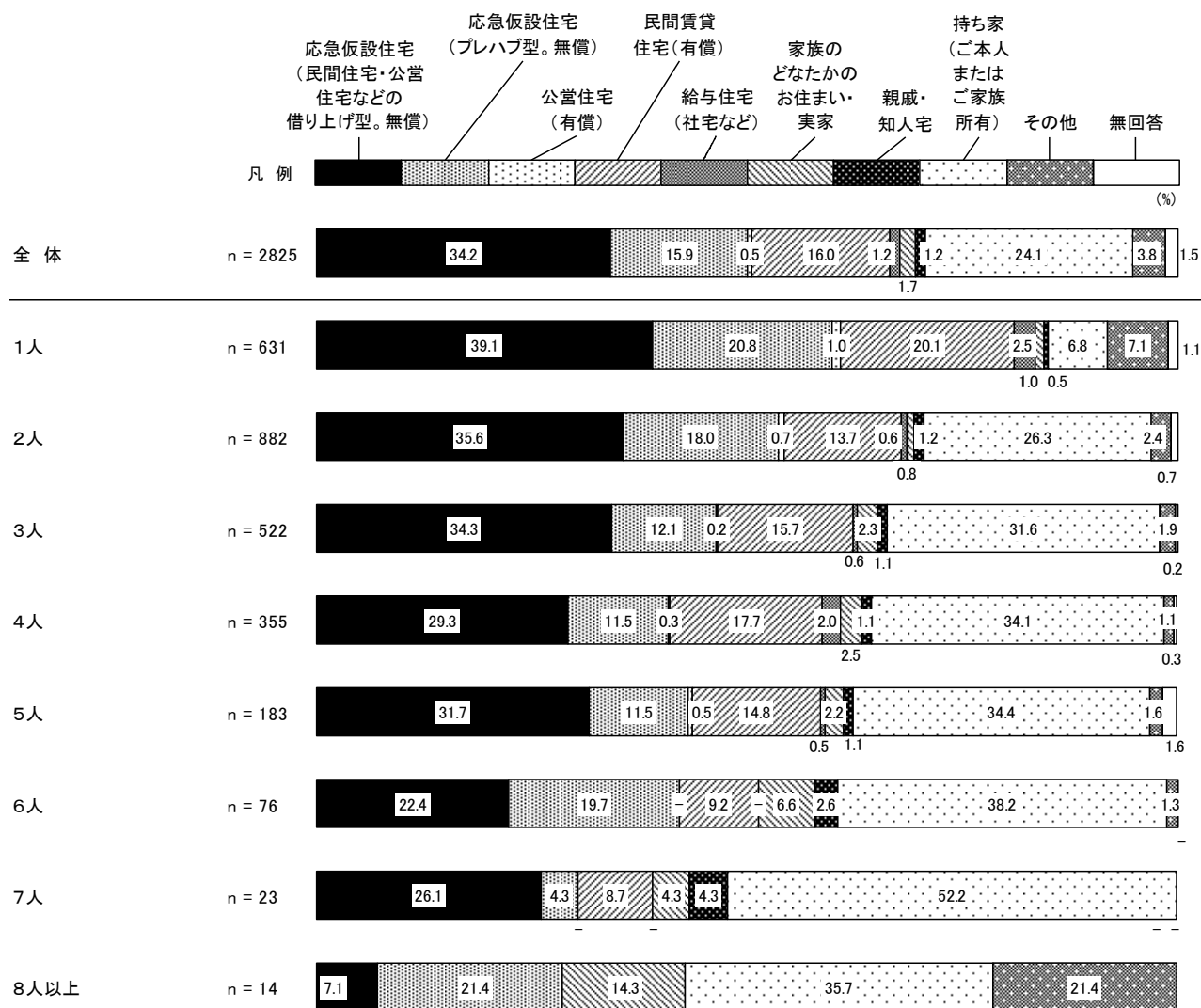
世帯構成別にみると「民間賃貸住宅（有償）」は18歳未満のいる世帯では20.7%と高い。一方、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は65歳以上だけの世帯で高く、26.8%となっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



世帯人数別にみると、人数が多くなるにつれ「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」の割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」の割合が高くなる。

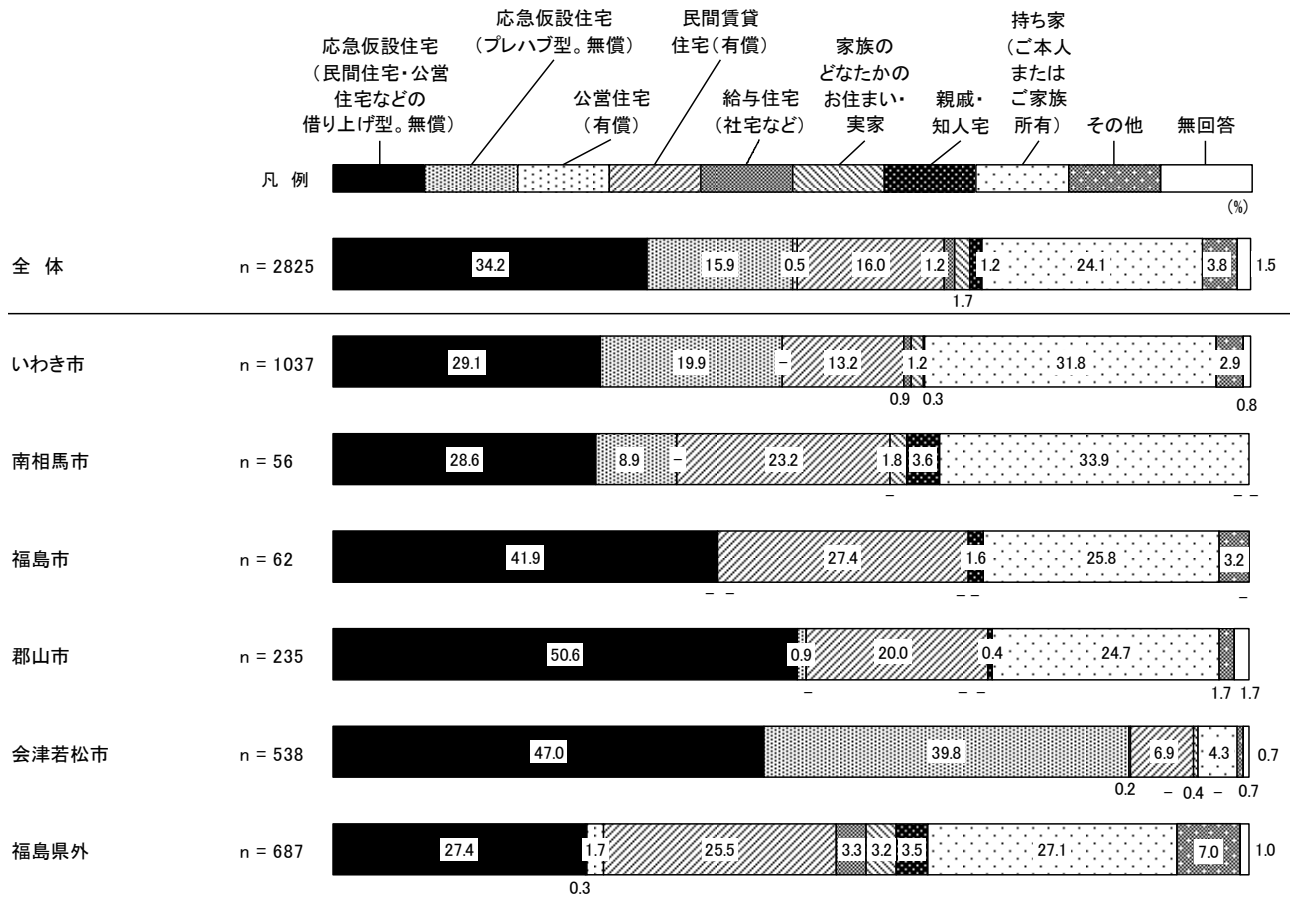
＜図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）＞



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、郡山市（50.6%）、会津若松市（47.0%）、福島市（41.9%）における割合が高い。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、南相馬市（33.9%）、いわき市（31.8%）における割合が高い。「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、会津若松市（39.8%）における割合が他の自治体と比べ特に高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



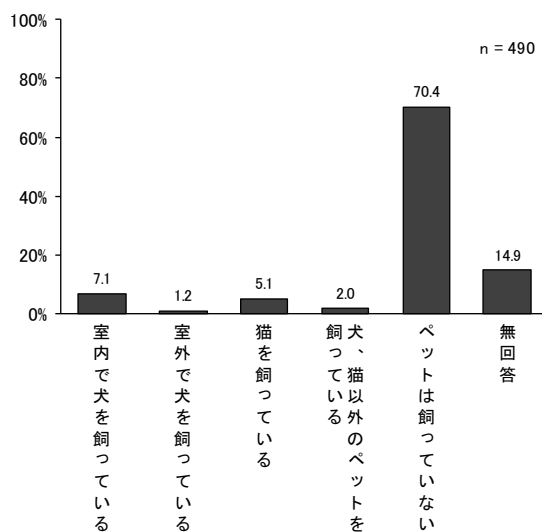
3-1-6 現在のペットの飼育状況

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

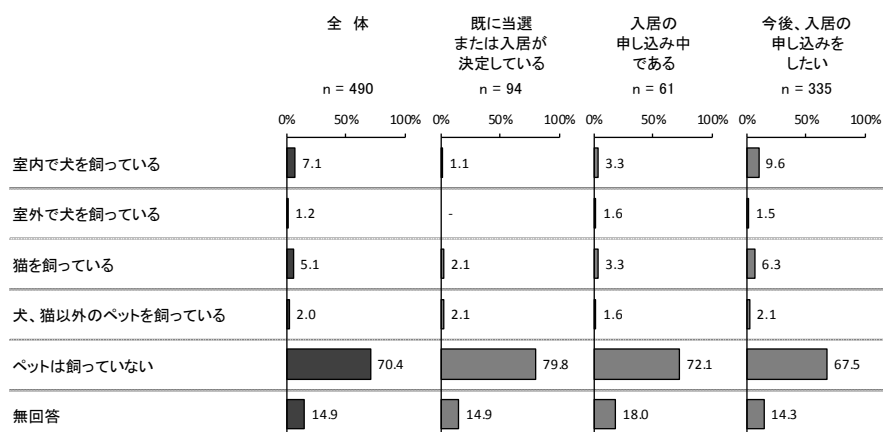
問8-3 現在、ペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

現在のペットの飼育状況については、「ペットは飼っていない」が70.4%と最も高い。犬を飼っている世帯が8.3%（室内、室外）、猫を飼っている世帯が5.1%となっている。

<図表3-1-6-1 ペットの飼育>



<図表3-1-6-2 ペットの飼育（復興公営住宅への入居意向別）>



3-2 復興公営住宅の入居意向

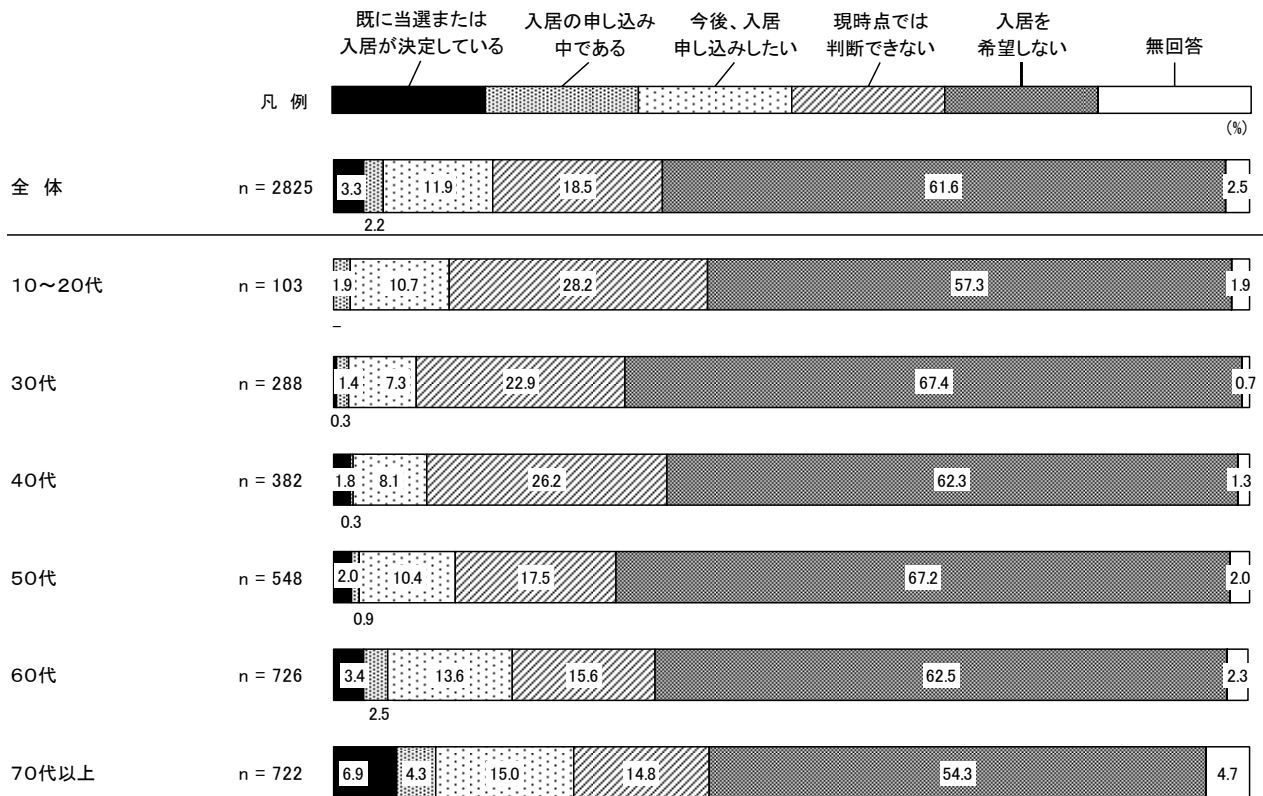
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問8 現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

復興公営住宅への入居意向については、入居を希望しない世帯が61.6%と最も高く、次いで、現時点では判断できない世帯が18.5%、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」、「入居の申し込み中である」、「今後、入居の申し込みをしたい」）が17.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、入居を希望しない世帯は、いずれの年齢でも最も高いが、入居意向のある世帯は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっている。

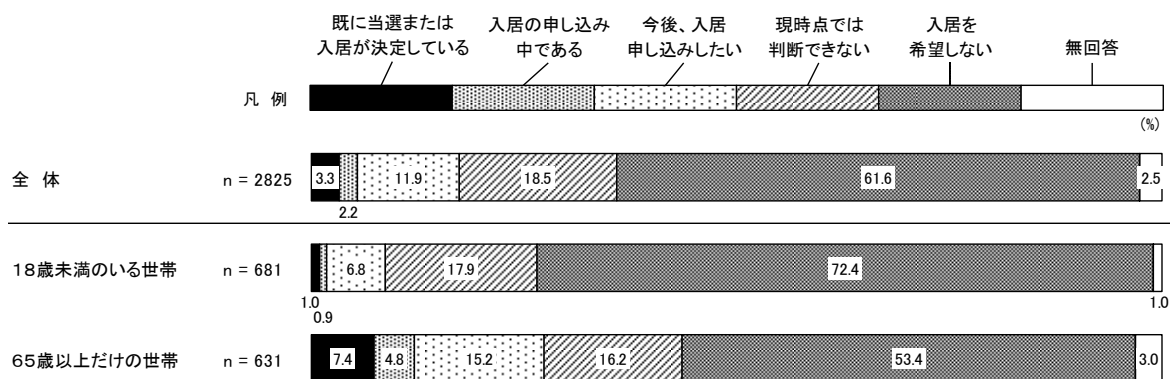
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



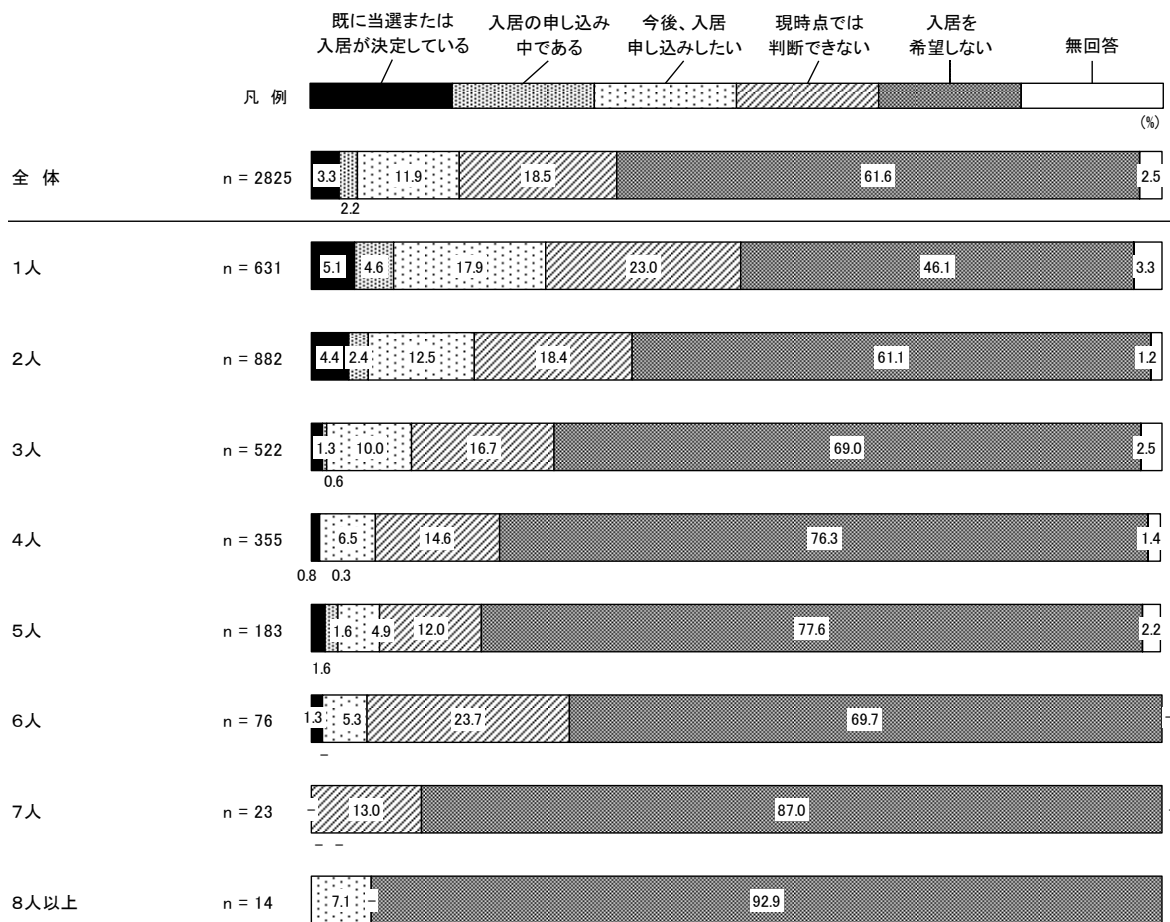
現在の世帯構成別にみると、入居を希望しない世帯は18歳未満のいる世帯で72.4%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。一方入居意向のある世帯は65歳以上だけの世帯で27.4%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、入居を希望しない世帯は3人以上の世帯で高くなっている。一方、入居意向のある世帯は1人の世帯が27.6%と最も高く、世帯人数が多くなるにつれ入居意向のある世帯の割合は低くなる傾向がある。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）>



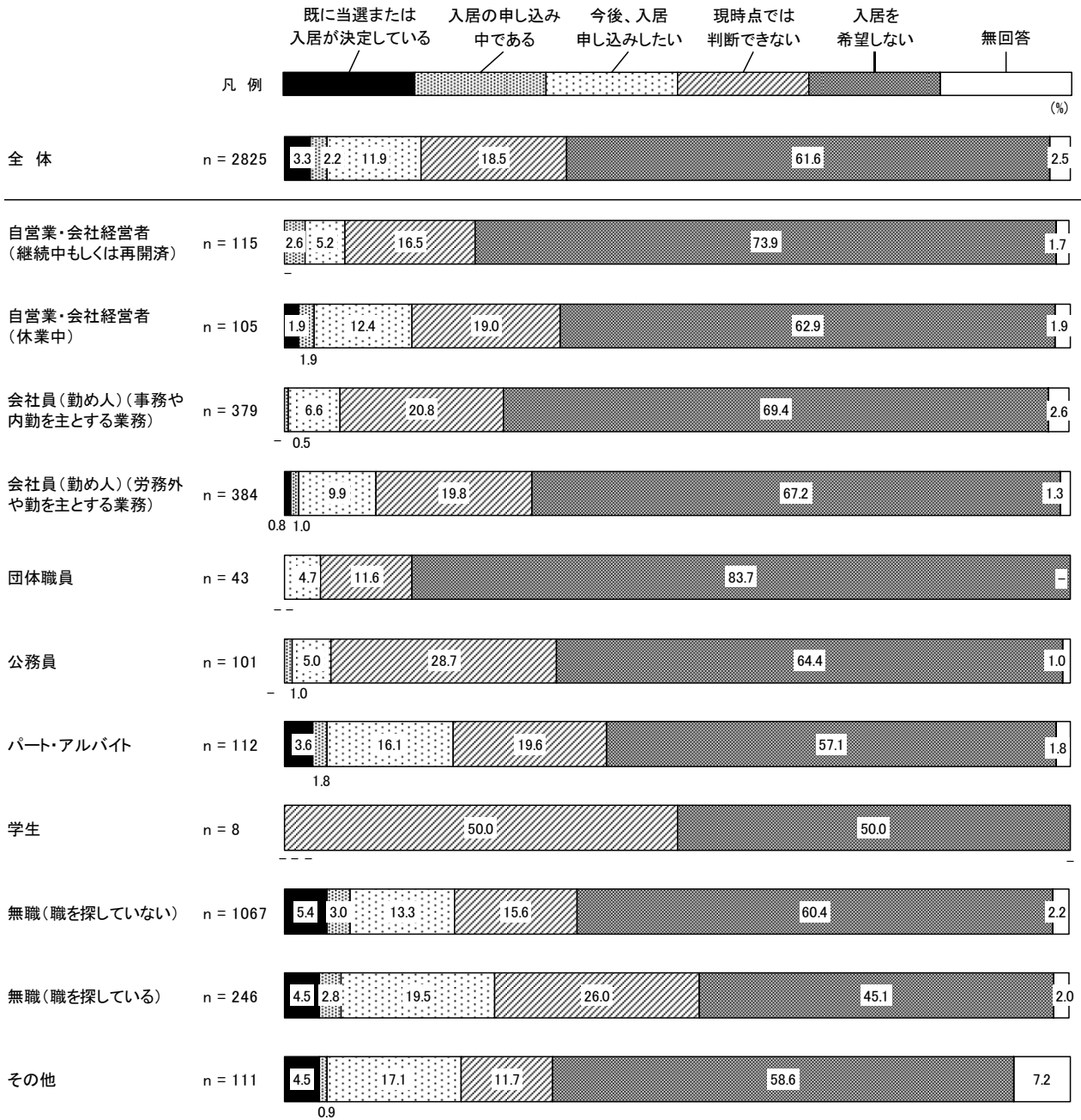
<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）>



III 調査結果

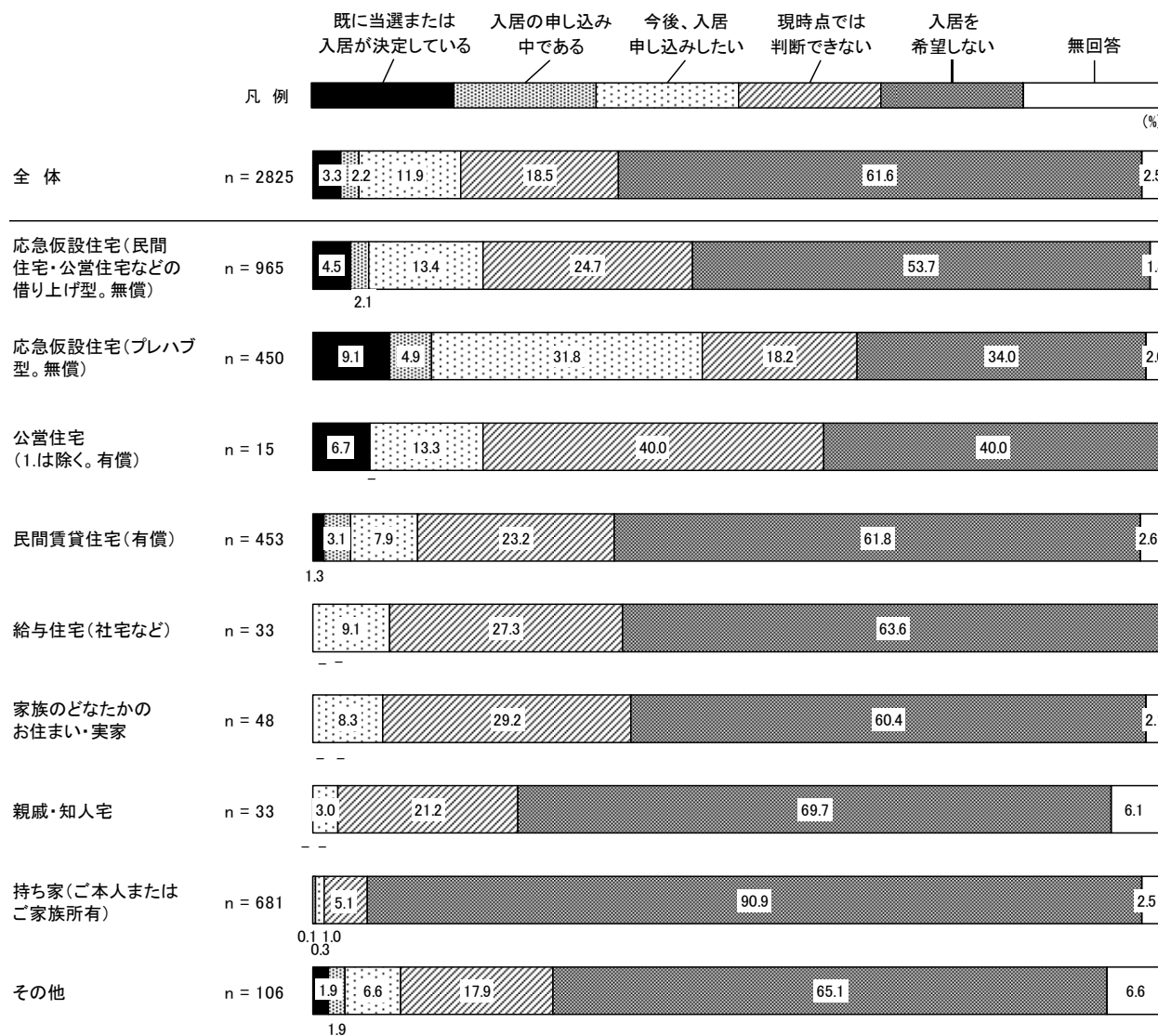
職業別にみると、入居を希望しない世帯は団体職員が83.7%となっており、他の職業に比べ高くなっている。入居意向のある世帯は無職（職を探している）（26.8%）、その他（22.5%）、無職（職を探していない）（21.7%）、パート・アルバイト（21.5%）が、他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（職業別）>



現在の住居形態別にみると、入居を希望しない世帯は、持ち家（ご本人またはご家族所有）（90.9%）が他の住居形態に比べ高くなっている。入居意向のある世帯は、応急仮設住宅（プレハブ型。無償）で45.8%となっており、他の住居形態と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）>



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※1 家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方（希望も含む。）は、〈2世帯目〉の列にもお答えください。

※現在、分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

〈1世帯目〉

(1) 自治体名を教えてください。(〇はひとつ)

(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

〈2世帯目〉

(1) 自治体名を教えてください。(〇はひとつ)

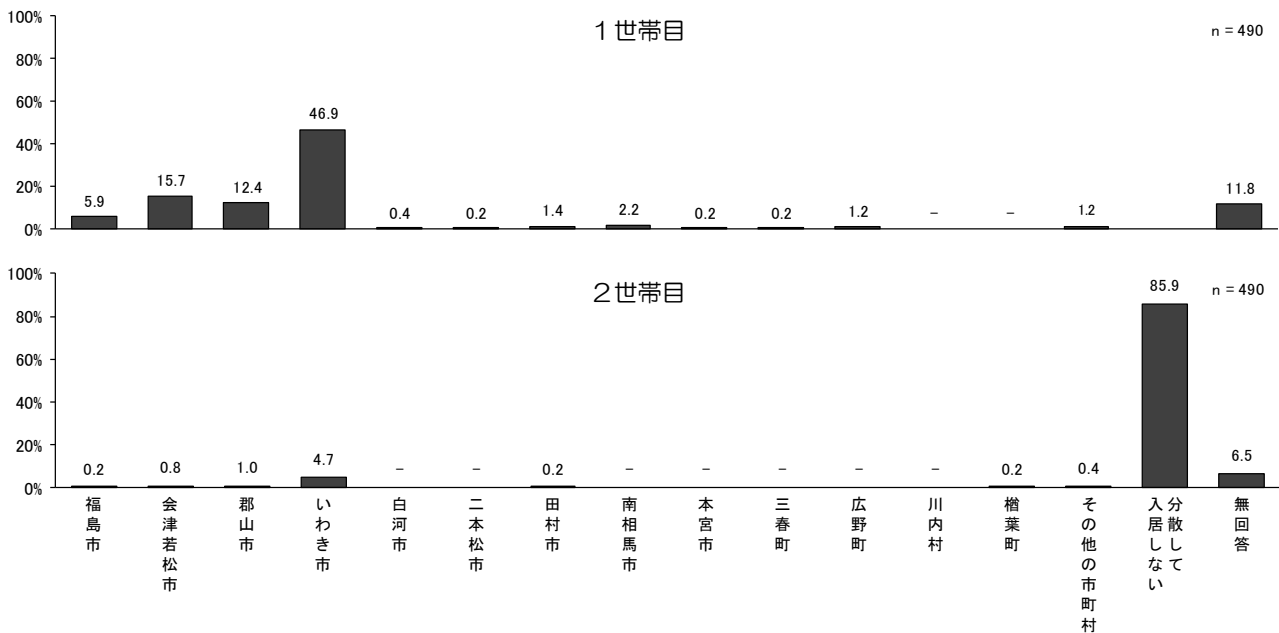
(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

〈1世帯目〉の復興公営入居への入居を希望する自治体については、「いわき市」が46.9%と最も高く、次いで、「会津若松市」が15.7%、「郡山市」が12.4%、となっている。

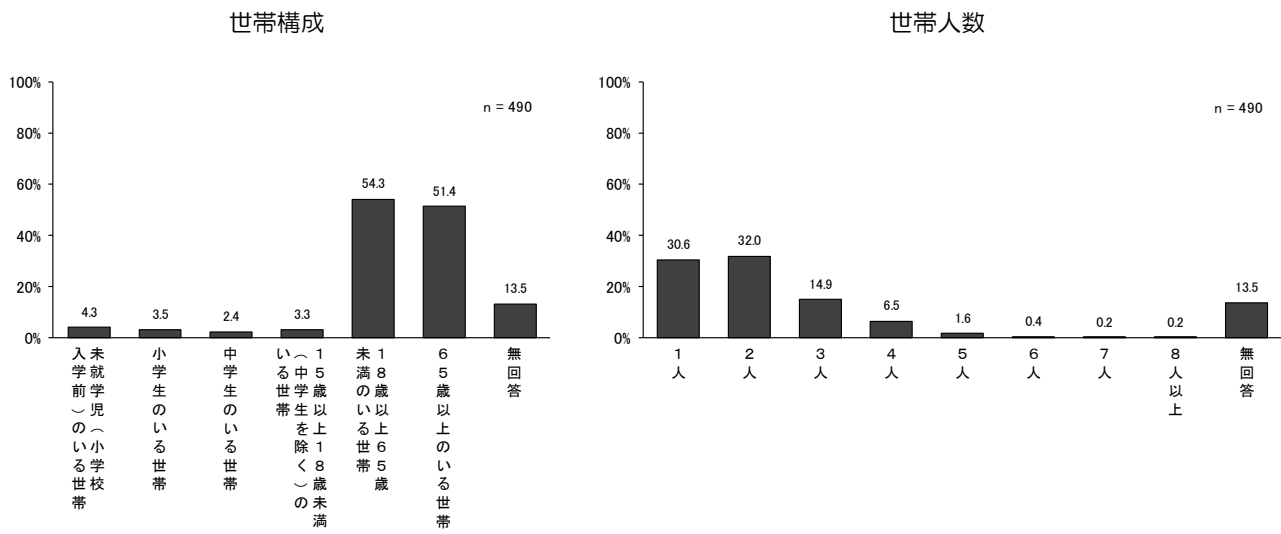
復興公営住宅への入居を希望する世帯構成（1世帯目）については、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が54.3%、「65歳以上のいる世帯」が51.4%となっている。一方、18歳未満のいる世帯はそれぞれ5%前後となっている。世帯人数（1世帯目）については、「2人」が32.0%で最も高く、次いで「1人」が30.6%、「3人」が14.9%となっている。

〈2世帯目〉の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「いわき市」が4.7%と最も高く、次いで、「郡山市」が1.0%、「会津若松市」が0.8%となっている。

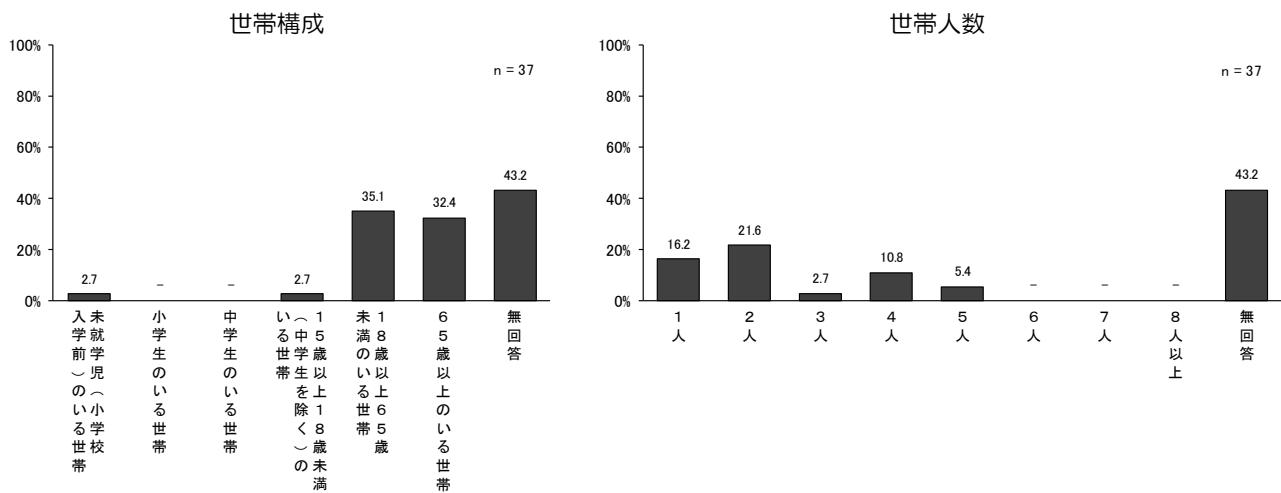
〈図表3-2-2-1 復興公営住宅への入居を希望する自治体〉



<図表3-2-2-2 復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>

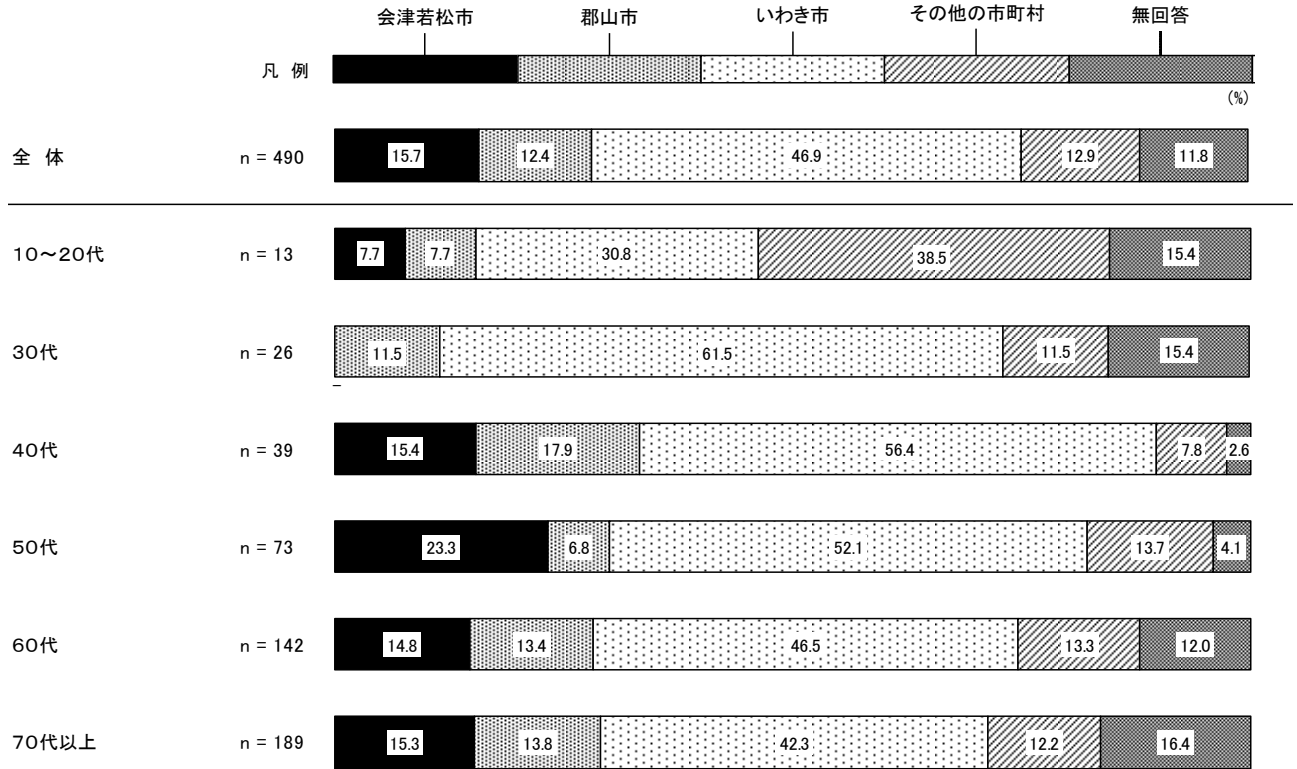


<図表3-2-2-3 復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



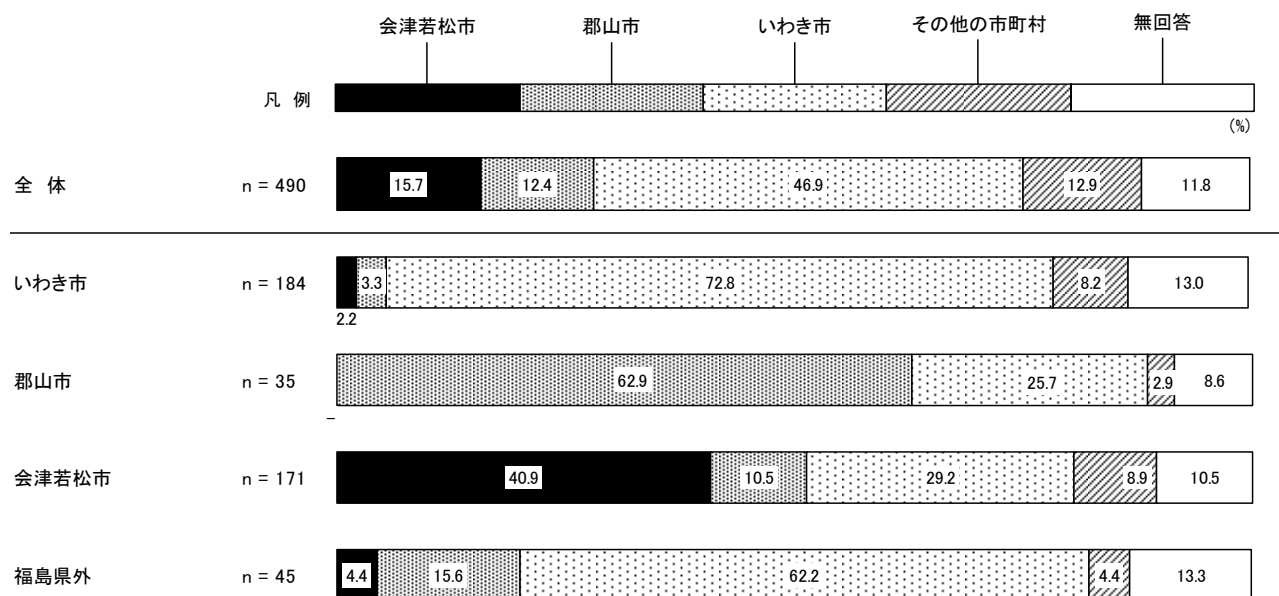
<1世帯目>の復興公営住宅への入居を希望する主な自治体について、回答者の年齢別にみると、「いわき市」がいずれの年齢でも最も高くなっている。

<図表3-2-2-4 復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）（年齢別）>



＜1世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する主な自治体について、主な避難先自治体別にみると、いわき市に避難している世帯の7割強、福島県外に避難している世帯の6割強が、「いわき市」への入居を希望している。また郡山市に避難している世帯の6割強が同じ郡山市への入居を希望している。

＜図表3-2-2-5 復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）＞



3-2-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス

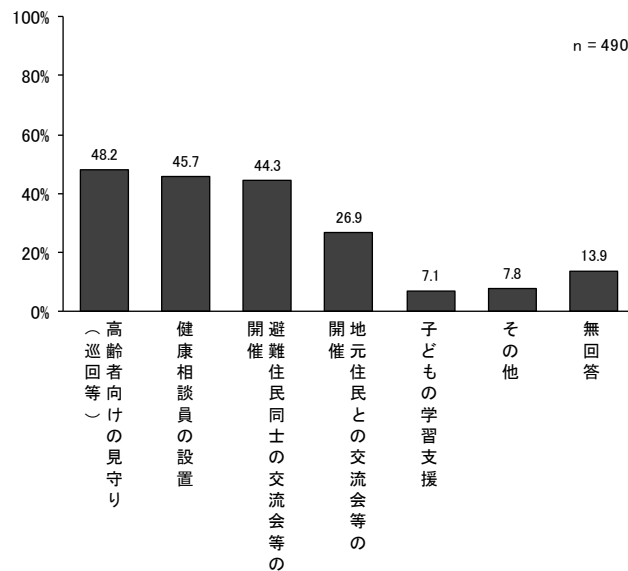
【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

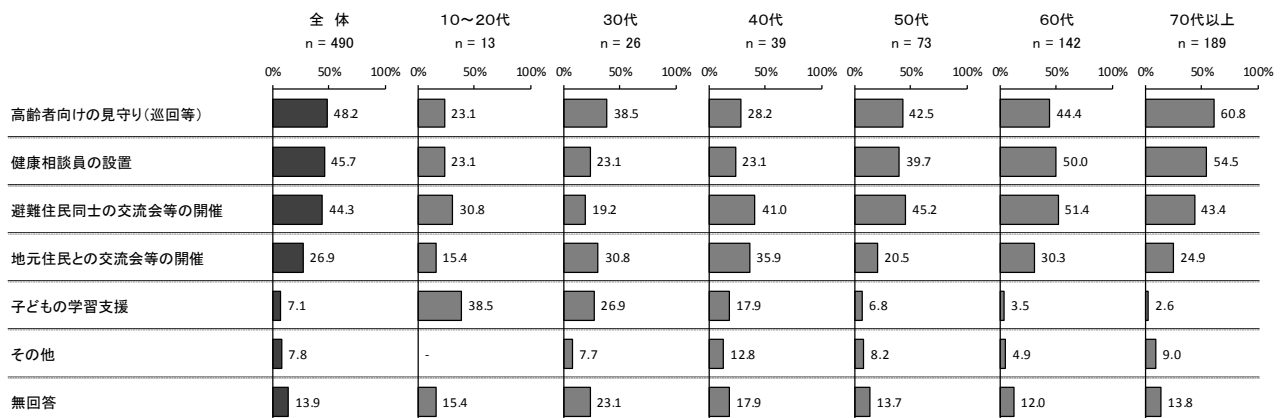
復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービスについては、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が48.2%と最も高く、次いで、「健康相談員の設置」が45.7%、「避難住民同士の交流会等の開催」が44.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は70代以上が60.8%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-3-1 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス>



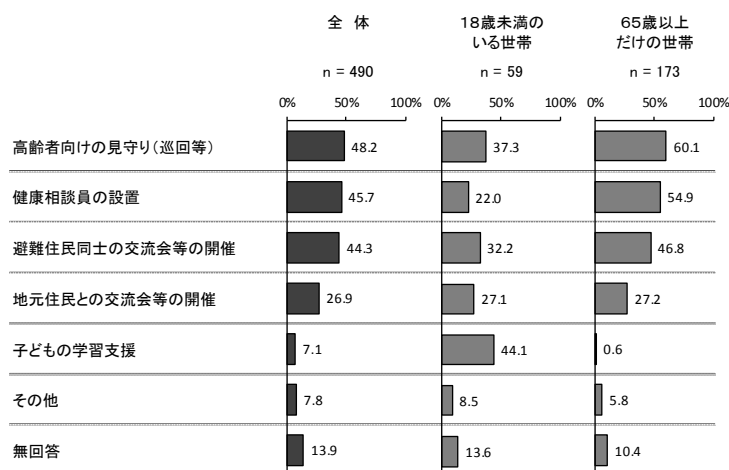
<図表3-2-3-2 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス（年齢別）>



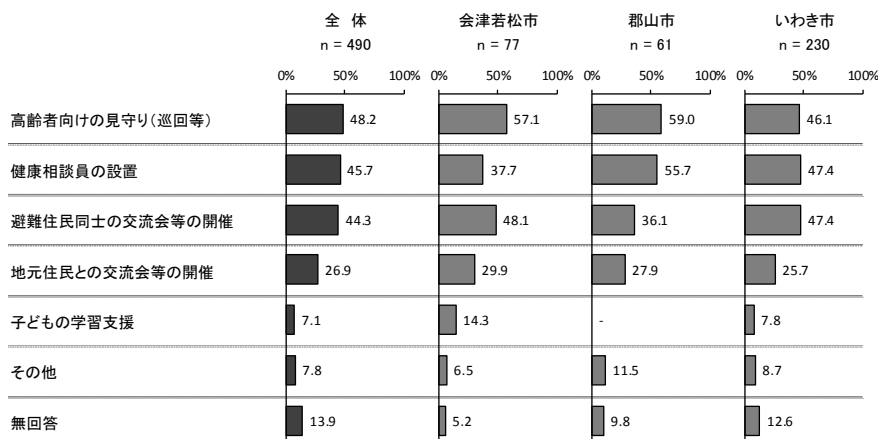
世帯構成別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は65歳以上の世帯が60.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。また「子どもの学習支援」は18歳未満のいる世帯が44.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。

入居を希望する主な自治体別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が、郡山市（59.0%）や会津若松市（57.1%）で最も高くなっている。一方、いわき市では「健康相談員の設置」、「避難住民同士の交流会等の開催」がともに47.4%と最も高くなっている。

＜図表3-2-3-3 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（世帯構成別）＞



＜図表3-2-3-4 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（入居を希望する主な自治体別）＞



3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態

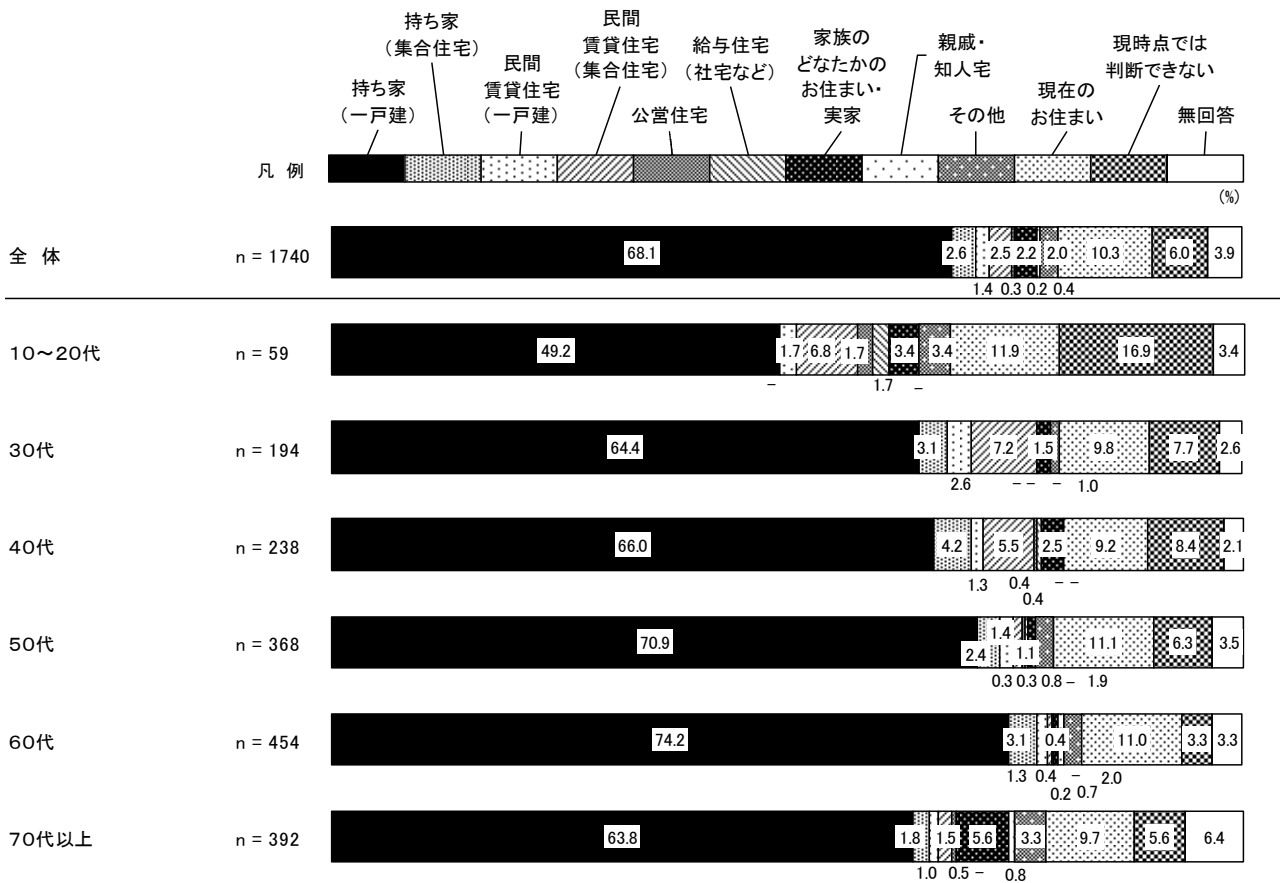
【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

問8-5 今後の住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

復興公営住宅へ入居を希望しない場合に希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が68.1%と最も高く、7割弱を占めている。なお、「現在のお住まい」（10.3%）の内訳の主なものは、持ち家（ご本人またはご家族所有）が140件、民間賃貸（有償）が13件、その他が13件となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は50代（70.9%）、60代（74.2%）で7割以上と、他の年齢と比べ高くなっている。

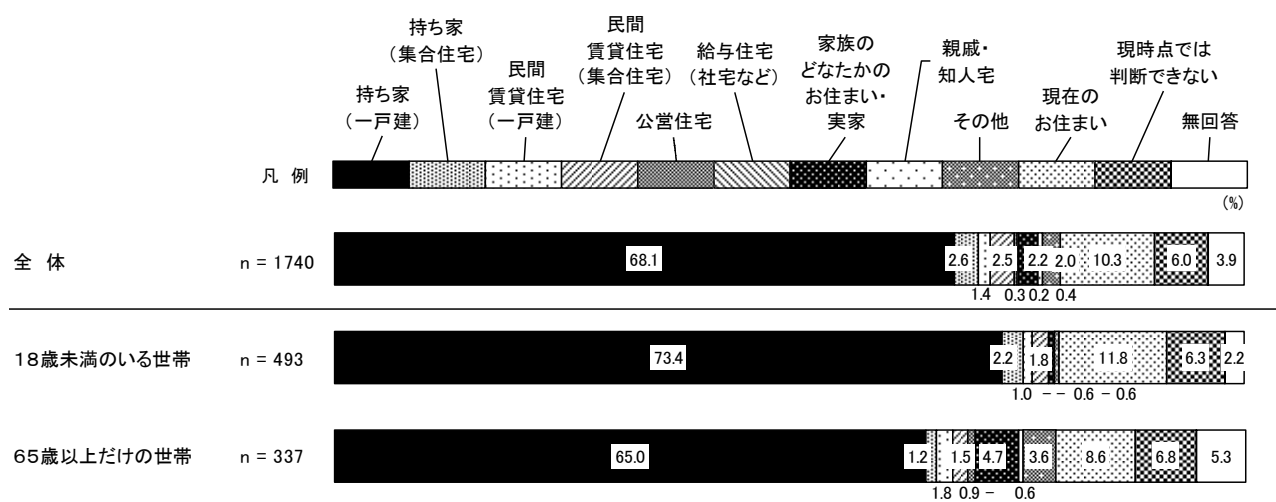
<図表3-2-4-1 入居を希望しない場合に希望する住居形態（年齢別）>



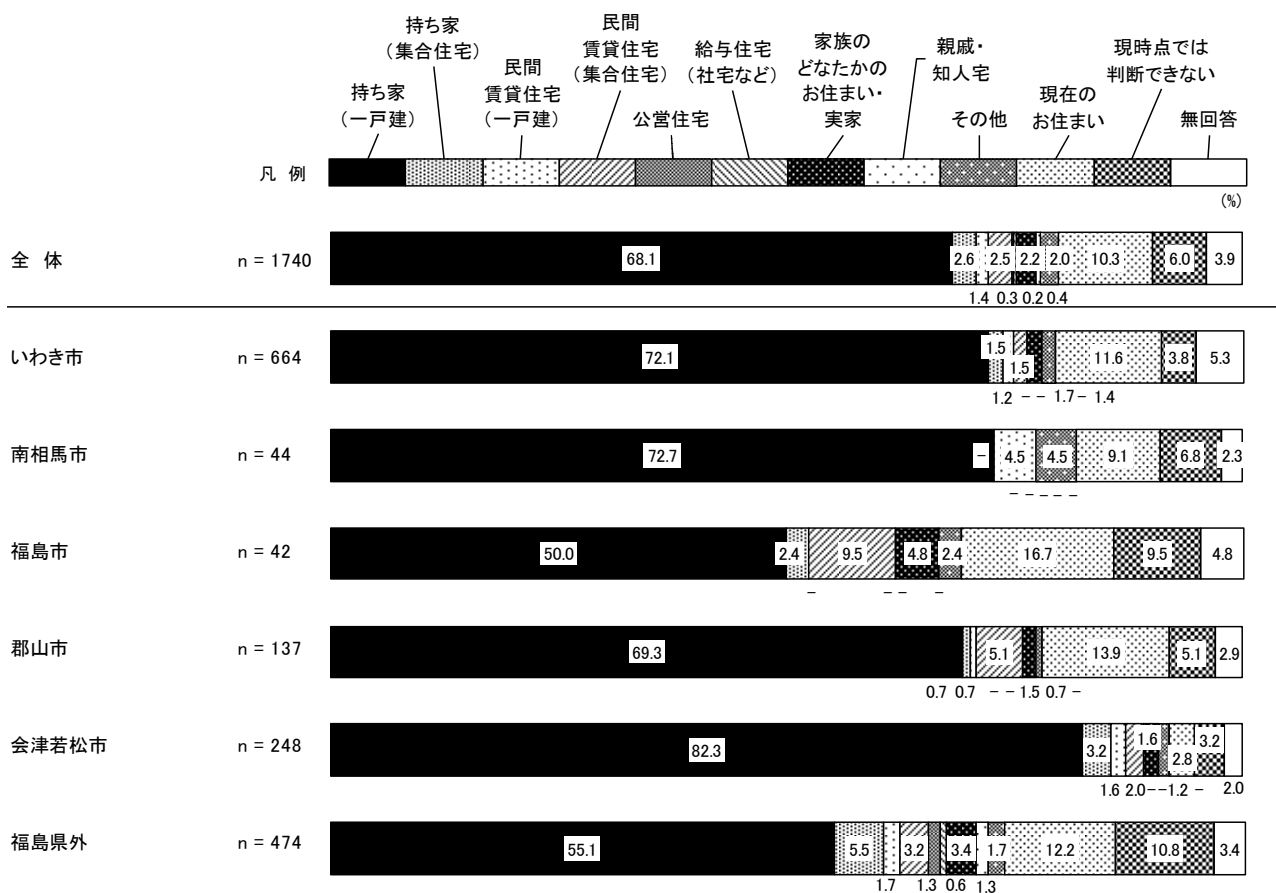
世帯構成別にみると、全体と同様の傾向にある。

主な避難先自治体別にみると、「持ち家（一戸建）」は会津若松市（82.3%）で高くなっている。

<図表3-2-4-2 入居を希望しない場合に希望する住居形態（世帯構成別）>



<図表3-2-4-3 入居を希望しない場合に希望する住居形態（主な避難先自治体別）>



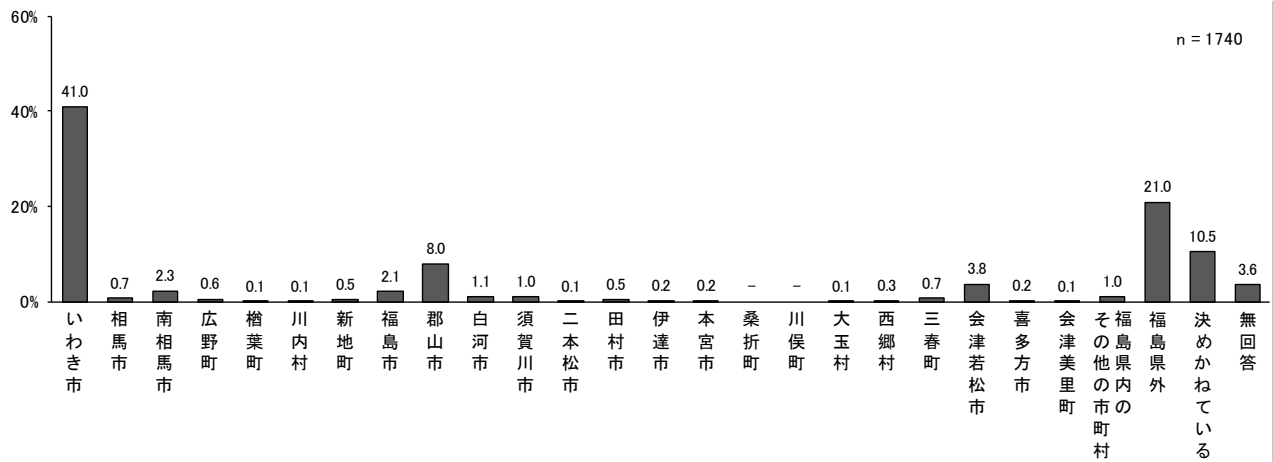
3-2-5 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体

【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問8-4 入居を希望しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

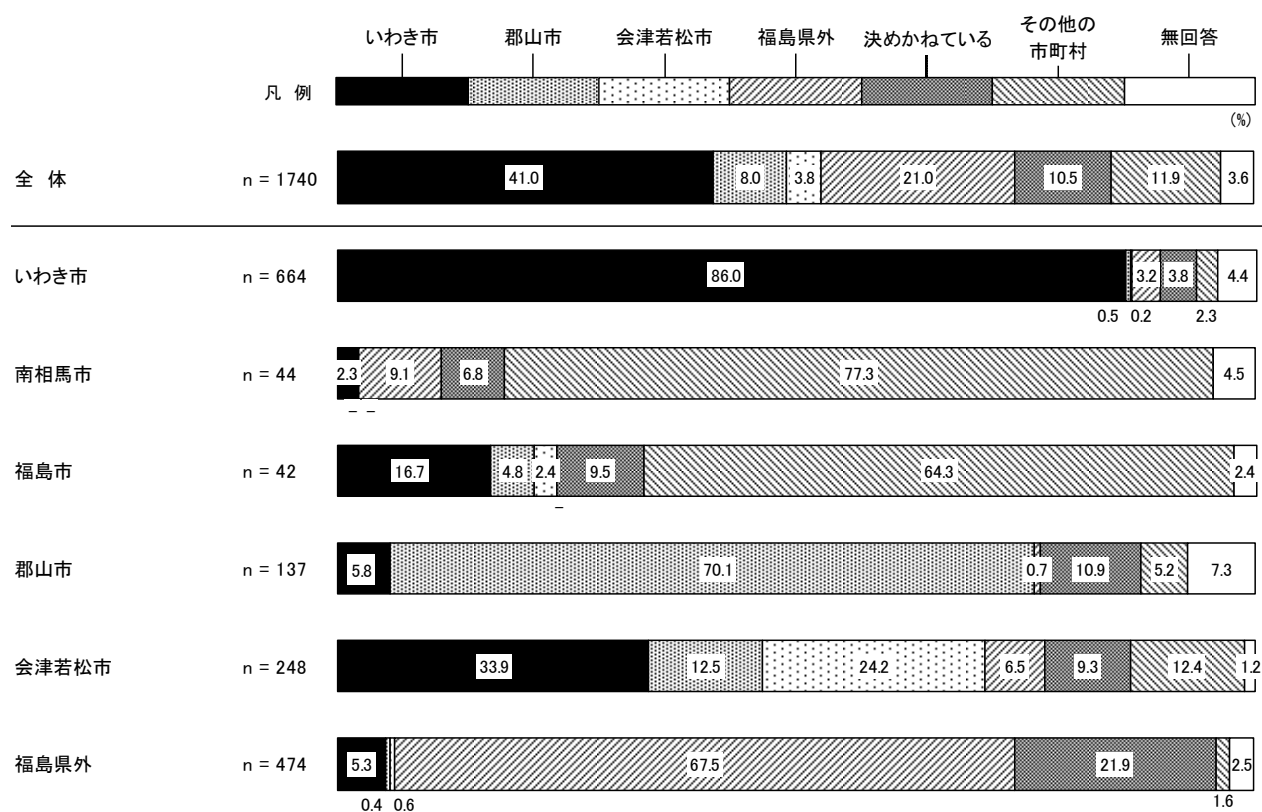
復興公営住宅に入居を希望しない場合への居住したい自治体については、「いわき市」が41.0%と最も高く、次いで、「福島県外」が21.0%、「決めかねている」が10.5%となっている。
世帯構成別にみても、全体と同様の傾向である。

<図表3-2-5-1 入居を希望しない場合に居住したい自治体>



主な避難先自治体別にみると、現在いわき市に避難している世帯の86.0%が同じ「いわき市」への転居を希望しており、会津若松市（24.2%）、郡山市（70.1%）と比べ、「いわき市」は同じ自治体への転居を希望する割合が高くなっている。一方、福島県外に避難している世帯の67.5%が福島県外への転居を希望しているが、「決めかねている」と回答した世帯も21.9%となっており、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

<図表3-2-5-2 入居を希望しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3 将来の意向

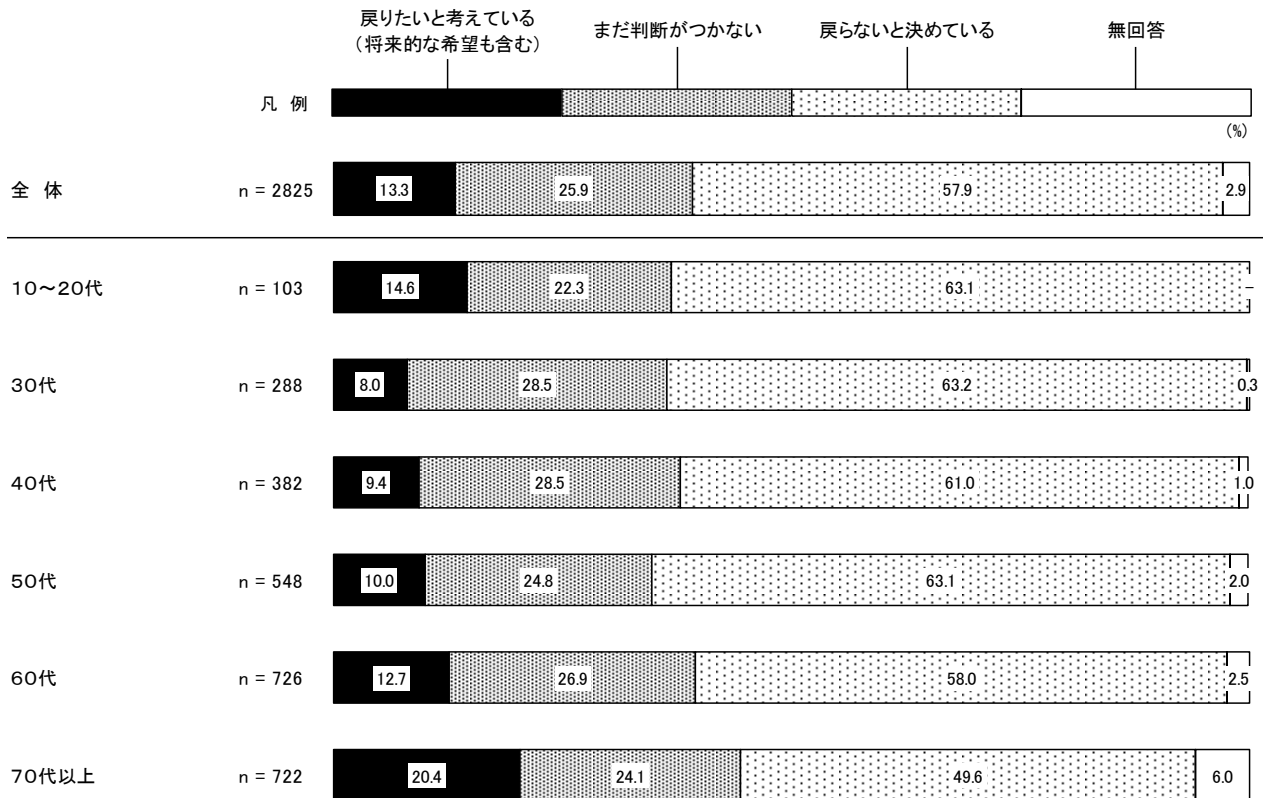
3-3-1 大熊町への帰還意向

問9 将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。（〇は1つ）

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還意向については、「戻らないと決めている」が57.9%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が25.9%、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が13.3%となっている。

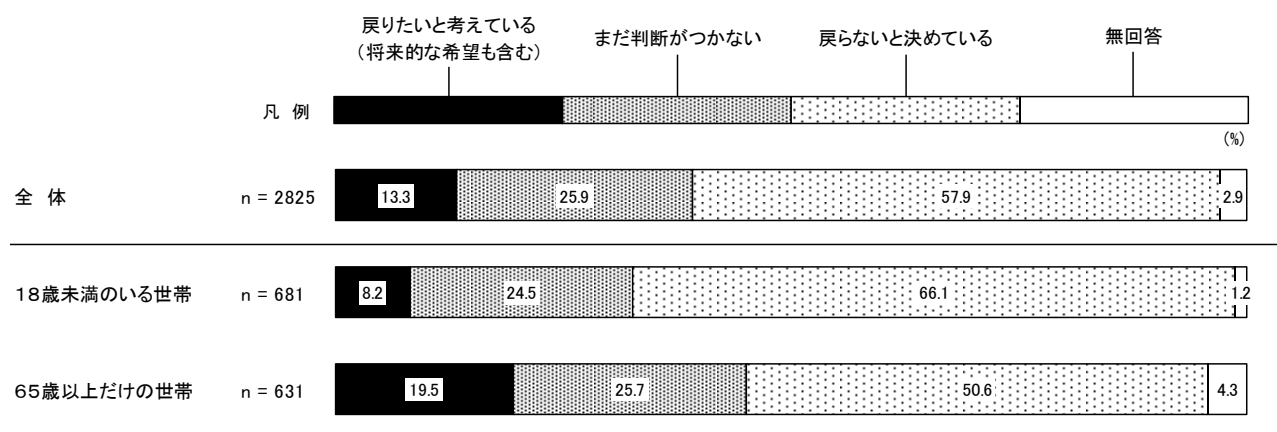
回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、30代以降、年齢が高くなるにつれ高くなっており、70代以上では20.4%となっている。

<図表3-3-1-1 大熊町への帰還意向（年齢別）>



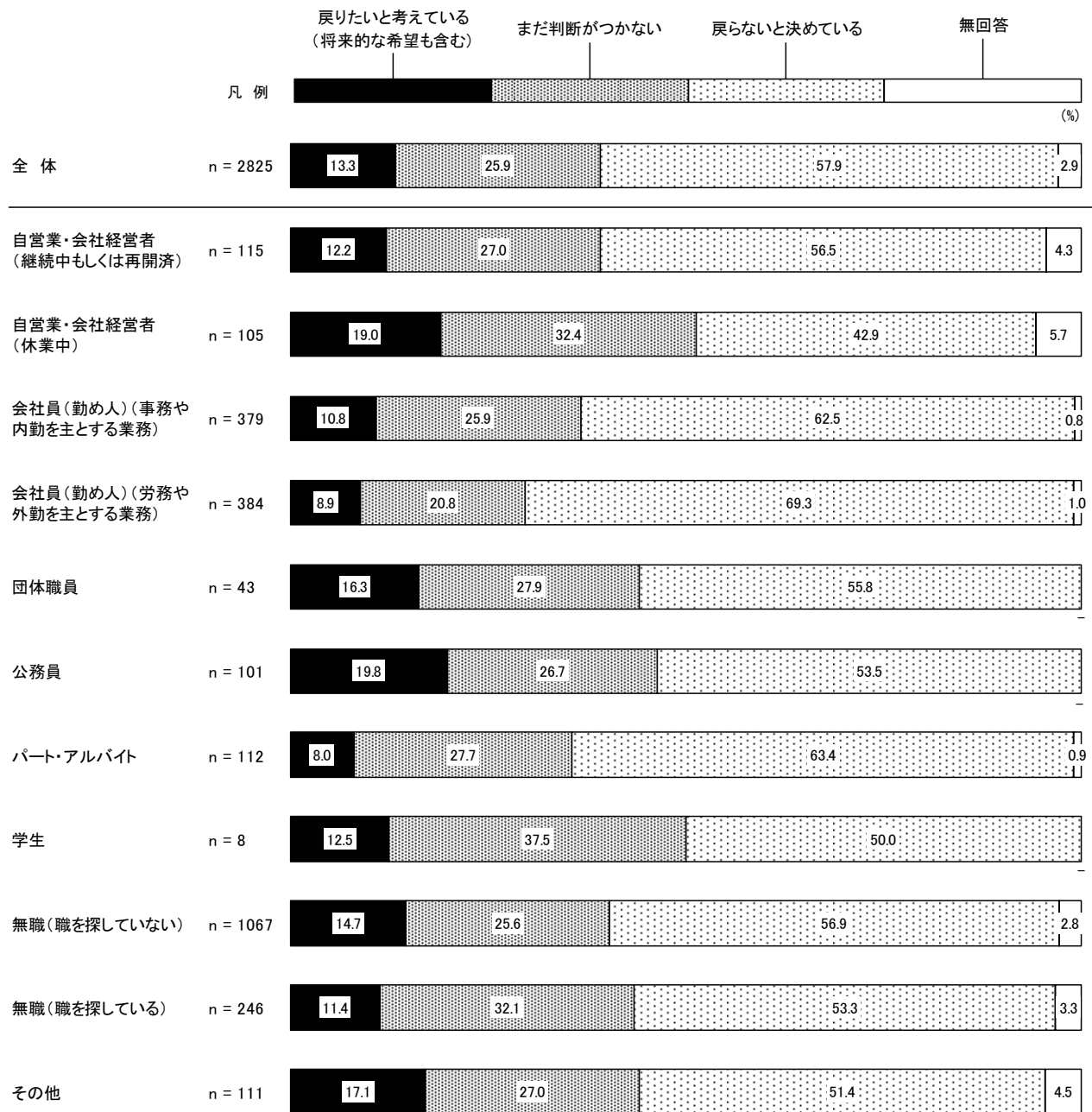
世帯構成別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、65歳以上だけの世帯では19.5%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-1-2 大熊町への帰還意向（世帯構成別）>



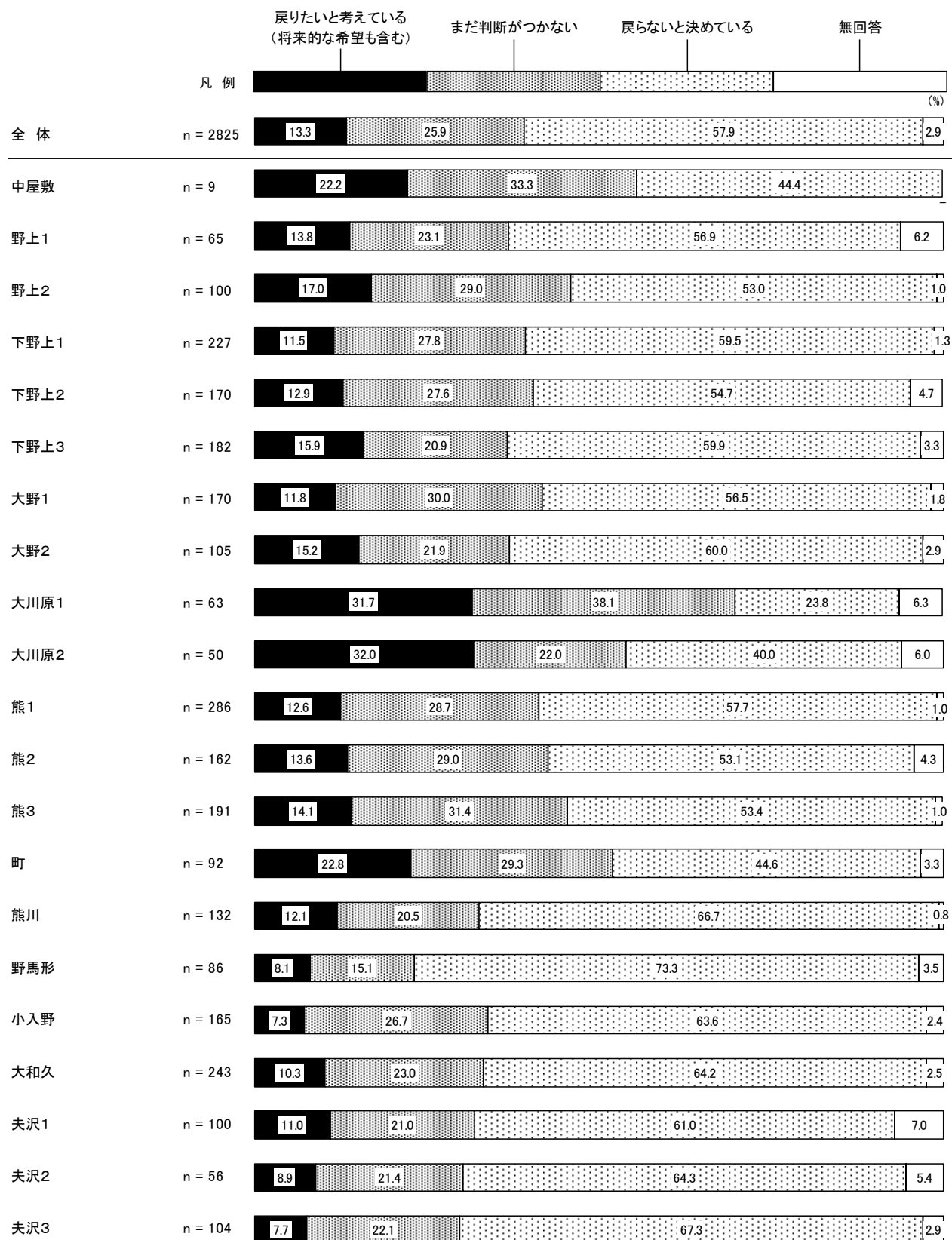
職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、公務員が19.8%、自営業・会社経営者（休業中）が19.0%となっており、他の職業に比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）が69.3%、パート・アルバイトが63.4%、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）が62.5%で、他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-3-1-3 大熊町への帰還意向（職業別）>



震災発生当時の行政区別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、大川原2、(32.0%)、大川原1(31.7%)、町(22.8%)が、他の行政区と比べ高くなっている。「戻らないと決めている」は、大川原1(23.8%)が、他の行政区と比べ特に低くなっている。

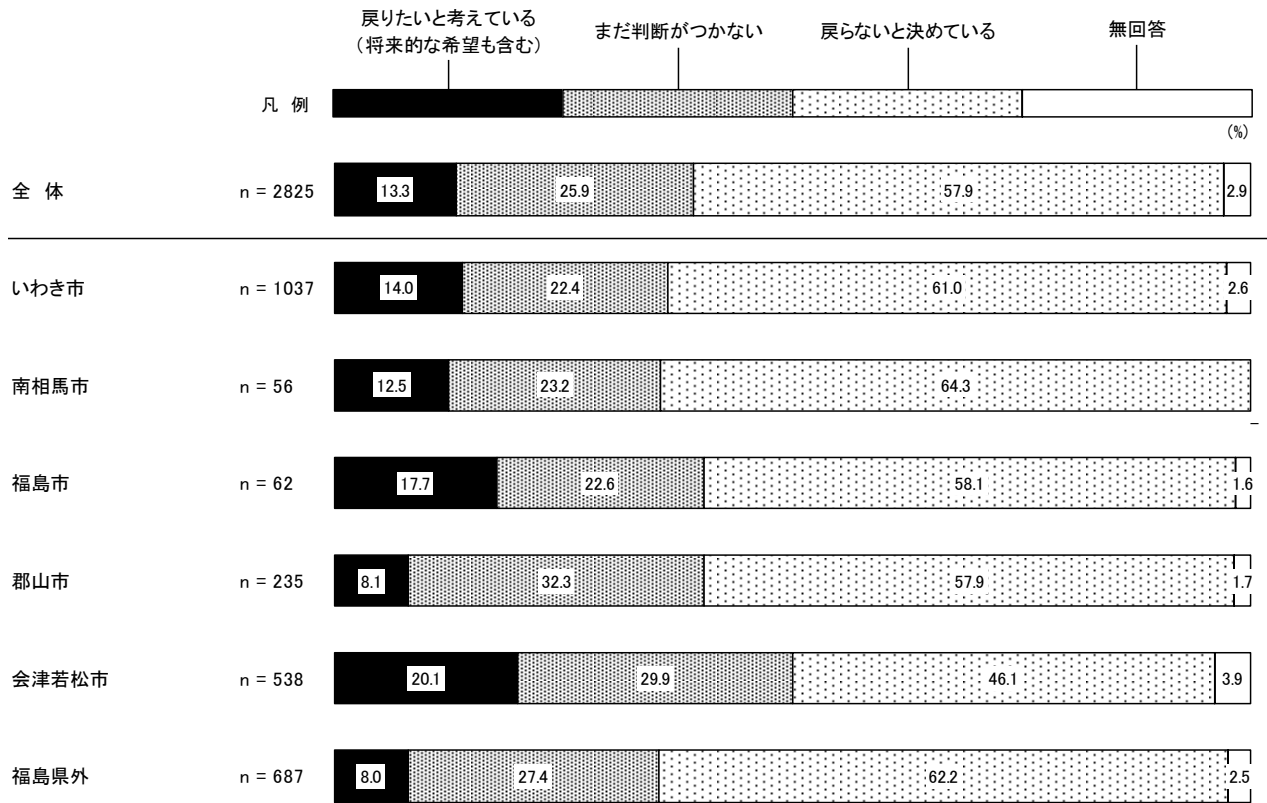
<図表3-3-1-4 大熊町への帰還意向(震災発生当時の行政区別)>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、会津若松市では 20.1%、福島市では 17.7%となっており、他の避難先自治体に比べ高くなっている。

<図表3-3-1-5 大熊町への帰還意向(主な避難先自治体別)>



3-3-2 大熊町との“つながり”を保ちたいか

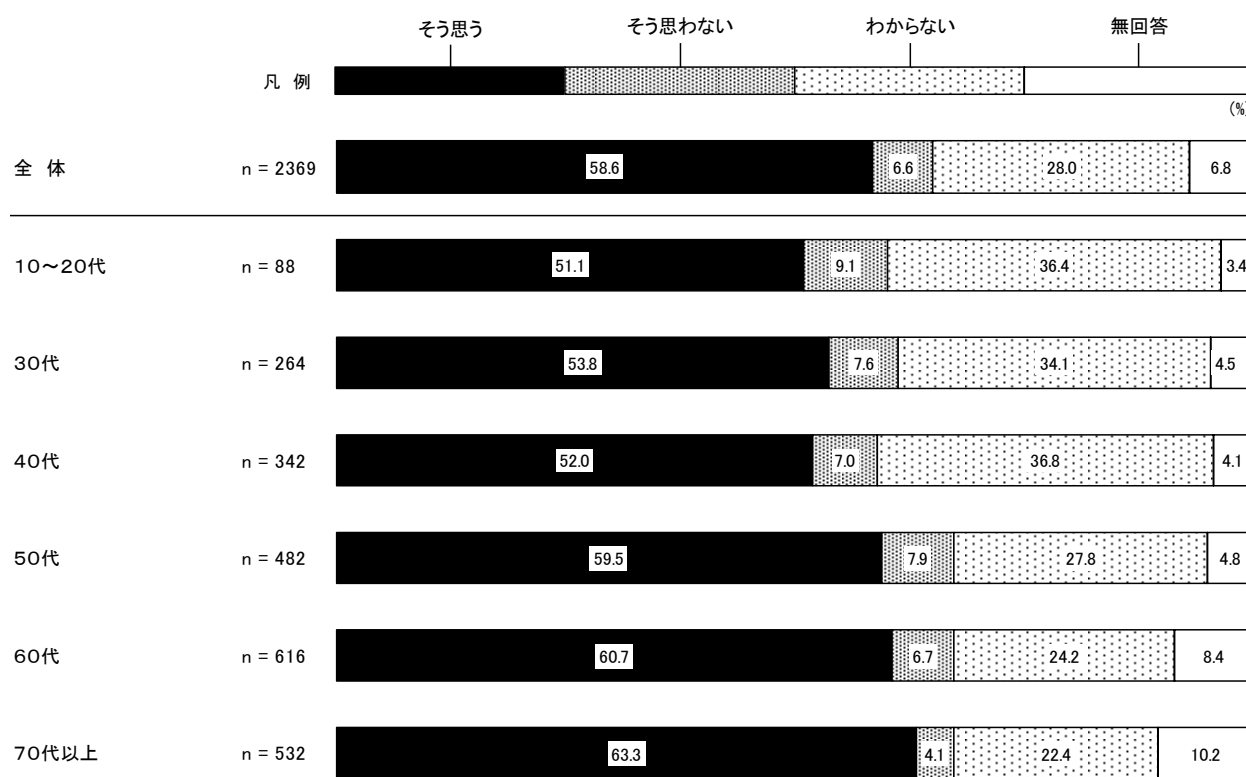
【大熊町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方、現時点で戻らないと決めている方（問9で「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問9-3 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

大熊町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」と回答した世帯が58.6%と最も高く、次いで、「わからない」と回答した世帯が28.0%、「そう思わない」と回答した世帯が6.6%となっている。

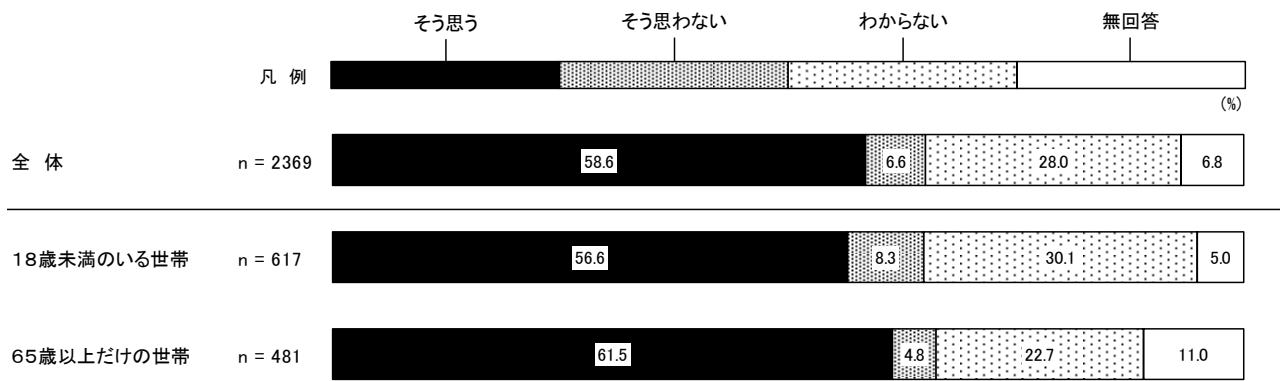
回答者の年齢別にみると、全ての年齢で「そう思う」と回答した世帯が半数以上を占め、年齢が高くなるにつれその割合が高くなっている。

<図表3-3-2-1 大熊町との“つながり”を保ちたいか（年齢別）>

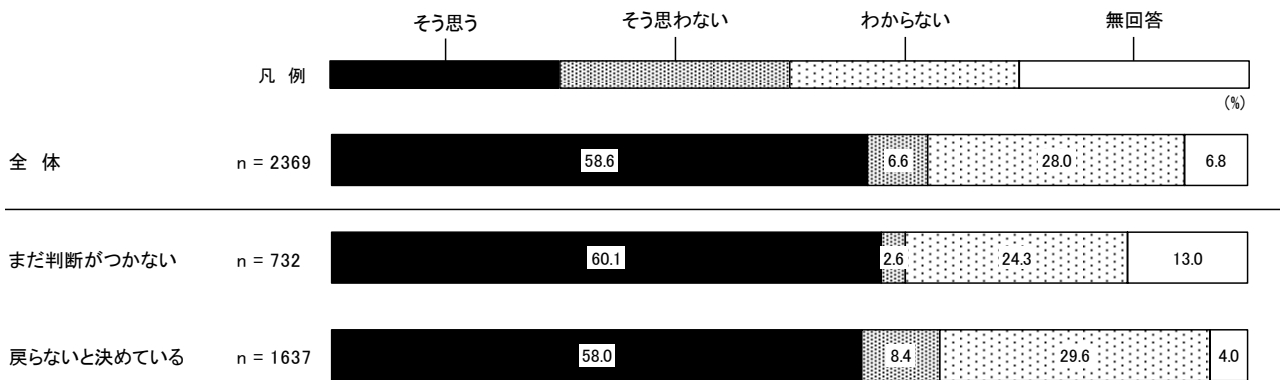


世帯構成別、帰還意向別のいずれにおいても、「そう思う」と回答した世帯は半数以上を占める。

<図表3-3-2-2 大熊町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）>



<図表3-3-2-3 大熊町との“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）>



3-3-3 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報

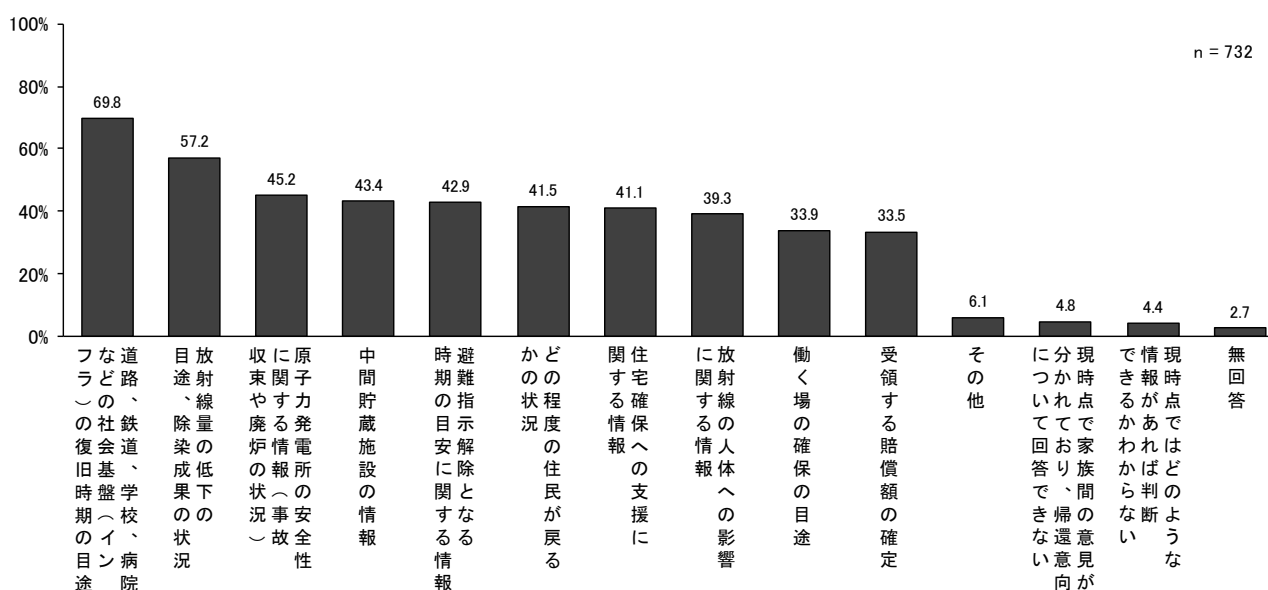
(1) 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【大熊町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問9で「2」と回答した方）にうかがいます。】

問9-2-1 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が69.8%と最も高く、次いで、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が57.2%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が45.2%となっている。

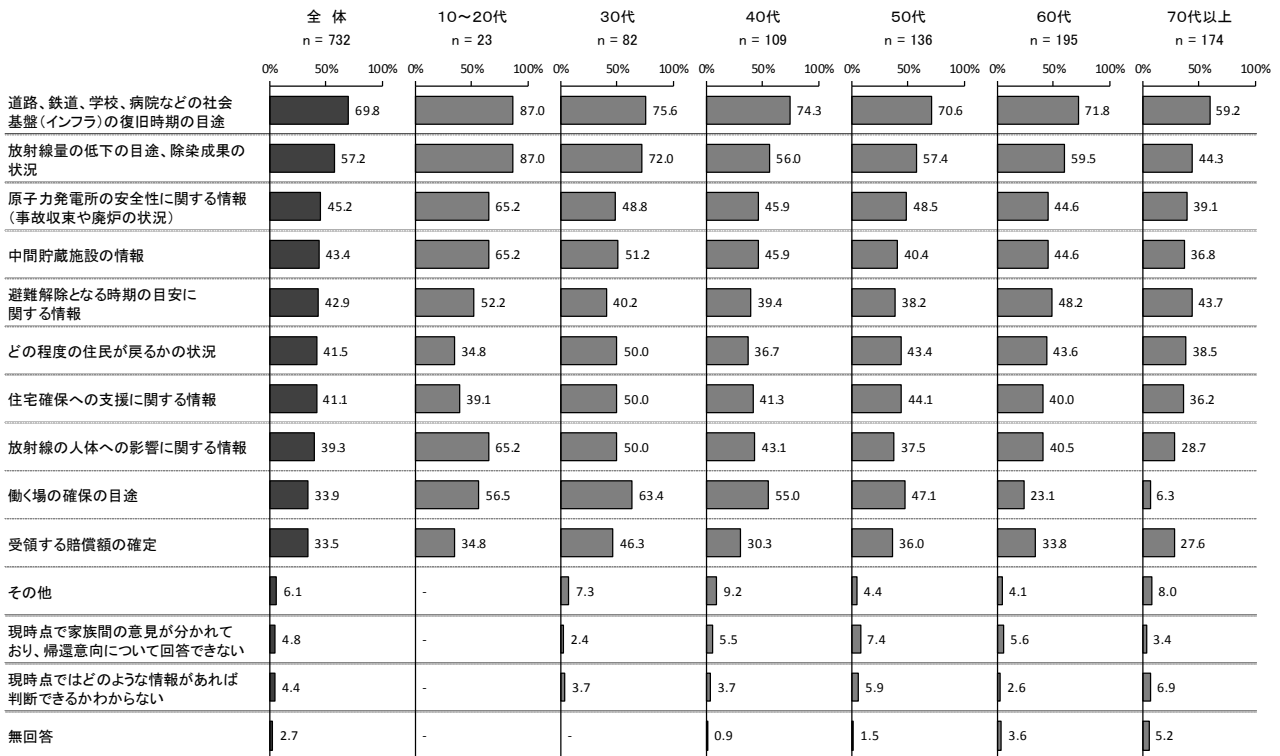
<図表3-3-3-1 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

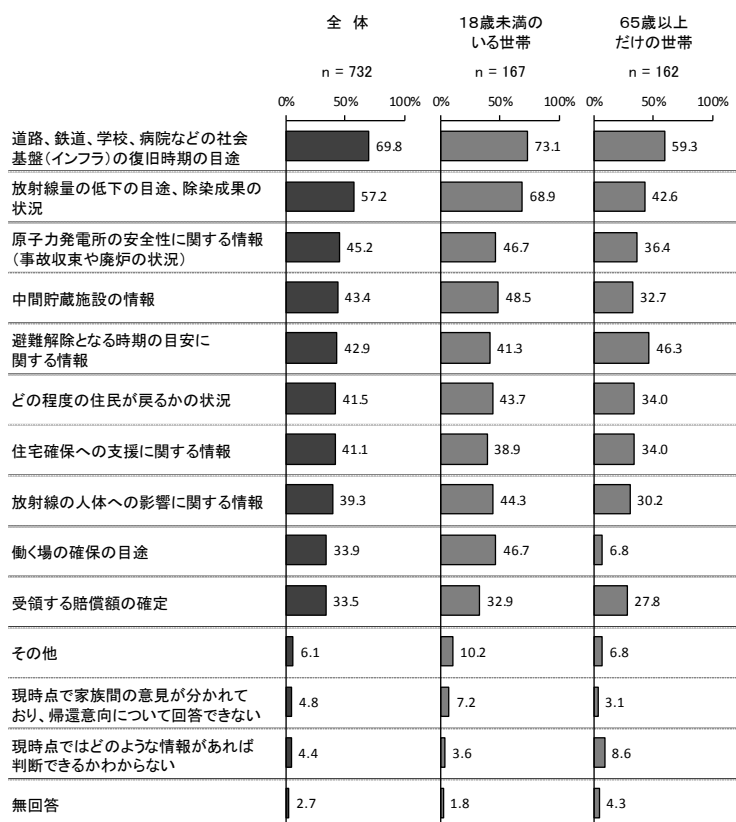
回答者の年齢別にみても、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が全ての年齢で最も高くなっている。

<図表3-3-3-2 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）>



世帯構成別にみても、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が最も高くなっている。

<図表3-3-3-3 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>

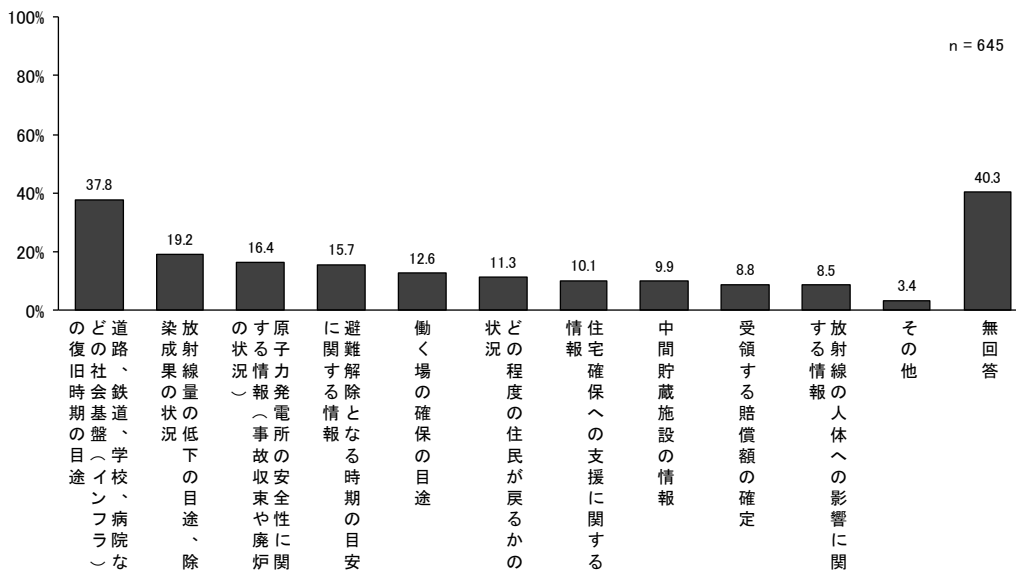


(2) 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【大熊町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問9で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問9-2-2 上記「1」から「11」で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報（問9-2-1）のうち、重視するものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が37.8%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目処、除染成果の状況」が19.2%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が16.4%となっている。

＜図表3-3-3-4 大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの（3つまで）＞



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

〔道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途〕

- 水道電気ガスなどの生活インフラと商業施設で判断したい。(40代)
- 病院、道路、学校、鉄道を早く復旧すること。(50代)
- 社会基盤、商業施設は、以前と同等くらいになってもらいたい。(30代)
- 病院、商業施設、ペットが居るので動物病院の整備。(50代)
- お店や病院がしっかりしていないと、住むには難しい。(30代)
- 上下水道、病院、商店等、社会基盤の回復。(70代以上)
- 子どもが小さい為、学校や病院の充実。(30代)
- 病気やケガに対する安心感。(40代)
- 持病があるので、急変した時に救急で処置できるか。(60代)
- 親も年を取っている為、病院の復旧時期が気になる。(50代)
- 急速な高齢化で入所待機者も多く、社会福祉施設を設ける事は、帰還にもつながる。(40代)
- 世帯全員が老人（子ども無）のため老人施設があれば。(60代)
- 年数がかかってもよいが、生活に不自由なく暮らせるよう整備されること。(20代以下)
- 万一の原発事故が発生した際の避難経路（安全な交通手段）の確保。(60代)

[放射線量の低下の目途、除染成果の状況]

- 原発事故発生前の汚染レベルが帰還の条件。(40代)
- 帰宅困難区域であるため除染の目処が立っていないのが困る。(70代以上)
- 除染の施工方法がでたらめなので、放射線管理技術の管理の元で施工してほしい。(60代)
- 子どもがいるため線量低下が第一条件となる。(30代)
- 小さい子どもがいるので被ばくが心配。(20代以下)
- 健康に支障をきたさない程度まで被ばく線量が低下するまで。(40代)
- 日常生活に支障がないレベルになっていること。(30代)
- 放射線量を低下させて、懸念、不安、リスクを払拭すること。(70代以上)
- 年間1ミリシーベルト以下になったら帰りたい。(30代)
- 長年放置した家の中の除染は可能か。(50代)
- 自宅周辺の線量が、どのくらいなのか定期的に調べてもらいたい。(50代)
- 田、畑、果樹園、山菜、川釣り、海釣り他、元に戻らないと難しい。(60代)
- 生活する上でどの位の線量なら安全かはっきりしてほしい。(50代)
- 東京電力は信用出来ないので、正しい情報を包み隠さず発表できる社会になった時に改めて考える。(70代以上)

[原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）]

- 福島第2原子力発電所の廃炉の決定。(40代)
- 一体いつになったら廃炉になるのか。(20代以下)
- 廃炉に向けての作業中に、何らかの事故が再度起きるかも（電力の対応に不安）。(60代)
- 廃炉作業真ただ中で、帰還とされても、生活の安心が得られない。(30代)
- 廃炉の状況等、最新の情報を発信してほしい。(50代)
- 廃炉途中で再び放射性物質が漏れることへの危惧。(70代以上)
- 事故の収束を含めた放射線管理状況（除染等も含む）。(40代)
- 東電の説明は専門的すぎてちんぷんかんぷん。安全性を分かりやすく説明してほしい。(30代)
- 安全に関する技術的な確保。(60代)
- メルトダウンした燃料をどう処理するのか。汚染水処理。(40代)
- 全ての燃料の取外し情報の開示。(50代)
- 原子力施設の情報を隠蔽することなく公開すること。(30代)
- デブリへの対応の見通し（格納容器の水密化）。(60代)
- トレンチの高濃度汚染水、溶触したデブリなど、これからの対応が肝心。(70代以上)

3-3-4 大熊町への帰還時期

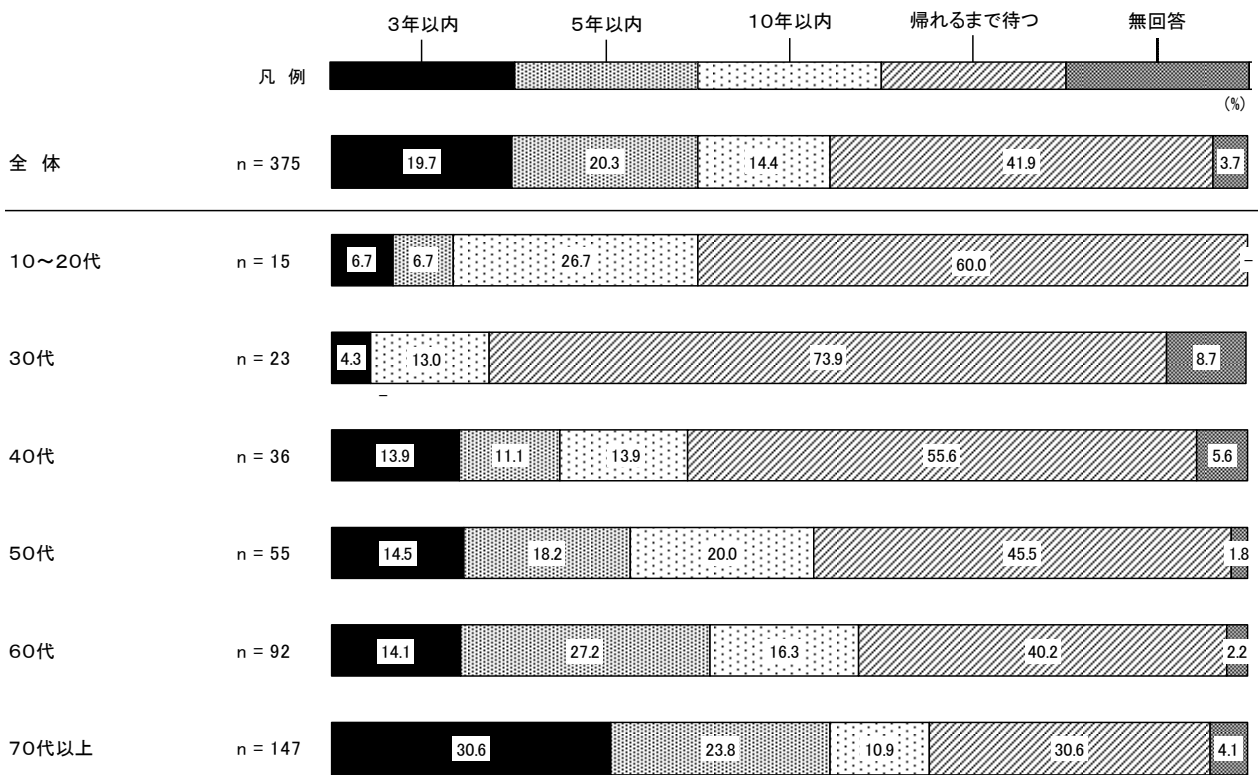
【大熊町への帰還について、現時点で戻りたいと考えている方（問9で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問9-1-1 何年以内であれば待てますか。（〇はひとつ）

大熊町への帰還時期については、「帰れるまで待つ」が41.9%と最も高く、次いで「5年以内」が20.3%、「3年以内」が19.7%となっている。

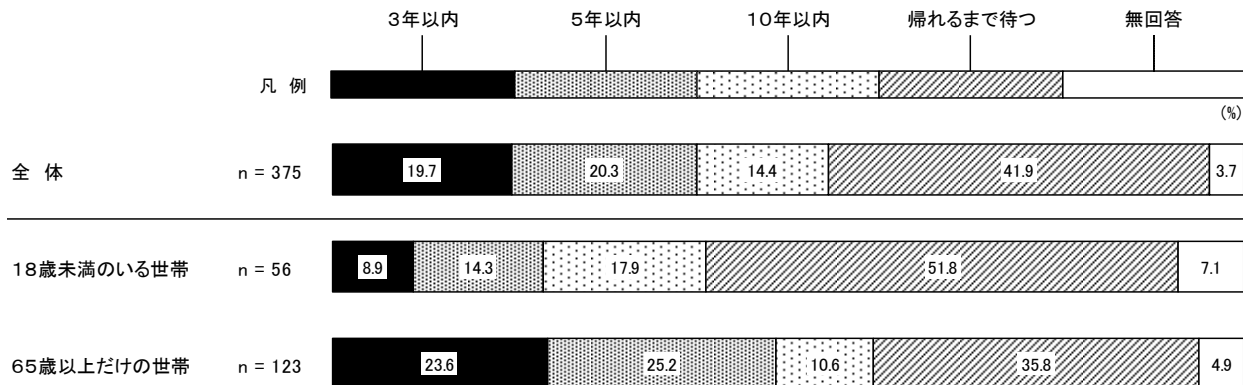
回答者の年齢別にみると、40代では「帰れるまで待つ」が55.6%と半数以上であるが、70代以上では「帰れるまで待つ」は30.6%となり、逆に「3年以内」が30.6%と年齢別で最も高くなる。

<図表3-3-4-1 大熊町への帰還時期（年齢別）>



世帯構成別にみると、「帰れるまで待つ」は18歳未満のいる世帯が51.8%と半数以上を占める。一方、「3年以内」は65歳以上だけの世帯が23.6%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-4-2 大熊町への帰還時期（世帯構成別）>



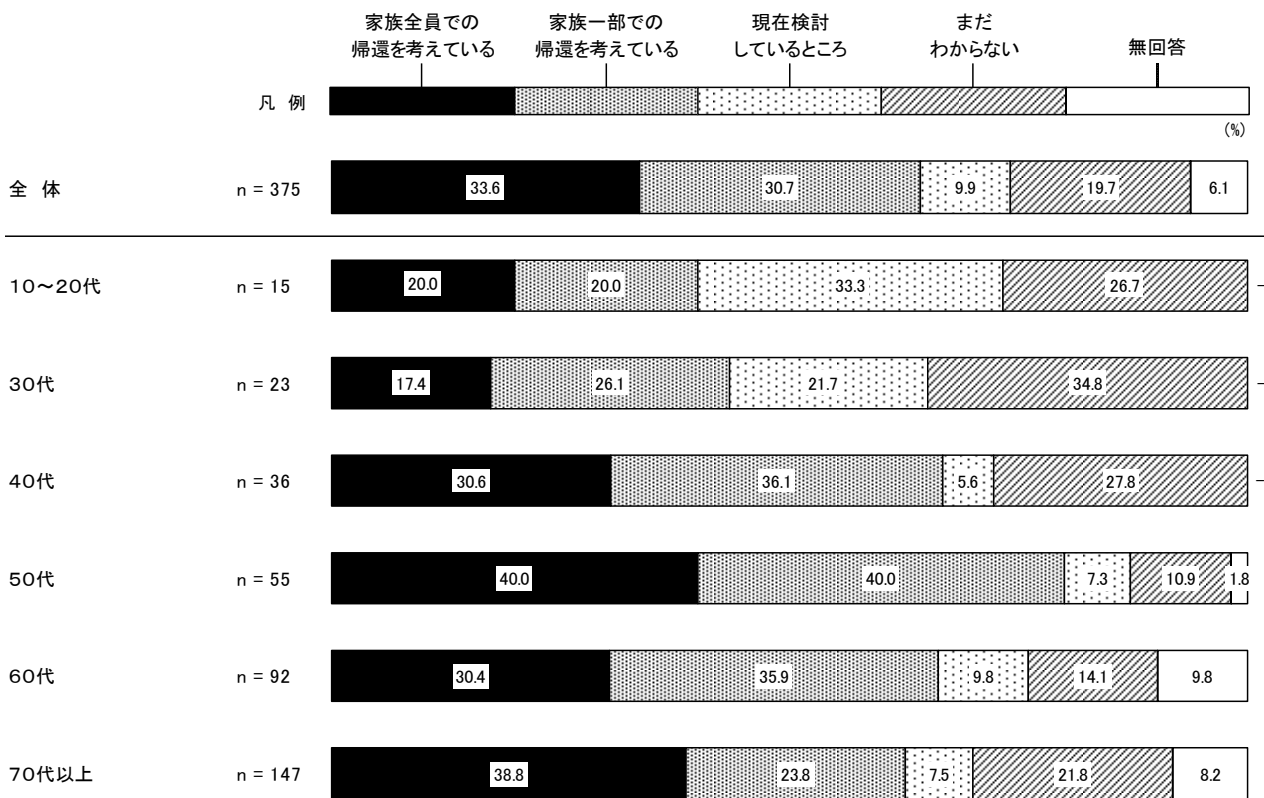
3-3-5 大熊町へ戻る場合の家族

【大熊町への帰還について、現時点で戻りたいと考えている方（問9で「1」と回答した方）にうかがいます。】
 問9-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇はひとつ）

大熊町への戻る場合の家族については、「家族全員での帰還を考えている」が33.6%と最も高く、次いで「家族一部での帰還を考えている」が30.7%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」を合わせて29.6%となっている。

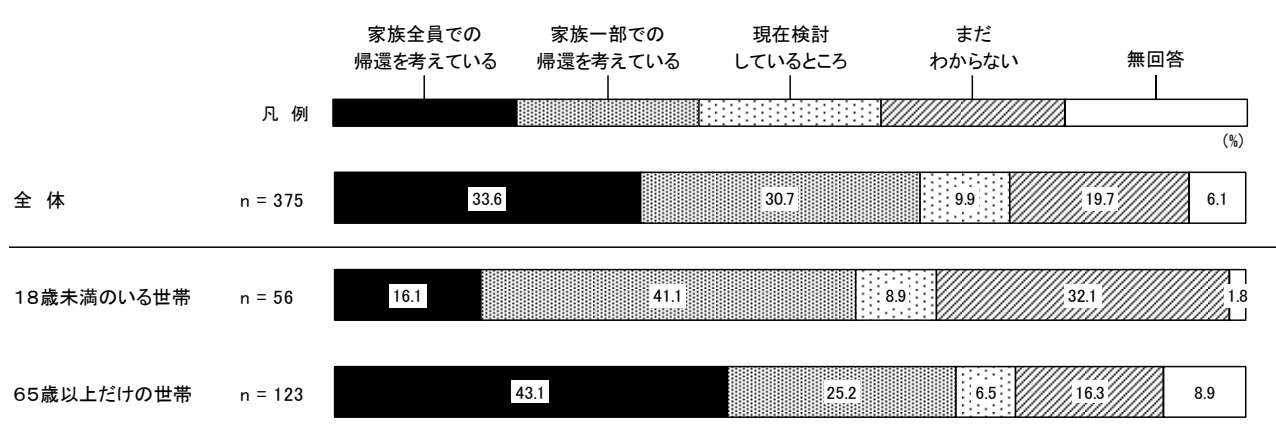
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、50代が40.0%、70代以上が38.8%と約4割を占める。

<図表3-3-5-1 大熊町へ戻る場合の家族（年齢別）>



世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65歳以上だけの世帯が43.1%、18歳未満のいる世帯では16.1%となっている。一方、「家族一部での帰還を考えている」は65歳以上の世帯では25.2%、18歳未満のいる世帯では41.1%となっている。

＜図表3-3-5-2 大熊町へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



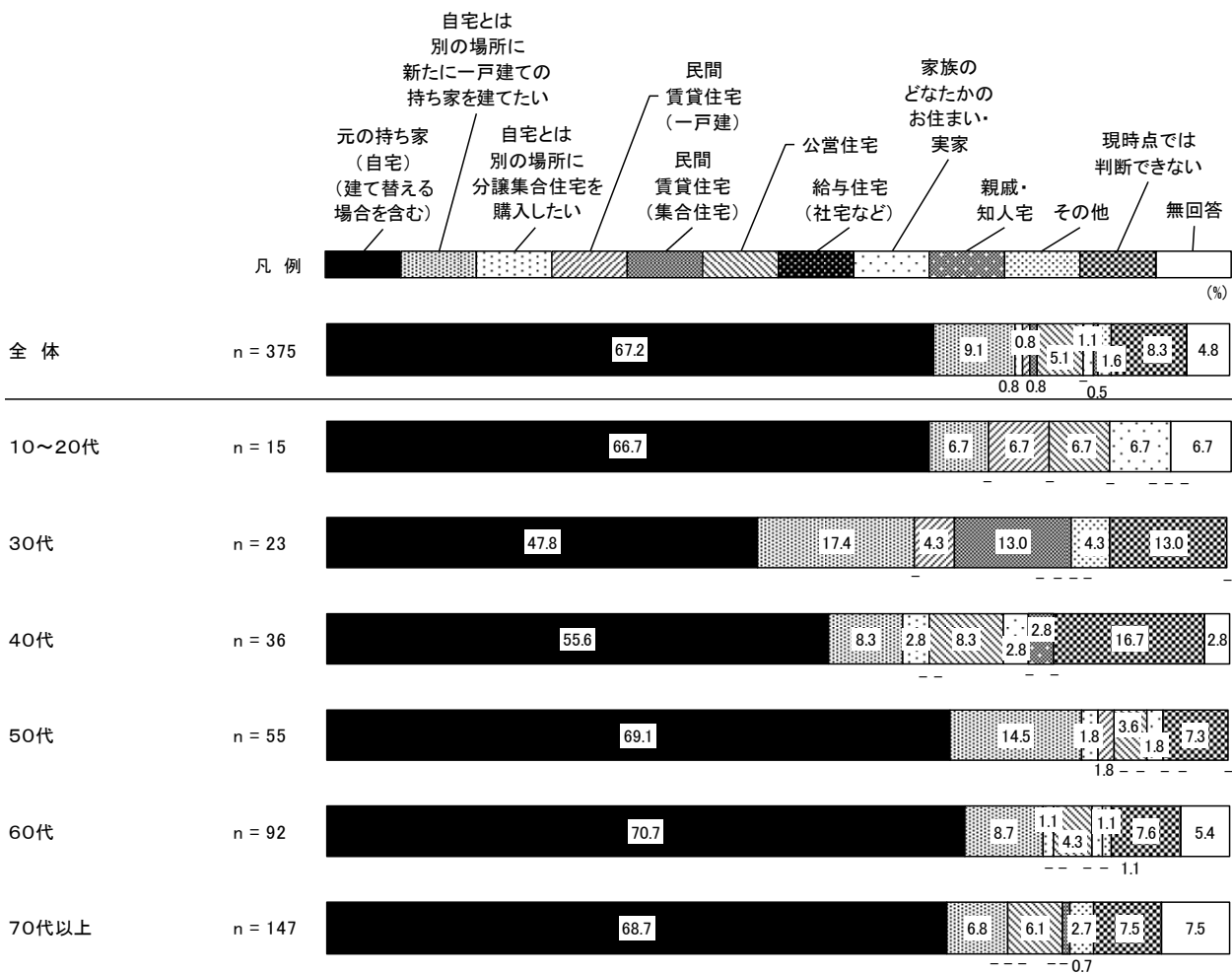
3-3-6 大熊町へ帰還する場合の住居形態

【問9で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

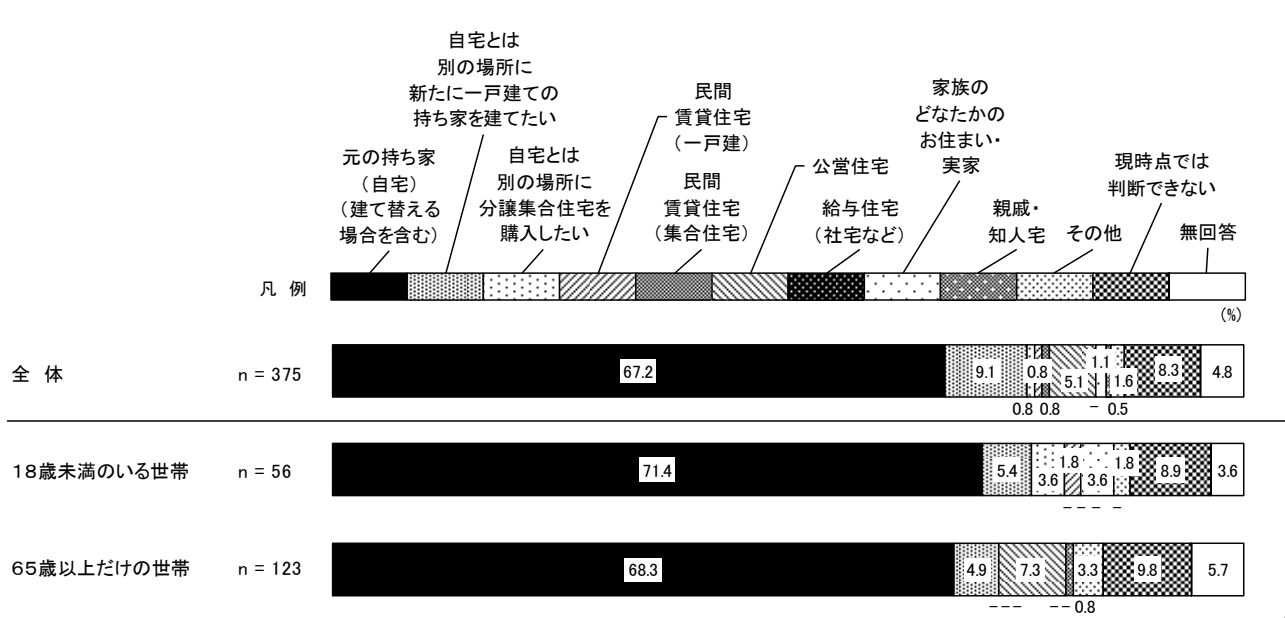
大熊町への帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が67.2%と最も高く、次いで「自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」が9.1%、「現時点では判断できない」が8.3%となっている。

<図表3-3-6-1 大熊町へ帰還する場合の住居形態(年齢別)>



世帯構成別にみても、「元も持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は全ての世帯構成で最も高くなっている。

<図表3-3-6-2 大熊町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



III 調査結果

サンプル数が少ないものの、行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」と回答した世帯は、いずれの行政区でも高い割合を示している。また、「自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」と回答した世帯は、下野上3、大和久、夫沢1、夫沢2において、他の行政区と比較して多くなっており、約2割を占めている。

<図表3-3-6-3 大熊町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の行政区別）>

		(%)												
	n	元の持ち家（自宅を含む）	新たに一戸建ての持ち家を建てたい	自宅とは別の場所に購入したい	自宅とは別の場所に分譲集合住宅を	民間賃貸住宅（一戸建）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公営住宅	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人家	その他	現時点では判断できない	無回答
全体	375	67.2	9.1	0.8	0.8	0.8	5.1	-	1.1	0.5	1.6	8.3	4.8	
中屋敷	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
野上1	9	77.8	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-	
野上2	17	88.2	5.9	-	-	-	5.9	-	-	-	-	-	-	
下野上1	26	80.8	3.8	-	-	3.8	3.8	-	-	-	-	7.7	-	
下野上2	22	68.2	-	-	-	-	13.6	-	-	4.5	-	9.1	4.5	
下野上3	29	65.5	17.2	-	-	-	-	-	3.4	-	-	3.4	10.3	
大野1	20	45.0	10.0	-	-	5.0	15.0	-	-	5.0	-	15.0	5.0	
大野2	16	68.8	6.3	-	-	-	6.3	-	-	-	6.3	6.3	6.3	
大川原1	20	80.0	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	10.0	
大川原2	16	68.8	12.5	6.3	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	
熊1	36	80.6	8.3	-	2.8	-	-	-	2.8	-	-	5.6	-	
熊2	22	50.0	9.1	-	-	-	4.5	-	4.5	-	-	18.2	13.6	
熊3	27	55.6	14.8	3.7	-	-	11.1	-	-	-	-	7.4	7.4	
町	21	66.7	-	-	4.8	4.8	4.8	-	4.8	-	9.5	4.8	-	
熊川	16	50.0	12.5	6.3	-	-	6.3	-	-	-	-	18.8	6.3	
野馬形	7	42.9	14.3	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	14.3	-	
小入野	12	50.0	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	25.0	16.7	
大和久	25	60.0	20.0	-	4.0	-	8.0	-	-	-	-	8.0	-	
夫沢1	11	63.6	18.2	-	-	-	-	-	-	-	18.2	-	-	
夫沢2	5	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	
夫沢3	8	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

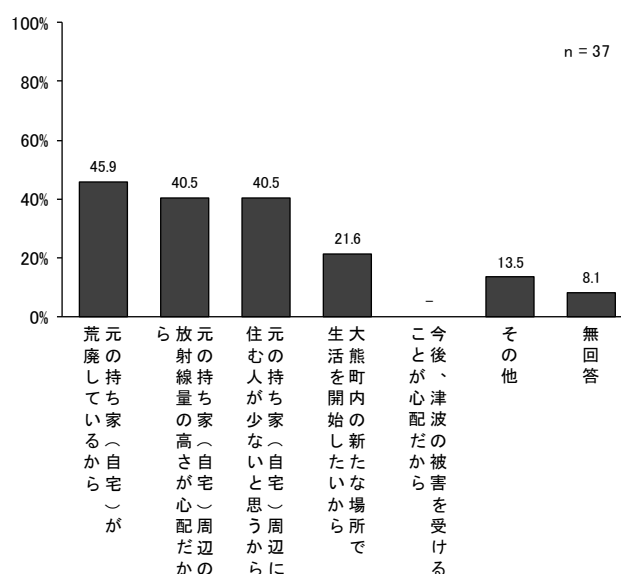
3-3-7 大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問9-4で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問9-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が45.9%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」がともに40.5%となっている。

<図表3-3-7-1 大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



3-3-8 大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

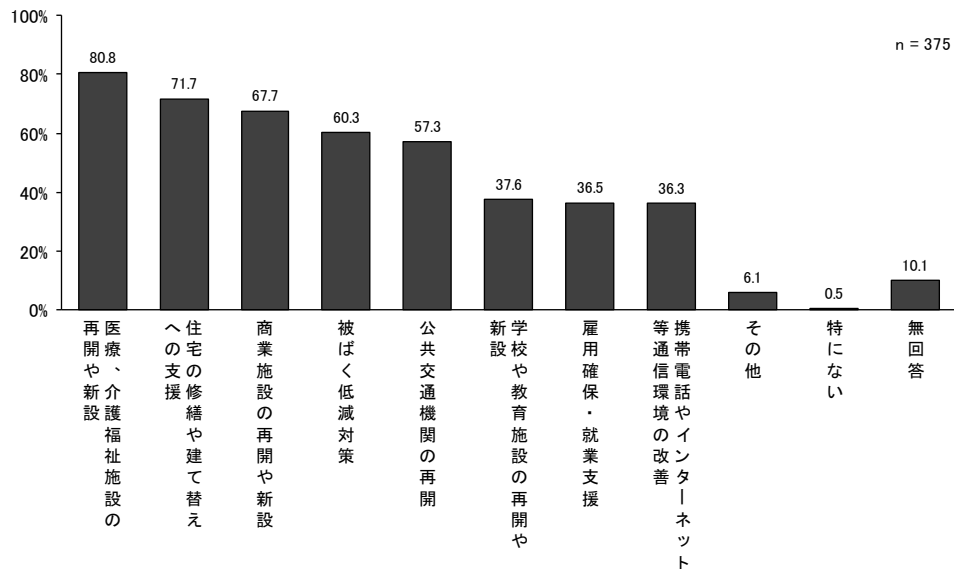
【問9で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 大熊町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

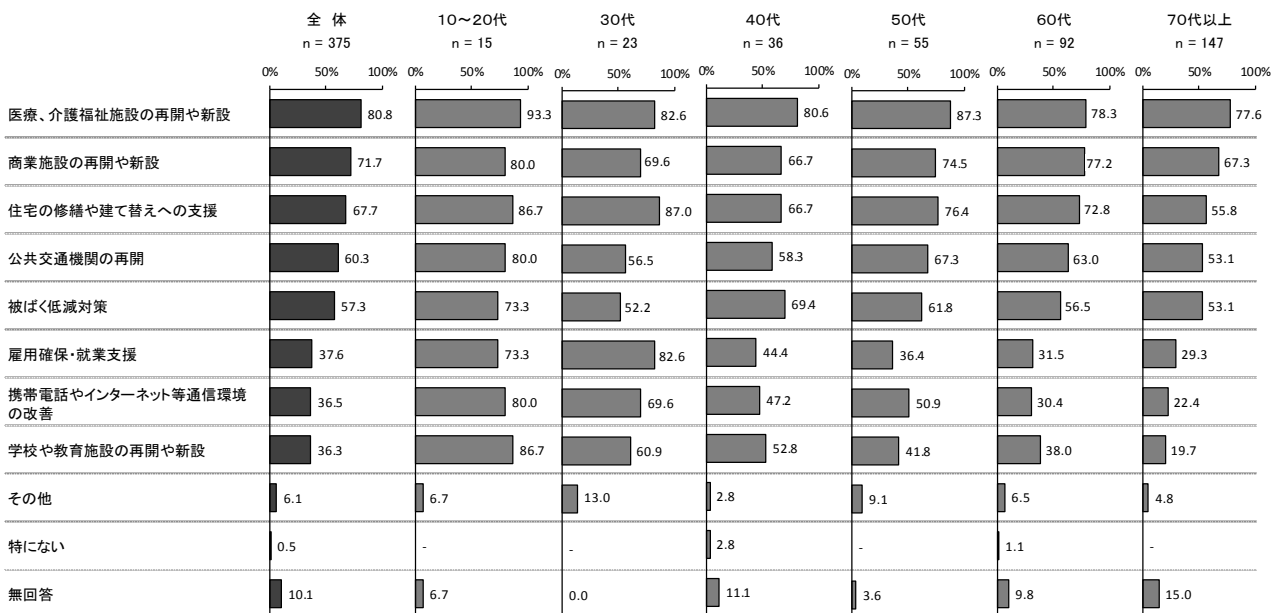
大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が80.8%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替えへの支援」が71.7%、「商業施設の再開や新設」が67.7%となっている。

年齢別にみると、全ての年齢で「医療、介護福祉施設の再開や新設」が8割前後となっている。

＜図表3-3-8-1 大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援＞

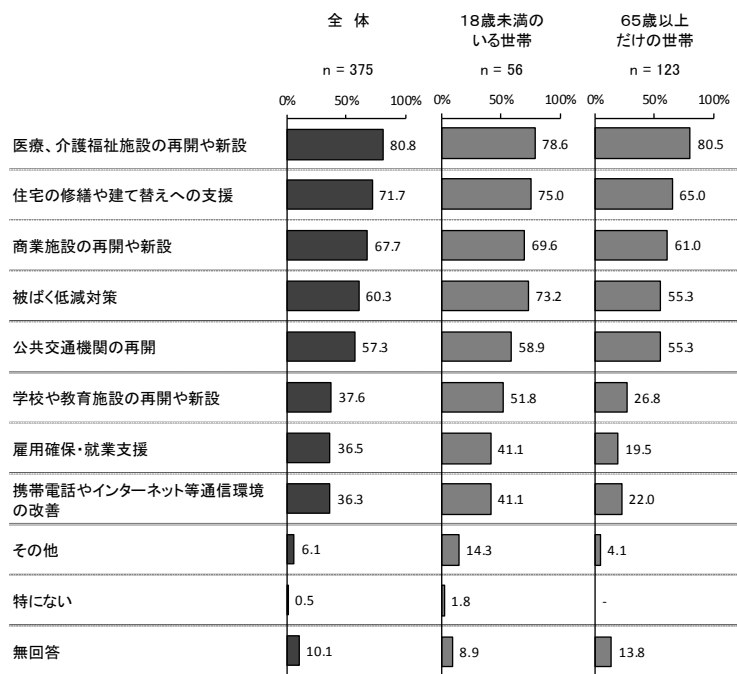


＜図表3-3-8-2 大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「医療、介護福祉施設の再開や新設」、「住宅の修繕や建て替えへの支援」、「商業施設の再開や新設」は7割前後を占めるが、18歳未満のいる世帯では、「被ばく低減対策」(73.2%)、「学校や教育施設の再開や新設」(51.8%)が全体と比べ高くなっている。

<図表3-3-8-3 大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



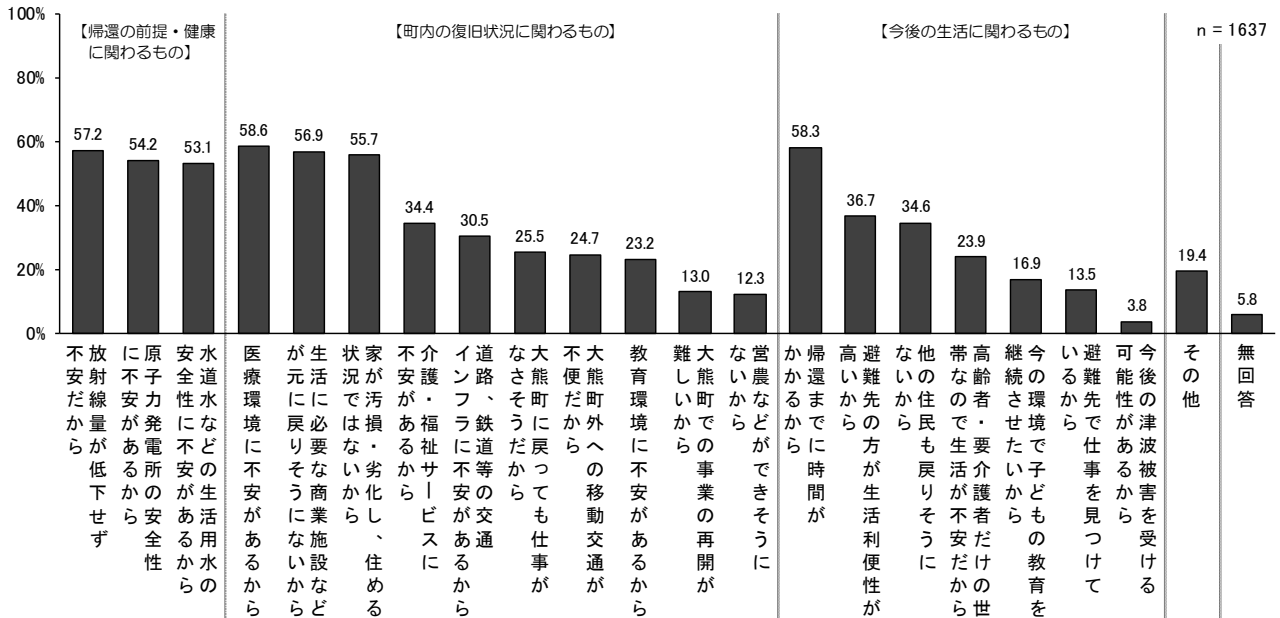
3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由

【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問9-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

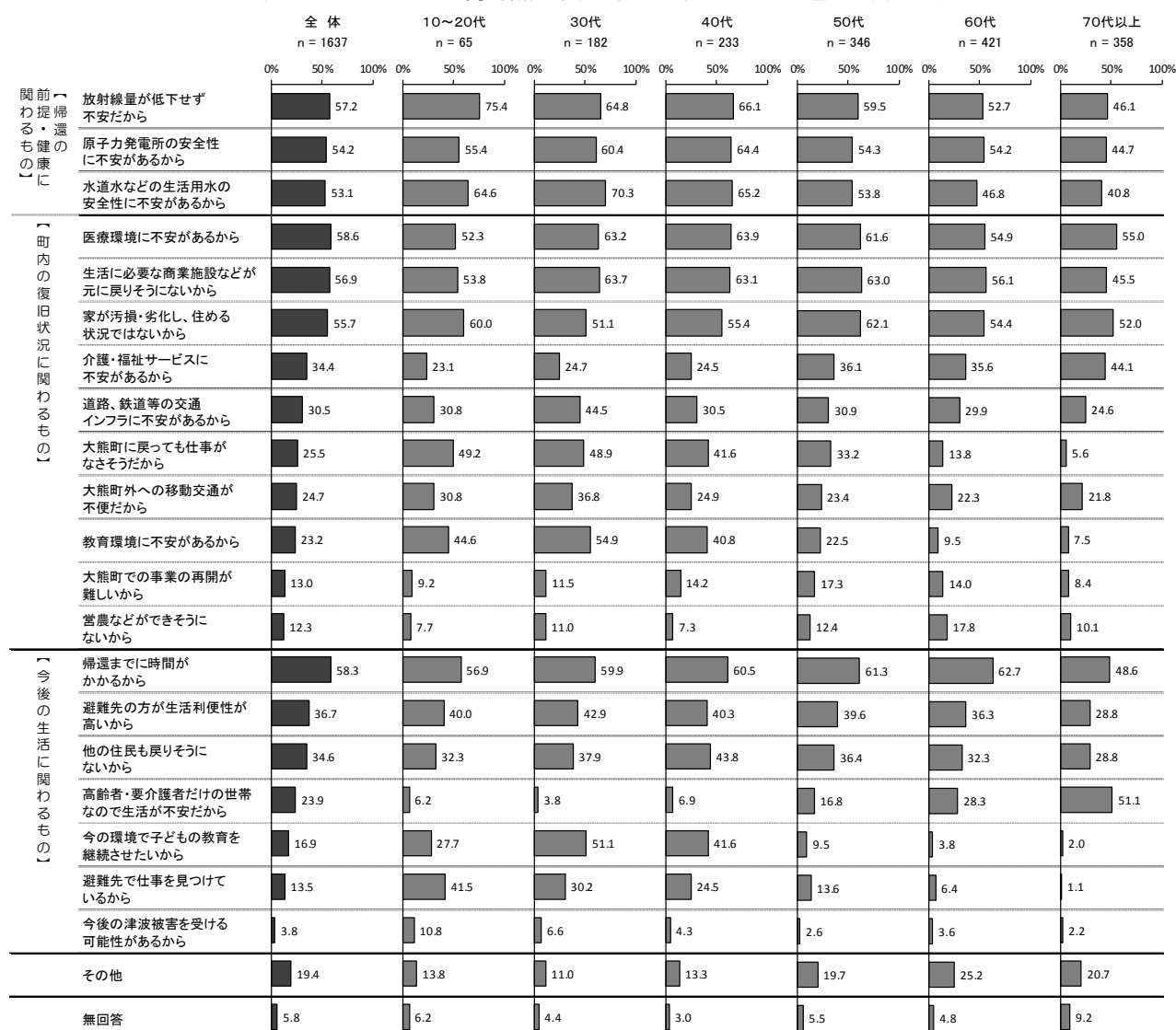
現時点で戻らないと決めている理由については、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「放射線量が低下せず不安だから」が57.2%と最も高く、次いで「原子力発電所の安全性に不安があるから」が54.2%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が53.1%となっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」が58.6%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が56.9%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が55.7%となっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」が58.3%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が36.7%、「他の住民も戻りそうにないから」が34.6%となっている。

<図表3-3-9-1 現時点で戻らないと決めている理由>



回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「放射線量が低下せず不安だから」は、10～20代（75.4%）、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は、40代（64.4%）、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は、30代（70.3%）で他の年齢と比べ高くなっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」は、30代（63.2%）、40代（63.9%）、50代（61.6%）で他の年齢と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」は、40代（60.5%）、50代（61.3%）、60代（62.7%）で他の年齢と比べ高くなっている。「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、60代（28.3%）、70代以上（51.1%）で他の年齢と比べ高くなっている。「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、30代（51.1%）、40代（41.6%）で他の年齢と比べ高くなっている。「避難先で仕事を見つけているから」は、10～20代（41.5%）、30代（30.2%）で他の年齢と比べ高くなっている。

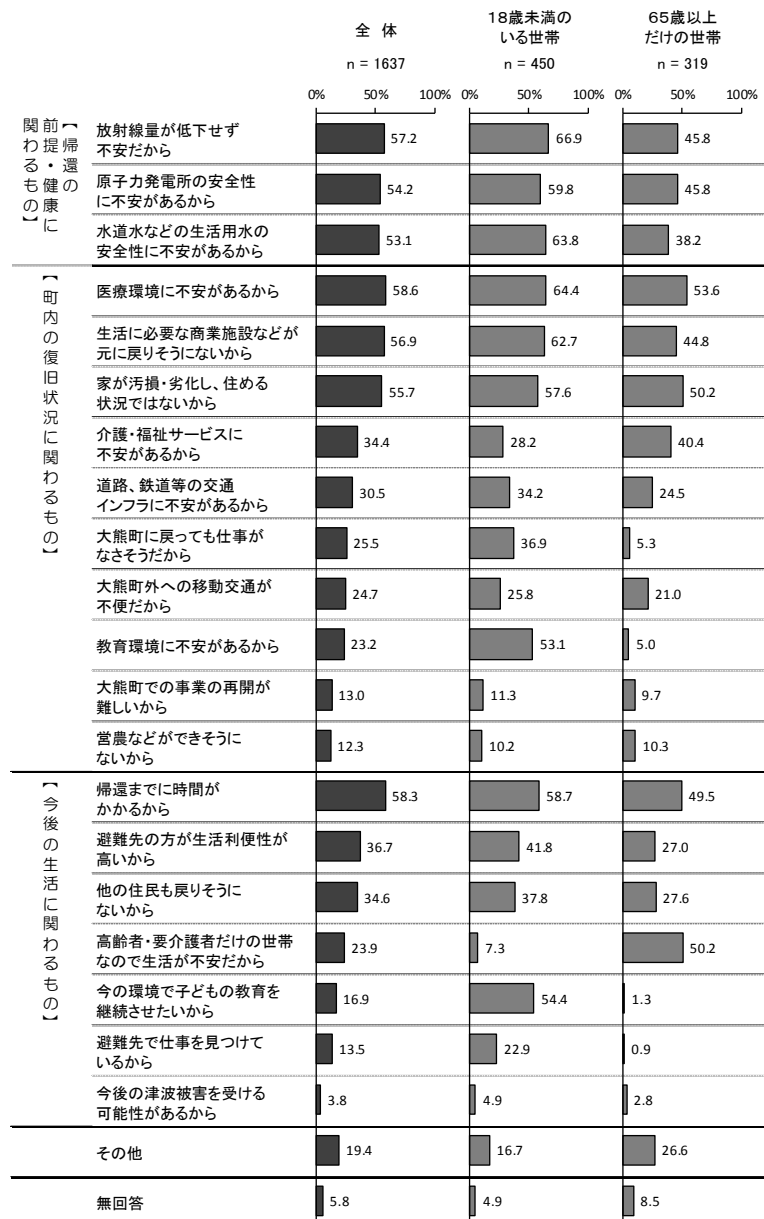
<図表3-3-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「放射線量が低下せず不安だから」、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が、18歳未満のいる世帯で6割前後となっており、全体と比べ高くなっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」は、18歳未満のいる世帯（64.4%）で全体と比べ高くなっている。「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は、18歳未満のいる世帯（62.7%）、で全体と比べ高くなっている。「教育環境に不安があるから」は、18歳未満のいる世帯（53.1%）が全体と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上だけの世帯（50.2%）で全体と比べ高くなっている。「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、18歳未満のいる世帯（54.4%）が全体と比べ高くなっている。

<図表3-3-9-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）>



3-4 意見・要望

問 10 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,280 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難生活の長期化への不安 元の生活が取り戻せるかどうかの不安 元の生活、安定した生活の回復 元の生活に戻ることにあきらめ 現在の生活の経済的な不安について 現在の生活の健康に関する不安について 現在の生活の仕事・学業に関する不安について 現在の生活全般の不安について 将来の生活の経済的な不安について 将来の生活の健康に関する不安について 将来の生活の仕事・学業に関する不安について 将来の生活全般の不安について 生活（再建）支援について その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> 除染作業の意義について 除染作業にかかる費用の他への活用について 除染作業の効果などについて 除染作業の実施箇所などについて 除染作業の早期・迅速・的確な実施について 除染作業スケジュール明確化について 中間貯蔵施設について その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰還困難区域への立入りについて 帰還困難区域等の設定について 所有する住まい・土地の買取りについて 自宅の現状（被害状況）について 自宅の再建・改築・解体について 元の住居や土地などの管理・処分について 元の住居や土地に対する税について その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> 復旧・復興の遅れ、長期化について 復旧・復興スケジュールについて 復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について 町村合併について ライフライン・インフラの整備について 社会福祉施設の整備について 医療施設の復興・充実 学校の復興・充実 商業の復興・充実 住民の参加・自助努力について 早期の原状回復・復興実現について その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> 賠償内容・方法について 賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について その他所有する住まい・土地に対する賠償について その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃炉作業の迅速な実施について 廃炉作業全般について その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰還への不安 帰還可能時期の明確化について 帰還したい 帰還しない 現時点では期間の判断ができない 帰還に関する施策について 帰還を望まない人への対応について その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政や東電の対応について 対応の長期化、遅れについて 情報の開示・発信について 中長期的スケジュールについて その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> 復興公営住宅の早期・迅速な建設について 復興公営住宅の建設地・形態等について 復興公営住宅に係る経済的負担について 復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 復興公営住宅への入居について 居住場所の確保について 借上げ住宅について 住居の購入について その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後のエネルギー政策について 行政に対する謝意、励まし その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

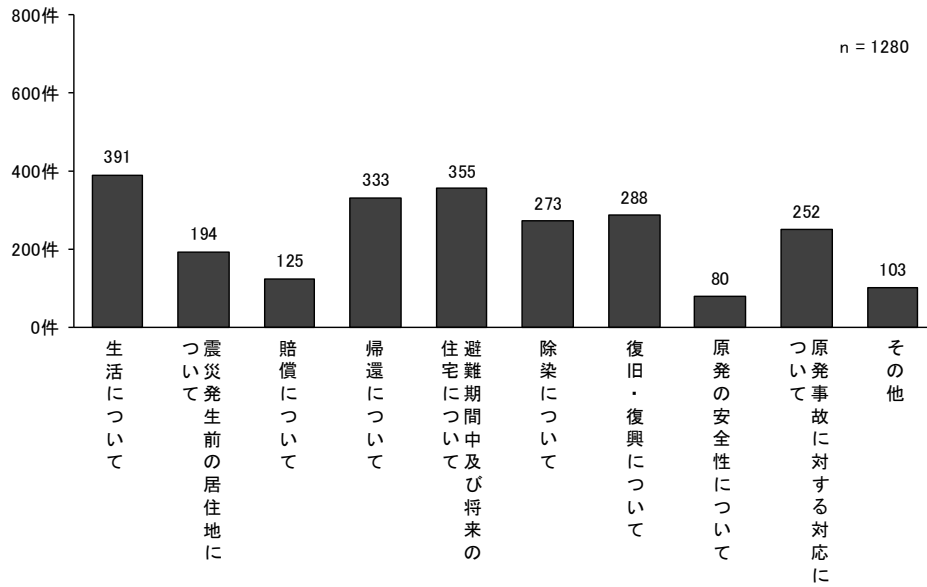
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が391件と最も多く、次いで「避難期間中及び将来の住宅について」が355件、「帰還について」が333件などとなっている。

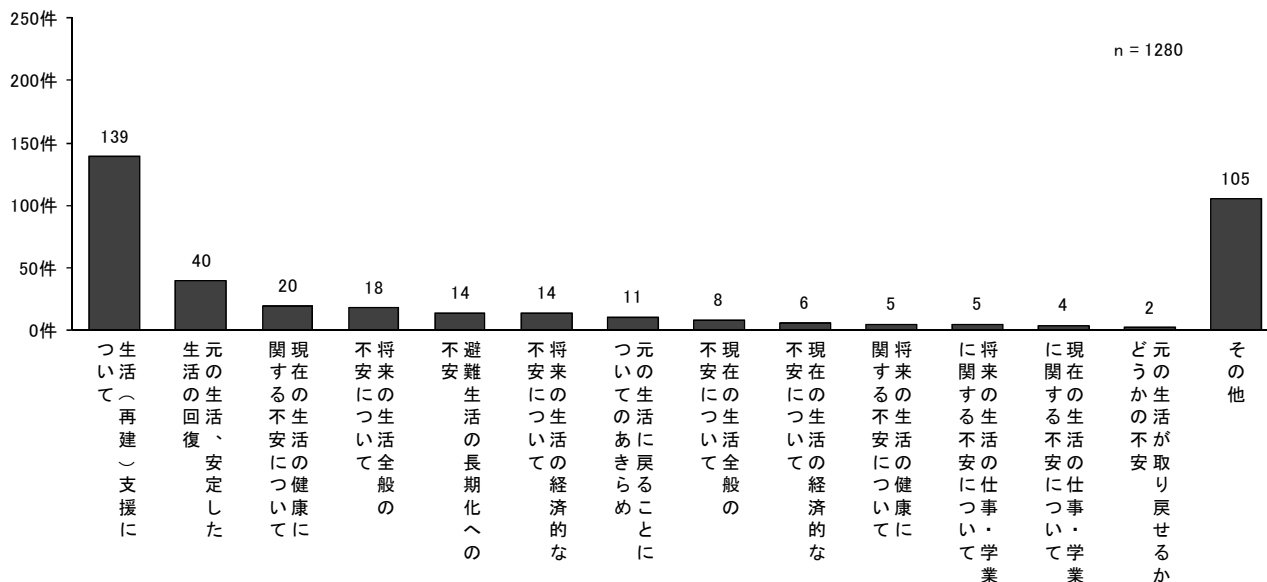
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が139件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が40件、「現在の生活の健康に関する不安について」が20件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- ・復興公営住宅が完成し入居が決定となれば、また移動することが必須でその為に仕事も変えなければならぬ人も出ると思う。早期にそれぞれが生活基盤を作れるよう何らかの支援をお願いしたい。(30代)
- ・全国各地、天災によって苦しんでいる方々が大勢いるというのに…大熊・双葉町民に対する援助は、手厚すぎる。もう少し、自立心を促しても良いのではないかな？(40代)
- ・高齢の方への住居の提供、安定した生活を送れるよう援助してほしい。様々な対策において、生活弱者がきちんと生活していけるきめ細かな対応をしてほしいと思う。(30代)
- ・復興公営住宅が整備される、市町村に、役場の出張所を開所してほしい。今のままでは、不便。(40代)

【元の生活、安定した生活の回復】

- ・住民が安心して且つ安全に暮らせる事が全てだと思います。(50代)
- ・高齢であり、今後、知らない土地での生活には不安がある。しかし、大熊町に戻って生活できるようになるまでには相当な年月が必要だと考える。生きているうちに戻れるだろうか？(70代以上)
- ・老い先が何年になるかわからない中、進行が遅く、待ちくたびれた。一日でも早く精神的に安定した生活を送りたく、我家を別地に持つ決心をした。(60代)
- ・一日も早く落ちつく事が出来る様をお願いしたいです。(60代)

【現在の生活の健康に関する不安について】

- ・避難して、もう3年半です。不自由な生活をしいられ、健康に不安を感じ、病院通いをしながらの生活。(60代)
- ・妻(83才)が急に体力が減退。娘の手を借りないと生活が大変となる。現在、朝、夕、支援してもらっている。(70代以上)

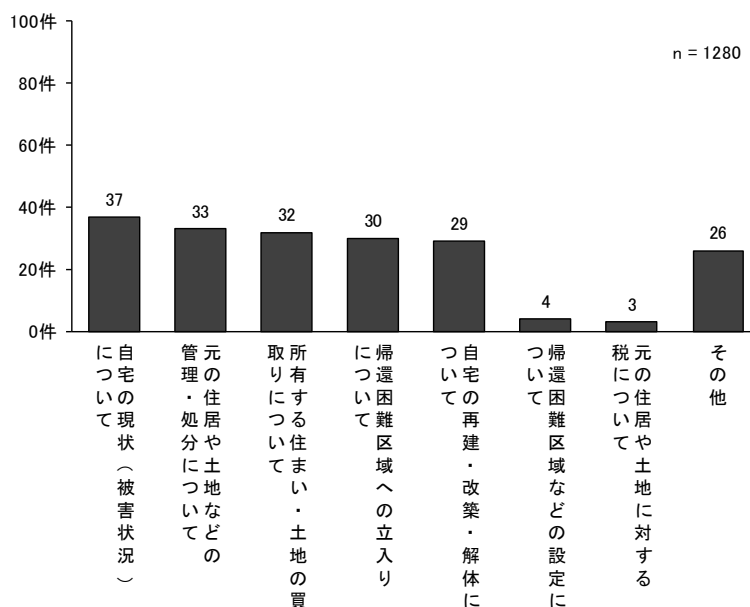
Ⅲ 調査結果

- 会津で生活をはじめて3年目ですが、大熊と空気が全く違うので、気付いたら体調がおかしくなってきました。『かみしめ呑気症』と『過呼吸』が辛いです。(30代)
- 震災前は築10年の持ち家、借地にすんでいたが、現在はアパート(エレベーターなし)の4階にすんでいる。夫婦共体調が悪く、階段を上がるのが苦痛になっている。精神的にもうつ状態で、震災前のように庭いじりや車の手入れができる環境にし、精神的、肉体的にも改善したい。(40代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が37件と最も多く、次いで「元の住居や土地などの管理・処分について」が33件、「所有する住まい・土地の買取りについて」が32件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- 未だ線量が高く、室内もカビとねずみの糞と住処になっている。また、雨漏りと天井板も落ちている状態で住める所ではない。(50代)
- 一時帰宅の際、お墓はキレイに除染整備されているが自宅となると草に覆われ足の踏み場もなく、また、国道から自宅までの経路は草だらけ、庭先から足袋を履いて室内へ土足で入るといった状況は変りなく改善されず大変不愉快です。(50代)
- 家はもはや空き巣に入れ、動物も入り、中も外もボロボロでとても住める状態ではない。(10～20代)
- 長年住み慣れ、愛着のある自宅が、雨漏り、ネズミ、カビなどで荒れ果て、朽ちていく姿を見ていくのは忍びない。(60代)

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 一時立入りのたびに家の劣化が加速しており、処分の段取りを考えている。(60代)
- 大熊町に戻らないつもりなので、今後、大熊町に所有する、自宅と土地はどうなるのか、また、どうしたら良いのか分からないので方向性を示してほしい。(60代)
- 住めない家をいつまでも持っていては仕方がないので早く最終的にどうするか考えてもらいたい。人生いつどこでどうなるかわからないので整理をしたい。(70代以上)
- 持ち家や土地が荒廃していて今後の管理が不安。除草など、年に2回以上作業が必要。一時帰宅して内外を管理するのは1～2か月に1度は必要。家はそのまま放置しておけば、今現在においても、居住は不可能。ネズミ等のフン、雨もり、外からつる植物の進入等がある。家の撤去に助成があるようだが業者が見つからない。家及び土地の管理について何らかの施策が必要と思う。(40代)

Ⅲ 調査結果

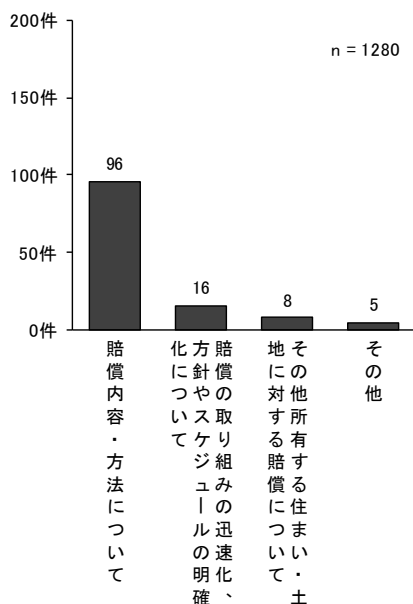
[所有する住まい・土地の買取りについて]

- 大熊町の自宅宅地を将来は売却したいが国、町は買ってくれるのか、教えてほしい。(60代)
- 自分は帰れないと思っているので、大熊町にある家を早く国で買い取ってもらいたい。(30代)
- 大熊の土地、約150坪と家(築1年ちょっと)がありますが、これからどうなるのか。帰れないし帰る気も段々無くなってきた。今後この不動産がどうなるのか、どうしたら良いのか分からない。東京電力に買ってもらいたいと思っている。(60代)
- 六号線の西側の帰宅困難区域の土地や建物も、国か町で買い取ってほしい。(50代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が96件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が16件、「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が8件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 東京電力関係者ということで、大熊町住民でありながら東京電力からの賠償が打ち切られている。避難生活を送っていることに変わりはないので、全ての被災者と同様の扱いとしていただけないと、生活再建が成り立たない。(30代)
- 東電の原発漏れで、一生帰れない場所になってしまい、人生を狂わされた事を真摯に受けとめ、きちんとした賠償をしてほしいと強く望む。(60代)
- 東京電力の賠償額が低すぎて、今後の生活のビジョンが立てられない。(40代)
- 住居確保に掛かる費用の賠償が始まった。この賠償が始まる前に購入した人と平等にする為にも、賠償可能残額を購入の有無に関わらず、支払ってほしい。(30代)

[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- 垂れ流しの賠償に区切りを付けて、払うものを払って早く終わらせて欲しい。断わるものについても恐れずにNOと言うべき。早く避難民から脱出して普通の市民になりたい。(60代)
- 帰還よりも、他の土地での生活再建や計画ができるよう、賠償のあり方、補償の約束を速やかに行っていたきたい。除染よりもこれからの生活をこれからの土地で。(年齢不明)
- 賠償の問題、国、自治体としての今後の方針等を迅速に、かつ住民が納得をいく様に進めて行ってほしい。(30代)
- 国の賠償をはっきりしてほしい。(50代)

[その他所有する住まい・土地に対する賠償について]

- とにかく避難している期間が長すぎるので、1日も早く家屋の補償をしてもらって、新しい土地で生活をやり直したい。(40代)

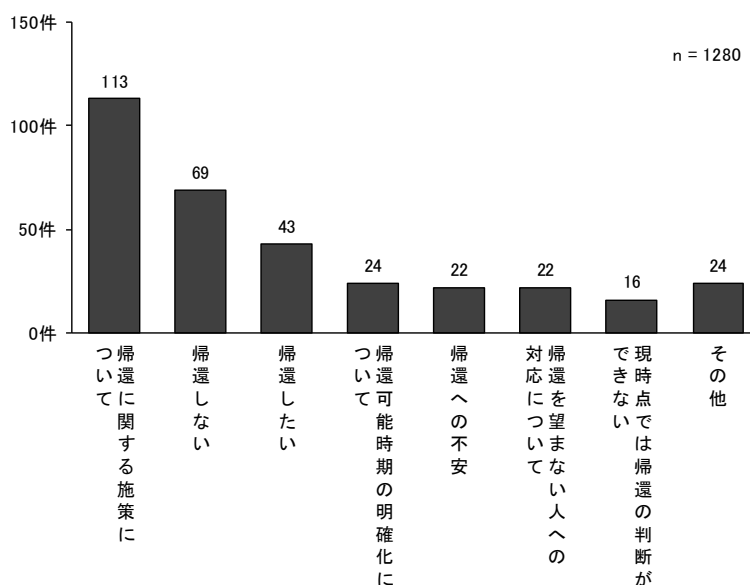
Ⅲ 調査結果

- 宅地、建物、土地（畑、山林など）について、しっかり賠償してほしい。自分の家があっても帰れない。東電の社員も経験してほしい。（70代以上）
- 大熊町に帰らない場合の具体的な家や土地の補償について、現状のまま数十年手を付けないでおくのは不安である。希望を取ってどのような方法を考えているのか、整備等をする案を示してほしい。（60代）
- 戻らないと決めて移住した者であって、中間貯蔵建設地以外に登録している地権者は、どのような補償（賠償）がされるのか？（50代）

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が113件と最も多く、次いで「帰還しない」が69件、「帰還したい」が43件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- なぜ国・自治体とも、事故を矮小化して住民を帰そうとするのか。事故前の空間線量当量が正常なのに、線量が高くても住めるとなぜいえるのか？（50代）
- 除染完了・中間貯蔵施設建設および撤去、電気やガス、水道等のインフラ復旧、商業施設や病院、教育施設をどこにつくってどの様なあり方にするかなど、タイムスケジュールがはっきりせず家族の生活基盤をどうするか判断（選択）する材料がない状況です。時間が経てば経つほど若い世代を中心に大熊町へ戻る人が減っていくと思います。難しいかと思いますが、帰還までのタイムスケジュールを示していただきたい。（40代）
- 正直、大熊町は大部分が帰還する事が難しいと思う。「帰れるまで」、「取り戻す」など、無理なフレーズを並べるのではなく、本当に帰れる所と、もう帰れない所を明確にする時期に来ているのではないか。誰かが、「もう戻れません」と言わなければ、先に進まないと思っている。（年齢不明）
- 帰還できるかできないかハッキリ言ってもらいたい。そうすれば個人的に考えがハッキリしてくると思う。個人的には帰還は無理だと思うが。（70代以上）

[帰還しない]

- 避難生活も2年を過ぎる頃から、戻りたいという気持ちが薄れ、現在は戻らないと決めている。（50代）
- 震災当時は、大熊町に住んでいました。現実的に考えると、原発や放射能等戻れる訳がない。（40代）
- 高濃度放射線量が高いため、戻る気は無い。安全、安心に暮らす事ができないため、戻らないと決めている。（50代）
- 子ども達や自分、妻も含め、避難先で新しい友達、人間関係ができてしまっている。やっと今の生活が落ち着いてきたのに、何十年か先に戻ってこいと言われても無理だと思う。その頃には自分も50才を越えているだろうし、大熊や相双地区で仕事が見つかるとは思えない。（40代）

Ⅲ 調査結果

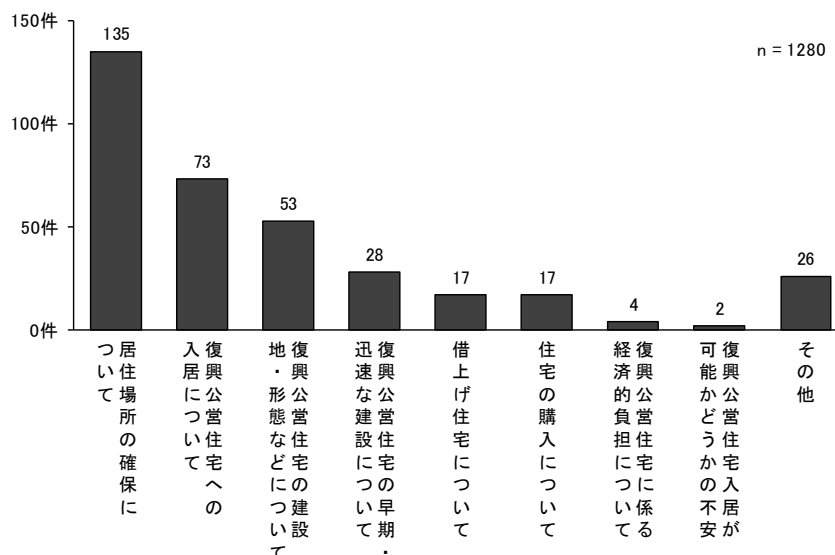
〔帰還したい〕

- いつか必ず、大熊町に戻りたい。若い自分達でできることは沢山あると思う。大熊町が廃っていくのを、ただ指をくわえて見ているだけじゃなく、復興に全力で取り組みたい。生まれ育ったこの町を、「元の大熊町」じゃなく、もっと「ここに住みたい」と思われるような町にしたい。(10~20代)
- 大熊は好きな町だった。いろんな所をまわりそれがはっきりと分かった。やはりできれば自宅に戻って自分の命が終わるまで暮らしたい。もう年なのでどこへも行きたくない。自宅に戻りたい。よろしくお願い致します。(60代)
- 戻れるようになれば、戻れるようになった地域に住み、その後自宅に戻れるまで待ちたい。(50代)
- 何年かかるかわからないが、先祖からの土地なので、いつか戻りたいし、手放したくない。(40代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が135件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が73件、「復興公営住宅の建設地・形態などについて」が53件などとなっている。

＜図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 公営住宅を建てても、人が住まなければ税金の無駄だと思う。現在の避難先にあるアパートやマンションを町村が借り上げるなどしてリフォームする方が、ある程度の世帯数をすぐに確保できると思う。仮設住宅での生活は、環境がとても悪いと思うので、町村が柔軟に対応される事を強く望む。今までにない災害なので他県の例にならうのではなく、独自に住民のために考えた案を率先して行ってほしい。(30代)
- 震災後半年で仮設住宅に入居したときは復興公営住宅の入居を希望し待っていたが、3年以上経過し建設地が近くにも無く、いつ入れるかも分からないとなると、自分で土地を探して進めていくしかないと考えようになった。(30代)
- 復興公営住宅ばかりでなく高騰している、いわき、郡山、福島などにそれぞれの土地を提供して欲しい(自分達の好きな場所の)。子ども達がいつでも帰って来られる場を早く作りたい。それぞれの生活の違いがあるので思った様にはいかない。一生住む場でありたいので。(50代)
- 私の今の気持ちは、復興公営住宅にするか新しい家を大熊以外に建てるか、土地を探していますがまだ決められない。土地がすごく高いため。これからもどんどん高くなると言われている。早く決めて家を建てた方が良いのかあせている。(60代)

【復興公営住宅への入居について】

- 第一回目から復興公営住宅に入る予定だったが、ペットを飼っている人はダメだったので申し込みができなかった。私は犬と猫を飼っている。私達にとってはペットも家族。ペットを飼っている人は戸建住宅にするとか考えてほしい。(60代)
- 復興公営住宅の募集についての詳しい情報を知りたい(現在は地図と募集戸数しか分からない)。おおざっぱすぎて判断に困る(例。スーパーが近くにあるとか、駅まで何kmとか、病院など)。(40代)

Ⅲ 調査結果

- 復興住宅については希望しても入居できない。何回順番待ちをすれば良いのか。人気の場所はすぐにいっぱいになり、とんでもなく町外れや子どもの学校等を考えると復興住宅には入居できない。(40代)
- 復興住宅への入居が遅い。もっと早く来年度中に全員が入れるようにしてほしい。(60代)

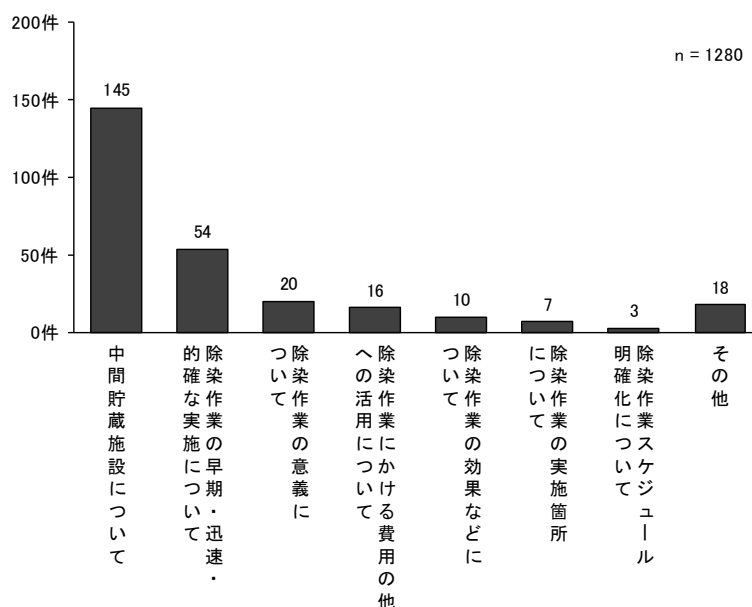
[復興公営住宅の建設地・形態などについて]

- 現在の復興住宅の予定で第1期の申込み状況等を見ると、会津や郡山も必要ですが、不足が予測できるいわき市に多く作る様に変更検討されてはいかがか。実際三期まで再々募集したのだから、場所や数量等の再考が当然に思えるが、いかがですか。(60代)
- 復興公営住宅のモデルハウスを見学した。キッチンの狭さ、居室の中途半端な広さ、本当に住む私達の事を考えての設計かと悲しくなった。借家なので修繕等の際も工事範囲が小さく済むとの事だが、キッチンの傍にトイレ、台所にはほとんど家具(戸棚)も置けない様であった。(60代)
- 福島県にばかり復興住宅を建てるのではなく、避難先にも復興住宅を建てるべきではないか。(40代)
- 集合住宅は無理だと思う。戸建を希望しますが不便な所では生活が大変。現在は自動車の運転をしていますが、何年後まで運転する事ができるか分からない。できる事なら広野町に復興住宅を建設して下さる事を希望する。(70代以上)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「中間貯蔵施設について」が145件と最も多く、次いで、「除染作業の早期・迅速・適確な実施について」が54件、「除染作業の意義について」が20件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【中間貯蔵施設について】

- 他の町のためにも、早急に中間貯蔵施設を進めてほしい。今となっては仕方がない。過去を振り帰らず、前向きに生きたい。(年齢不明)
- 県内の復旧・復興の目途をつけるためにも、早急に中間貯蔵所整備が必要。地元(大熊・双葉)は原発の恩恵を受けて来たはず。他の市町村に迷惑をかけないためにも予定地での早急な建設・搬入が急務と思う。(50代)
- これから中間貯蔵施設ができ、そこへの運搬が始まっていくと思われるが、町中を運搬車両が走る事になれば危険をとまなう事にもなり、放射性物質等の心配も新たに出てくるのではないかと思う。(50代)
- 夫沢1区で中間貯蔵施設が30年後最終処分場になると思う。どこの地域でも処分場に反対しているため、1度汚染された土地に作物を作る事はできない。また新しい土地を汚染する事は許されないし、これからの若い世代に汚染土地を残すことはやるべきではない。(60代)

【除染作業の早期・迅速・適確な実施について】

- 放射線量0.23以下にしてほしい。元の所に帰れるか、帰ることができるかはっきりしてほしい。金はいらないから元に戻してほしい。大熊の土地、家、面積がほしい。自分で作った米が食べたい。(60代)
- 除染は回数を1回とか2回とか決めないで、何回でも線量によって行ってほしい。(70代以上)
- 除染は完全なものにしてもらいたい。再除染などあってはならない。(70代以上)
- 大熊町の除染を早くやってほしい。どうせ戻れないから除染はやらなくてもいいと考えている方もいる様だが、一度は除染をしてどの程度線量が下がるか、ぜひやってほしい。(60代)

【除染作業の意義について】

- 中間貯蔵が近いので、ムダな除染はやめるべきだ。(50代)
- チェルノブイリでの原発事故後の事を思えば、人件費と除染費用を掛けて除染をしてもムダなような気がする。(40代)

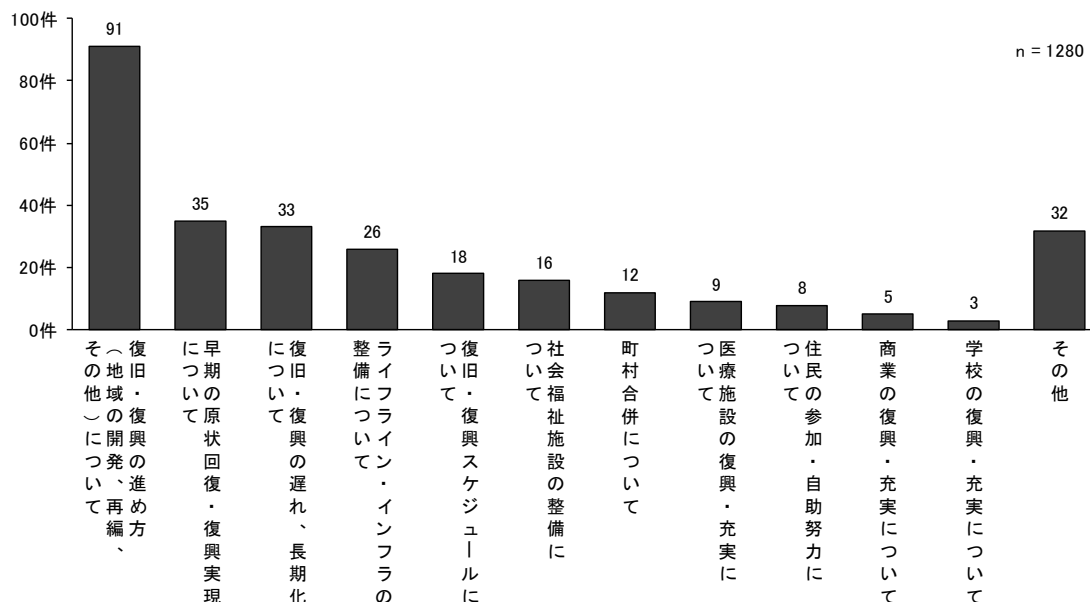
Ⅲ 調査結果

- 除染を行っているが、本当にほとんどの人が戻るのか疑問であり、申し訳ないですが、今やられていることは意味があることなのでしょうか。(30代)
- 帰る人がどれだけいるのかを踏まえて、除染が本当に必要なのかを考えて欲しい。除染をする事で、安心して生活できる様になるのかも正直信じる事ができない。(40代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが91件と最も多く、次いで「早期の原状回復・復興実現について」が35件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が33件などとなっている。

＜図表3-4-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 国への要望も重要であるが、今後は双葉郡全体としてどのような復興しようとするのかを町単位より前に県を中心に、双葉は一つの方針を持って計画を立ててはどうか。町単独の考えを捨て、共同で進める双葉郡構想を推進して、新しい町を作ってほしいと考えている。(60代)
- 大熊町としての復興とは何なのだろうか。何十年後かに、また元の土地に元の住民を集めて町として復興することなのか。だとしたら、それは不可能ではないか。それでは一体どんなビジョンを立てているのか。それは、本気なのか。国としての大きなビジョンを立てて、もっとハッキリ私達に未来を指し示して頂きたい。(60代)
- 県、町村主体の復興計画のまま、我々住民の意見がほとんど反映されず、復興が進んでいるように思われる。原発のこと、復興のこと、避難生活を強いられている住民に対して、より細かい説明、意見交換を求める。(50代)
- 大熊町は、原発で働く人のための街に特化して復興を考えるべきと個人的に考える。(40代)

【早期の原状回復・復興実現について】

- 国、県、大熊町と復興に全力で立向っている姿勢は分かりますが、何せ目に見えないやっかいな物ゆえ、先が見えない。一日でも早い復興を望む。(70代以上)
- 復興拠点としての大川原地区の整備をできるだけ早くしていただきたい。(70代以上)
- 私たち家族は年齢的に残り時間が少なく、復興のスピードが目に見えるような対応をお願いし、震災前の故郷を取り戻していただきたい。(60代)
- 現時点では、自分の身の振り方もまだ決めていない。復興の進行度合によってからと思っている。一日でも早い復興をお願いしたい。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

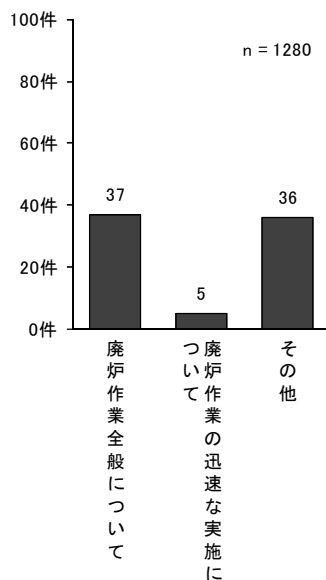
[復旧・復興の遅れ、長期化について]

- 他県に比べて復興が遅れている本県。人材が少ない（除染に、人材が流れている）ので、建設関連に人が集まらず、仕事が思うように進まない。国の支援で何とかならないか。（40代）
- 復興にスピード感が感じられない。（50代）
- 復興のスピードが遅すぎる。事業の許認可などは通常よりも早めてほしい。（40代）
- 現在の状態では復興対策が遅く、このまま忘れ去られて行くような不安感がある。具体的な方針を早く出してほしい。（70代以上）

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が37件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が5件などとなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業全般について]

- 大熊町は東京電力によって多大な恩恵を受けていたはず。建設された原子力発電所を廃炉するのは国、各自治体も建設も廃炉も一体である。設置を承認した以上、終末も考えた上での認可ではなかったのか。(70代以上)
- 国や東電は、原発の廃炉まで30年程度と考えている様だが、30年後に廃炉に出来ると本当に思っているのか。チェルノブイリと同じ様に、最終的には冷却を続ける事までしか出来ないのではないのか。理想と現実は大分差があると思う。(30代)
- 原発の燃料は本当に取り出せるのか。もし取り出したとして、その後どう処理するのか不安である。(60代)
- あせらず安全最優先で廃炉へ向かっていただきたい。経験の無い事が新たに起こり得ることから、国や県、地元の温かい支援、理解も必要と考えている。(60代)

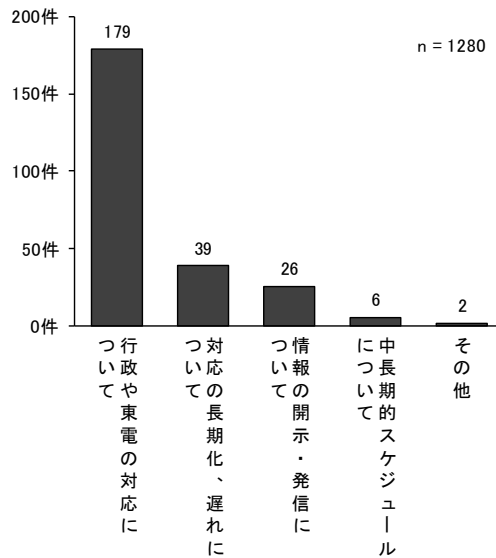
[廃炉作業の迅速な実施について]

- 早く1Fを安定させ、安全を確保してほしい。(40代)
- 安全な原発廃炉の収束を早期に。(70代以上)
- 復興にあたっては、福島第一だけではなく、福島第二の廃炉決定を早期に望む。(40代)
- 廃炉のスピード化をしないと帰還の意気が下がってしまう。(50代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が179件と最も多く、次いで「対応の長期化、遅れについて」が39件、「情報の開示・発信について」が26件などとなっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政や東電の対応について]

- ・復興庁は都内や福島市に事務所を設置していますが、各町村の復興状況が分かるのか。復興させるのなら各町村に事務所を設置し、復興に何をしなければいけないのか現場を見ながら行うのが復興ではないのか。(50代)
- ・国、県、町は、上から目線で話をするのではなく、住民の目線になり住民の話を聞きながら計画を出してほしい。計画を決めてから住民に話をするのは間違いだ。(40代)
- ・もっと国が前面に立って、大熊町とその周辺町村の復興を考えてほしい。また、具体的に大熊町をどのようにしたいのかが見えてこない。(50代)
- ・今さらではあるが、双葉郡8町村がまとまっていない。各町村バラバラに進んでいる。双葉郡はもちろんであるが、福島県全体としての復興を東電や国に働きかける力量が足りない。県がもっと全面に出て強い意見要望を行なってほしい(補償も含め)。(60代)

[対応の長期化、遅れについて]

- ・何をやるにも遅いし、決まらない。住民のためとか言っているけど、結局は役所仕事で私たちの思いは届かないのが現実なのではないか。(40代)
- ・被災して3年余り、仮設住宅の建設は早かったと思うが、その後はなかなか前に進まない状況にある。やるべき仕事如山積しているが一向に前に進まないのは何があるのか。町の復興の順序や人が戻るのに第一に必要な所より一つ一つ出来る所から進めて行く様に国や県に働きかけ、要望を強く働きかけて行って欲しい。(70代以上)
- ・原発災害は日本で初めてとはいえ、国、東京電力からの、指示や結論が遅すぎる。(30代)
- ・何といたっても町の対応は遅いし、我々借上げ住宅にいる者には町が何をしているのか、どう動いているのか見えてきていない。議会もしかり。(60代)

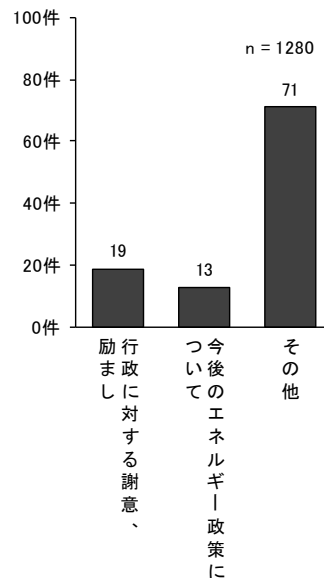
【情報の開示・発信について】

- このままだと年をとって行くばかりで先行が見えない。やはり町民に「今現在町はこのような事を」と町民が安心出来るような事を何ヶ月かに1度説明してほしい。(60代)
- 国や町からの情報より、テレビ、新聞の方が早すぎてとまどう事がある。(50代)
- 国や自治体の説明や行動が、町民が思っている事とちぐはぐになっている。いろいろな説明も後手になっているのできちんと納得がいく様に説明などしてほしい。(60代)
- 事故のあった原発が、今もって事故原因の調査もできず、汚染水など全くコントロールできていない現状を、国や自治体は住民の方々に分かりやすく伝えて欲しい。起こっている現状をきちんと伝えてこそ、私はこの先どうすれば良いのか、考える事ができるのではないかと思う。子どもの健康診断の結果を親にきっちり説明しないような国の方針を、町は許しておくべきではない。起きている事を伝えないという状況で、復旧、復興という言葉を見聞きするにつけ、怒りと悲しみでいっぱいになる。(70代以上)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が19件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が13件などとなっている。

〈図表3-4-11 その他についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔行政に対する謝意、励まし〕

- 日々、復興に従事している人々やNPO法人で自主的に推進している人々、自治体で仕事をされている方々、本当に御苦労様です。(60代)
- 現在県外にお世話になっておりますが、国や自治体の心あたたまご支援に心から感謝いたしております。1日も早い復興を祈っております。(70代以上)
- ニュースなどで、大熊町の方が町内で頑張っている姿を見ました。少し明るい未来があるのかと感じました。しかし、課題が山積みで不安な面も感じました。直接お手伝いはできませんが、頑張って下さい。(30代)
- 大熊町の行政関係者が震災直後より踏ん張っていただき、感謝しています。行政サービスを受けることができ、一町民としての歩みができること。特に経済的なサポートを受けることができていること。本当に感謝です。これからも、よろしくお願いします。(60代)

〔今後のエネルギー政策について〕

- 国内の原発を稼働させるなどもってのほかである。我々のような避難者を二度と出してはいけない。目に見えない恐怖がどんなものか経験してみしてほしい。(60代)
- 国と東京電力が、原発事故の責任をはっきりと自覚した言動をすることを再度要望したい。再稼働や原発の輸出などはとんでもないことだ。(70代以上)
- 原発は一旦暴走すると現在の技術では手をつけられない事が明確になった。小泉元首相が言うように地震大国の日本では原発は国を滅ぼす恐怖がある。国は原発再稼働に突き進んでいるが、福島原発を忘れた感じがする。目先の経済ではなく日本の安全、安心に向け、県内市町村や県が国に対し、全国の原発を再稼働しない様に強く働きかけて欲しい。国も原発に絶対安全は無いことを、事故を起せば国が滅ぶことを考えて欲しい。(70代以上)
- 国も古くなった原発をいつまでも使っていた怠慢を反省し、自然災害とはいえ電源を二重にも三重にも確保し、二度と同じ過ちを起こすことのない事を願うばかりである。(50代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

大熊町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、大熊町に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。

ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている問には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

・調査票は記名式でお願いしております。最終ページ「氏名」、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いします。

➤ 個人情報について

・調査票に記載いただいた個人情報は、大熊町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。

・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**10月3日（金）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-955-445
[設置期間：9月19日（金）～10月3日（金）10時～17時]
土・日・祝を除く

復興公営住宅について

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 生活拠点課
Tel 024-521-8618

大熊町に関することについて

大熊町

〒965-0873 福島県大熊町会津若松市追手町2番41号
会津若松出張所 企画調整課
Tel 0242-26-3844

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問3へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問3へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問3へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 公務員 |) |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|----------|-----------|---------|--------------------------|
| 1. 中屋敷 | 7. 大野 1 | 13. 熊 3 | 19. 夫沢 1 |
| 2. 野上 1 | 8. 大野 2 | 14. 町 | 20. 夫沢 2 |
| 3. 野上 2 | 9. 大川原 1 | 15. 熊川 | 21. 夫沢 3 |
| 4. 下野上 1 | 10. 大川原 2 | 16. 野馬形 | 22. その他 |
| 5. 下野上 2 | 11. 熊 1 | 17. 小入野 | (わからない場合住所
を記載してください) |
| 6. 下野上 3 | 12. 熊 2 | 18. 大和久 | [] |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 [具体的に] |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

避難状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町</p>	<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町</p> <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; display: inline-block;"></div> (市・町・村)
		<p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; display: inline-block;"></div> (都・道・府・県) <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; display: inline-block;"></div> (市・町・村)

【すべての方にかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

【すべての方にかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

復興公営住宅など今後の避難期間中の居留意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

※この質問で、入居申し込みや入居の確約を行うものではありません。

1. 既に当選または入居が決定している	} ⇒問 8-1 へ
2. 入居の申し込み中である	
3. 今後、入居申し込みしたい	
4. 現時点では判断できない ⇒問 9 へ	
5. 入居を希望しない ⇒問 8-4 へ	

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方(問8で「1」、「2」、「3」と回答した方)にうかがいます。】

問 8-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

(1)自治体名を教えてください。

		<1世帯目> (○は1つ)	<2世帯目> ※1 (○は1つ)
復興公営住宅(生活拠点)を整備中又は検討中の市町村	1. 福島市	1	1
	2. 会津若松市	2	2
	3. 郡山市	3	3
	4. いわき市	4	4
	5. 白河市	5	5
	6. 二本松市	6	6
	7. 田村市	7	7
	8. 南相馬市	8	8
	9. 本宮市	9	9
	10. 三春町	10	10
	11. 広野町	11	11
現在受入の計画がない市町村	12. 川内村	12	12
	13. 楡葉町	13	13
14. その他の市町村 ※2	14()	14()	
15. 分散して入居しない		15	

※1 家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方(希望も含む。)は、<2世帯目>の列にもお答えください。

※2 14. を選択した場合は、()内に具体的にご希望の市町村名を記入してください。

(2)入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

※現在、分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

	<1世帯目>	<2世帯目>
ア)未就学児(小学校入学前)	人	人
イ)小学生	人	人
ウ)中学生	人	人
エ)15歳以上 18歳未満(中学生を除く)	人	人
オ)18歳以上 65歳未満	人	人
カ)65歳以上	人	人

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

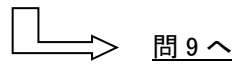
問 8-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等の開催 | 4. 子どもの学習支援 |
| 2. 地元住民との交流会等の開催 | 5. 健康相談員の設置 |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) | 6. その他〔具体的に |

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 8-3 現在、ペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

1. 室内で犬を飼っている
2. 室外で犬を飼っている
3. 猫を飼っている
4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に
5. ペットは飼っていない



【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-4 入居を希望しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(〇は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村

→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外 →具体的にご記入ください

(都・道・府・県) (市・町・村)

【 その他 】

26. 決めかねている

【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

問 8-5 今後の住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

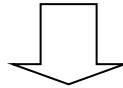
- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他(具体的に |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 10. 現在のお住まい |
| 5. 公営住宅 | 11. 現時点では判断できない |
| 6. 給与住宅(社宅など) | |

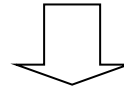
将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 9 将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) 2. まだ判断がつかない

 「1.」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

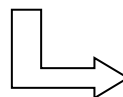
 「2.」
こちら

問 9-1-1 何年以内であれば待てますか。(○はひとつ)

1. 3年以内
2. 5年以内
3. 10年以内
4. 帰れるまで待つ

問 9-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。
(○はひとつ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. 現在検討しているところ
4. まだわからない

 問 9-4 へ

問 9-2-1 大熊町へ戻ることを判断する

1. 避難指示解除となる時期の目安
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する
7. 放射線の人体への影響に関する
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. その他(具体的に
12. 現時点で家族間の意見が分かれ
13. 現時点ではどのような情報があれ

問 9-2-2 上記「1」から「11」で重視し

選択肢番号	

問 9-3

1. そう思う
2. そう思わ
3. わからな

「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

3. 戻らないと決めている

を選んだ方のみ、
へお進みください

ために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

に関する情報
会基盤(インフラ)の復旧時期の目途

果の状況

情報(事故収束や廃炉の状況)
情報

)
ており、帰還意向について回答できない
ば判断できるかわからない

たいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

具体的な内容

「3。」を選んだ方は、
こちらへお進みください

大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

ない
い

問9で「2.現時点でまだ判断がつかない」を選んだ方は問10へ
問9で「3.現時点で戻らないと決めている」を選んだ方問9-7へ

【問 9 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 9-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------------------|---|----------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | } | ⇒問 9-6 へ |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | | ⇒問 9-5 へ |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | } | ⇒問 9-6 へ |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | | |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | | |
| 6. 公営住宅 | | |
| 7. 給与住宅(社宅など) | | |
| 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 | | |
| 9. 親戚・知人宅 | | |
| 10. その他 (具体的に | } | ⇒問 9-6 へ |
| 11. 現時点では判断できない | | |

【問 9-4 で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 9-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから |) |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | |
| 3. 大熊町内の新たな場所で生活を開始したいから | |
| 4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから | |
| 5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから | |
| 6. その他(具体的に | |

【問 9-4 に回答した方全員にうかがいます。】

問 9-6 大熊町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 被ばく低減対策 |) |
| 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | |
| 3. 商業施設の再開や新設 | |
| 4. 医療、介護福祉施設の再開や新設 | |
| 5. 学校や教育施設の再開や新設 | |
| 6. 公共交通機関の再開 | |
| 7. 雇用確保・就業支援 | |
| 8. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 | |
| 9. その他(具体的に | |
| 10. 特にない | |

⇒ 問 10 へ

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

4. 大熊町に戻っても仕事がなさそうだから
5. 大熊町での事業の再開が難しいから
6. 営農などができそうにないから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
8. 大熊町外への移動交通が不便だから
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
10. 医療環境に不安があるから
11. 介護・福祉サービスに不安があるから
12. 教育環境に不安があるから
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
15. 他の住民も戻りそうにないから
16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. その他

具体的に

【すべての方にうかがいます。】

問 10 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移り頂くことが重要と考えております。

入居を迷っている方などに今後の居住についてご意向をお聞きしたり、復興公営住宅の進捗に応じて、復興公営住宅への入居希望をお持ちの方に希望の状況について改めてお聞きしたりする場合がありますので、あなたの氏名と現在のご住所、ご連絡先をご記入いただけますと幸いです。

なお、本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見やご要望などをおうかがいすることを目的として実施しております。当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 あなたの氏名を教えてください

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月3日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**大熊町 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 大熊町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

